

編集復刻

（財）女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成 ②

防衛庁関係公表資料④

龍溪書舎

目次 (第二卷)

防衛庁関係公表資料(上)

一	軍慰安所従業婦等募集ニ関スル件〔陸軍省副官〕	(昭13・3・4)	3
二	戦時服務提要〔教育總監部本部長〕	(昭13・5・25)	9
三(一)	軍人軍隊ノ対住民行為ニ関スル注意ノ件〔北支那方面軍參謀長〕	(昭13・6・27)	21
三(二)	軍人軍隊ノ対住民行為ニ関スル注意ノ件〔北支那方面軍參謀長〕	(昭13・6・27)	27
四	慰安所ノ状況〔波集団司令部〕	(昭14・4)	37
五	支那事變ノ經驗ヨリ觀タル軍紀振作対策〔陸軍省副官〕	(昭15・9・19)	43
六	戰場生活ニ於ケル特異現象ト其対策〔早尾庸雄〕	(昭14・6)	55
七	支那事變ニ於ケル軍紀風紀ノ見地ヨリ觀察セル性病ニ就テ〔大本營陸軍部研究班〕	(昭15・10)	75
八	昭和一四年八月第二旬衛生旬報〔南支派遣軍軍医部〕	(昭14・8)	79
九	呂集團特務部月報〔昭15・4〕		93

一〇	政務月報〔遠藤兵団政務部〕(昭16・2)	109
一一(一)	昭和一六年一二月陸軍々人軍属非行表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭16)	119
一一(二)	昭和一六年一二月憲兵干与邦人(含、台鮮人)犯罪表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭16)	127
一二(三)	昭和一六年一二月陸軍々人軍属犯罪表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭16)	131
一二(四)	昭和一六年一二月陸軍々人軍属非行表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭16)	135
一二(五)	昭和一六年一二月憲兵関与邦人(含、台鮮人)犯罪表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭16)	139
一二	軍紀違犯者ノ件特別報告〔第13師団長〕(昭17・1)	143
一三	特別報告中軍人変死ノ件報告〔第13師団長〕(昭17・3)	147
一四	軍紀違犯事件詳報〔第11軍司令官〕(昭17・3・20)	151
一五	軍紀違犯事項ニ関スル件報告〔支那派遣軍總司令部〕(昭17・3・30)	157
一六一(一)	昭和一七年一月陸軍々人軍属犯罪表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭17)	161
一六一(二)	昭和一七年二月陸軍々人軍属犯罪表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭17)	165
一六一(三)	昭和一七年二月軍人軍属非行表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕(昭17)	169
一七	逃亡ニ関スル報告〔第22師団長〕(昭17・3・27)	175

一八	軍紀違犯事項報告〔第58師團長〕〔昭17・4・8〕	181
一九	陸軍軍事警察年報（昭和一六年）〔中支那派遣憲兵隊司令部〕〔昭17・5・3〕	183
二〇―（一）	昭和一七年四月陸軍々人軍属犯罪表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕〔昭17〕	187
二〇―（二）	昭和一七年四月陸軍々人軍属非行表〔中支那派遣憲兵隊司令部〕〔昭17〕	191
二一	軍法會議判決〔北支派遣軍〕〔昭17・5・5〕	195
二二	軍人ノ変死ニ関スル件報告〔第3飛行師団司令部〕〔昭和17〕	199
二三―（一）	南方派遣渡航者ニ関スル件〔台湾軍司令官〕〔昭17・3・12〕	203
二三―（二）	南方派遣渡航者ニ関スル件〔陸軍省副官〕〔昭17・3・16〕	205
二三―（三）	南方派遣渡航者ニ関スル件〔台湾軍參謀長〕〔昭17・6・13〕	207
二四―（一）	渡航手續ニ関スル件〔波集団參謀長〕〔昭17・11・12〕	209
二四―（二）	渡航手續ニ関スル件〔陸軍次官〕〔昭17・11・18〕	213
二五	戦時月報〔香港占領地總督部〕〔昭17・4〕	217
二六	香港ノ警備並ニ軍政実施ニ関スル香港占領地總督第二遣支艦隊司令長官間協定覚書〔昭17・5・4〕	221
二七	狀況報告〔獨立攻城重砲兵第2大隊長〕〔昭13・1・20〕	225
二八	獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌〔昭13・1・26〕	229

- 二九 独立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌(昭13・2・1、24、27)……………233
- 三〇 独立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌(昭13・3・3、11、14、16)……………241
- 三一 常州駐屯内務規定「独立攻城重砲兵第2大隊」(昭13・3・16)……………251
- 三二―(一) 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌四号(昭13・4・10)……………259
- 三二―(二) 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌八号(昭13・11)……………263
- 三二―(三) 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌一〇号(昭14・1)……………271
- 三二―(四) 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌一四号(昭和14・5)……………275
- 三二―(五) 第一四師團衛生隊担架第三中隊陣中日誌一六号(昭14・7)……………281
- 三二―(六) 第一四師團衛生隊担架第三中隊陣中日誌一七号(昭14・8)……………287
- 三三 第三兵站部向井支部陣中日誌(昭13・7・1)……………293
- 三四 第二軍狀況概要「第2軍司令部(中支武漢地区)」(昭13・12・10)……………297
- 三五―(一) 独立山砲兵第三連隊陣中日誌(昭14・1・7、4・23)……………305
- 三五―(二) 独立山砲兵第三連隊陣中日誌(昭14・6・7、30)……………311
- 三六 第一〇八師團第四野戰病院業務詳報「北警備隊」(昭14・6・12)……………321
- 三七 森川部隊特種慰安業務二関スル規定「森川部隊長」(昭14・11・14)……………327
- 三八 幹部二対スル衛生教育順序「北支那派遣軍甲集團軍医部」(昭15・11)……………337

三九	第一病院支那事変第八回功績概見表「第一病院長」(昭15・12・10)	347
四〇―(一)	歩兵第一一連隊第一大隊砲小队陣中日誌(昭16・1・16、5・3、6・20)	357
四〇―(二)	歩兵第一一連隊第一大隊砲小队陣中日誌(昭17・3・20、27)	365
四〇―(三)	歩兵第一一連隊第一大隊砲小队陣中日誌(昭17・4・3、5)	373
四一	独立山砲兵第三連隊陣中日誌(昭16・4・9)	377
四二	歩兵第一一連隊第七中隊陣中日誌(昭17・3・23、4・3)	381
四三	野戦高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌(昭17・4・3、5・14)	385
四四―(一)	父島要塞司令部参謀部陣中日誌(昭17・4・11、14、16)	391
四四―(二)	父島要塞司令部参謀部陣中日誌(昭17・5・9、12)	399
四五	歩兵第一一連隊第三中隊陣中日誌(昭17・4・24)	403
四六	独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌(昭17・4・30)	409
四七	クワラピラ・バハウ駐留規定「クワラピラ警備隊長」(昭17・4・25)	415

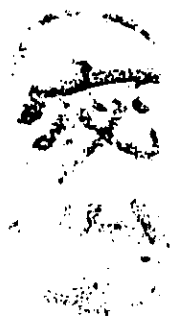
防衛庁関係公表資料(上)

①軍慰安所従業婦等募集ニ關スル件 [陸軍省副官] (昭13・3・4)

昭和十三年

支受大日記

陸軍省



(裁決)行決後 長(部)局		帶 長(部)局		逕		 決行指定  決裁指定  保存期限	
				大 臣		受 番 價 號	
				委		軍慰安所従業婦等募集ニ關スル件  陸文陸集二一九七號 起元題(課名)	
				政務次官		兵 務 課	
長 課		長 課		長局務主官 		官副級高 	
				長課務主 		官典政 書記官	
				副官 			
				課務主 			
				課務主 			
				大 臣 官 房 受 領 出 出 昭 和 昭 和 年 年 三 月 十 日 		主 務 局 課 受 領 出 出 昭 和 昭 和 年 年 三 月 四 日 	

以
以

陸支密

副官ヲ北支方面軍及中支駐屯軍

派遣

考謀長宛通牒案

支那事變地ニ於テ慰安所設置ノ爲内地ニ於テ
 之カ從業婦等ヲ募集スルニ當リ故ニ軍部諒解
 等ノ名儀ヲ利用シ爲ニ軍ノ威信ヲ傷ツケ且ツ一
 般民ノ誤解ヲ招ク虞アルモノ或ハ從軍記者慰
 問者等ヲ以テ不統制ニ募集シ社會問題ヲ
 惹起スル虞アルモノ或ハ募集ニ任スル者ノ人選適
 切ヲ缺キ爲ニ募集ノ方法誘拐ニ類シ警察當局
 ニ檢舉ヲ取調ヲ受クルモノアル等注意ヲ要スルモノ
 少カラサルニ就テハ將來是等ノ募集等ニ當リテハ
 派遣軍ニ於テ統制シ之ニ任スル人物ノ選定ヲ
 周到適切ニシ其實施ニ當リテハ關係地方ノ憲

兵及警察當局トノ連繫ヲ密ニシテ
 軍ノ威信保持上此ノ社會問題上遺漏ナキ
 標配處相成度依命通牒ス

陸支密第七四五號

昭和三年三月四日(土)



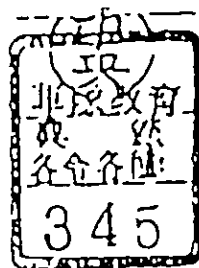
② 戰時服務提要 [教育總監部本部長] (昭13・5・25)

部外送



教育總監部編纂

戰時服務提要



序 文

本書ハ實戰ノ教訓ニ基キ主トシテ初級將校ノ爲必要ナル戰時服務ノ要領ニ關シ參考タルベキ事項ヲ輯録セルモノナリ未ダ完璧ニ至ラズト雖モ廣ク國軍幹部ヲ裨益スル所アリト認メ一般ニ之ヲ頒ツコトトセリ

昭和十三年五月二十五日

教育總監部本部長 安 藤 利 吉

戰時ニ於ケル服務ハ典範令ノ明示スル所ニ從ヒ專ラ戰鬥ヲ以テ第一義トス
ベシト雖モ亦同時ニ戰時諸規則ニ據リ處理スベキコト少カラズ

本書ハ其ノ服務ノ要領ニ就キ初級將校ニ對シ必要ナル指針ヲ與ヘンガ爲參
考トシテ編纂セルモノナリ

目次

緒言

第一章	日本精神ノ發揚	一
第二章	將校ノ責務	三
第三章	將校平素ノ嗜ミ及出征時ノ處置	一一
第四章	軍紀ノ振肅	一七
第五章	動員	二三
第六章	公用書類ノ準備及記載竝ニ保管	二八
第七章	人馬ノ給養	三六
第八章	人馬ノ衛生	四三
第九章	戰死傷病人(馬)ニ對スル處置	五八
第十章	戰場掃除	七二

目次

二

第十一章	人馬ノ補充	七七
第十二章	戰時進級及敍位、敍勳	九〇
第十三章	兵器、彈藥其ノ他ノ補充	九五
第十四章	後方勤務	一〇六
第十五章	宣傳及防諜	一〇九
第十六章	給與	一三三
第十七章	歸還及復員	一三三
第十八章	功績調査	一三四
第十九章	戰死傷者ニ對スル恩典	一四七
第二十章	其ノ他ノ雜件	一五〇
附錄		
附表	戰時ニ於ケル基本的諸規則一覽表	

緒言

軍ハ天皇御親率ノ下ニ我ガ建國ノ理想タル八紘一字ノ大精神ヲ實現スベキ聖戰ニ任ズルモノニシテ平時ニ在リテハ其ノ嚴然タル存立ニ依リ皇威ヲ中外ニ宣揚スルヲ以テ使命トス

翻ツテ現代戰ノ特質ヲ觀察スルニ往時ノ如ク殆ド武力戰ノミニ依リ終始シ而モ其ノ態樣比較的小規模ニシテ單純ナリシニ比シ全ク面目ヲ一新シ平戰兩時ノ明確ナル區別ヲ缺キ戰爭狀態ハ既ニ平時ヨリ開始セラレ經濟、外交、思想等各方面ニ互リ廣汎ニシテ深刻且執拗ナル抗爭葛藤ト化シ科學ノ異常ナル進歩發達ト國家相互間ノ複雑ナル依存關係トハ相俟ツテ戰爭ノ形態ヲ著シク變化シ其ノ方法亦大規模且複雑トナレリ是ニ於テカ軍ノ平戰兩時ニ於ケル使命ハ愈々重キヲ加ヘタルモノト謂フベク國民皆兵ノ眞義ニ徹底シテ精銳ナル軍ヲ練成維持スルト共ニ國民精神ヲ作興シ以テ皇

基ヲ恢弘シ國威ヲ宣揚スルノ聖業ヲ完成セザルベカラズ

抑 將校特ニ豫、後備役將校ハ軍ニ從ツテハ軍隊ノ楨榦トシテ軍人精神及軍紀ノ本源トナリ郷ニ在ツテハ其ノ中堅トシテ國民精神作興ノ中心原動力トナリ以テ皇國ノ爲一身ノ利害、生死ヲ超越シ一意忠節ヲ盡クスヲ以テ本分ト爲スベキモノニシテ軍ノ使命ト現代戰ノ特質トニ鑑ミルトキ愈々其ノ責務ノ重且大ナルモノアルニ至レリト謂フベシ宜シク居常平戰兩時ニ於ケル其ノ重大使命ヲ遂行スルニ足ルノ研鑽ト修養トヲ重ネ以テ聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期セザルベカラズ

テ戰力ノ發揮ニ遺憾ナカラシムルノ著意ヲ必要トス

2. 戰地ニ於テハ被服ハ一般ニ汚穢シ易キヲ以テ機會ヲ求メ洗濯シ爲シ得レバ更
新スルヲ可トスト雖モ給水、補給意ノ如クナラザルヲ常トスルヲ以テ屢々除塵、
曝干等ヲ勵行セシムルノ著意ヲ必要トス

3. 徵發被服ノ使用ハ成ルベク避クルヲ要ス止ムヲ得ズ使用スル場合ニ於テハ衛
生部員ヲシテ所要ノ消毒ヲ行ハシムルヲ可トス

4. 寒地ノ作戰ニ於テハ防寒具ノ使用特ニ其ノ時機ヲ適切ナラシメ疾病就中凍傷
ノ豫防ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

四、防 疫

傳染病ノ豫防ニ關シテハ幹部以下特ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ嚴格ナル個人衛生ト相俟
チテ防疫ノ處置ヲ完全ナラシメ以テ戰場到ル處ニ潜在スル病菌、疫癘ヲ征服シ如
何ナル非衛生的環境ニ在リテ困苦缺乏ノ生活ヲ敢テスルモ克ク之ヲ克服シ得ザル

ベカラズ

防疫ニ關シ特ニ留意スベキ事項左ノ如シ

1. 豫防接種

豫防接種ハ積極的防疫ノ手段ナリ然ルニ戰時忽々ノ際動員下令後數種ノ豫防接種ヲ必要ナル期間ニ實施スルハ多大ノ困難ヲ伴フ所ナリ將校ハ豫防接種ノ目的ニ鑑ミ動員間ハ勿論戰地到着後ト雖モ極力機ヲ捉へ之ガ實施ヲ確實ナラシムル如ク指導スルヲ要ス

2. 傳染源ノ芟除及傳染杜絶

患者ハ早期ニ之ヲ發見シ隔離、消毒等ヲ徹底的ナラシメ以テ病源ヲ芟除シ患者竝ニ汚染ノ疑アル人蓄、物件トノ接觸ヲ絶チ以テ病毒ノ侵入ヲ防止スルヲ要ス此ノ際ニ於ケル不徹底ナル處置ハ忽チ慘害ヲ招來スルモノトス敵ノ放棄シタル施設、物件等ノ利用ニ方リテハ傳染病豫防上特ニ顧慮スルコト

緊要ナリ

性病ニ關シテハ積極的豫防法ヲ講ズルハ勿論慰安所ノ衛生施設ヲ完備スルト共ニ軍所定以外ノ賣笑婦、土民等トノ接觸ハ嚴ニ之ヲ根絶スルヲ要ス

五、凍傷ノ豫防

凍傷豫防ニ關スル幹部ノ適切ナル著意ト兵ノ確實ナル實行トハ冬季作戰ノ大敵タル凍傷ヲ克服スルノ要道ナリ

凍傷豫防上注意スベキ事項左ノ如シ

1. 凍傷ニ關スル衛生知識ノ向上ノ徹底ヲ圖ルコト
2. 作戰地ノ氣象狀態ニ應ジ防寒被服ノ著脱特ニ發汗後ノ處置ヲ適切ニスル等豫防ニ遺憾ナカラシムルコト

3. 防寒被服ノ適合特ニ著裝法、修理ノ適否ニ注意スルコト

4. 適切ナル給養特ニ溫食ノ支給ニ勉メ又睡眠不足ヲ避クルコト

自昭和十三年七月一日
至同七月廿一日

陣中日誌

歩兵第九旅團

七月二十七日

曼羅明

一 警備隊司令部ハ宿縣ニ位置ス

二 密偵ノ報告ニ依リハ張家園子(任橋東北方六村)王庄(任橋西北方六村)附近ニ蟠居シアリ共産匪(匪首不明)約十五

百ハ靈壽方面ニ移動セリト

三 及川少将及納見大佐ハ昨二十六日無事青島上陸ノ旨

瀋口少佐ヨリ電報アリ

四 北支那方面軍參謀長ヨリ軍人 軍隊ノ對住民行爲

ニ關スル注意左記ノ通り通牒アリ

方軍參ニ密第一六一號

軍人軍隊ノ對住民行爲ニ關スル注意ノ件通牒

昭和十三年六月二十七日

北支那方面軍參謀長岡部直三郎

一 軍占據地域中治安ハ徐州會戰ノ結果一時好轉セ

ニ

シヤニ省受ケラレシモ最近ニ至リ山東省方面ニ於ケル交通
 線ノ復ヒ盛トナリ又北部京漢線西方地區共產遊
 撃隊ノ活動ハ北京北方地區ヲ経テ從來ノ平和境
 冀東方面ニ迄擴大セラル、等再ニ逆轉ノ傾向ヲ示シ
 ツ、アリ、治安回復ノ前途實ニ多難ナルヲ覺エシム
 治安回復ノ進捗遲々タル原因ハ後方安定ニ任ス
 ル兵力ノ不足ニ在ルト勿論ナルモ一面軍人及軍隊ノ
 住民ニ對スル不法行為カ住民ノ怨嗟ヲ買ヒ反抗意
 識ヲ煽リ共產抗日系分子ノ民衆煽動ノ口實、
 トナリ治安工作ニ重大ナル悪影響ヲ及ホスコト勘シ
 トセス

而シテ諸情報ヨリス如ク強烈ナル反日意識ヲ激
 成セシメシ原因ハ各所ニ於ケル日本軍人ノ強姦事件
 カ全般ニ傳播シ實ニ豫想外ノ深刻ナル反日感情ヲ

醜例セルニ在リト謂フ

三 山東、河南、河北南部等ニ在ル紅槍會大刀會
 及之ニ類スル自衛團體ハ古來軍隊ノ掠奪強姦
 行爲ニ對スル反抗熾烈ナルカ特ニ強姦ニ對シテ各地
 ノ住民一齊ニ立ケ死ヲ以テ報復スルヲ常トシアリ(昭和十二年
 十月六日方面軍ヨリ配布セル紅槍會ノ習性ニ就テ参照)
 從テ各地ニ頻發スル強姦ハ軍ナル刑法上ノ罪惡ニ留ラ
 ス治安ヲ害シ軍全般ノ作戰行動ヲ阻害シ累テ國家
 ニ及ホス重大反逆行爲ト謂フヘク部下統率ノ責ニア
 ル者ハ國軍國家ノ爲メ泣テ馬糞ヲ斬リ他人ヲシテ戒
 いセシメ再ヒ斯ル行爲ノ發生ヲ絶滅スルヲ要ス若シ之ヲ
 不問ニ附スル指揮官アラハ是不忠ノ臣ト謂ハサルヘカラス
 右ノ如ク軍人個人ノ行爲ヲ嚴重取締ルト共ニ面成ルヘク
 迷ニ性的慰安ノ設備ヲ整ヘ設備ノ無キタメ不本意ナ

四

ヲ禁ヲ慢ス者無カラレムヲ緊要トス

五.

右ノ外討代部隊カ戦闘ニ必要ニ基クニ非ラスレテ單ニ敵兵ノ存在セシ故ニ或ハ住民地附近ノ交通ヲ匪賊カ破壊セリトノ理由ニ依リ住民ノ家屋ヲ燒却スルカ如キ徒ニ無_ニ華ノ住民ヲシテ自暴自棄ニ陥リ匪賊ニ投セシムル結果トナルヲ以テ住民地ノ燒却ハ嚴ニ之レヲ禁止スルヲ要ス近時各遊撃部隊ハ縣政府ヲ作リ相當組織アル行政ニ抑ギアルヲ以テ討伐部隊ノ行爲住民ヲ庇護スルニ態度ニ出テサルニ於テハ住民ヲシテ曰本軍ヨリモ反ッテ遊撃部隊ヲ德トスルニ至ラレムヘシ

六.

前述ノ諸項ハ從來屢々注意セシ所ナルク其徹底特ニ實行部隊タル中隊以下ニ對スル徹底十分ナラサル憾アリ此際特ニ下級部隊ハ徹底ヲ期シ信賞必罰ヲ以テ臨マレ度ク命ニ依リ通牒ス

③ 2 軍人軍隊ノ對住民行為ニ關スル注意ノ件〔北支那方面軍參謀長〕(昭13・6・27)

昭和(三三)七一七三

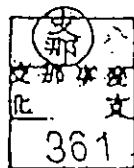
步兵第四十一聯隊陣中日誌

5/5

步兵第四十一聯隊

原本史料

防衛研修所戰史室



七月十三日

一 森田隊ハ八時出發園鎮ニ向ヒ前進十九時到着

晴

又

宿 蝶

ニ 左ノ日々命令ヲ下達ス

日々命令

日々命令

七月十三日
於宿郷部隊本部

一 陸軍軍醫中尉

望月 策 夫

聯隊本部附ヲ命ス

(七月十三日附)

三 本日左ノ通り第二軍司令官ヨリノ訓示ヲ受ク

依テ之ヲ息ヲ印列配布ス

訓示

訓示

稔彦襄ニ關外ノ重任ヲ拝シ武勲赫々タル第一

軍ヲ統率シテ徐州合戦ニ臨ミヤ各隊克ク有

形無形ノ戦力ヲ発揚シ衆敵堅陣ヲ衝碎シ

テ偉大ナル戦果ヲ收メタリ是レ固ヨリ御後威烈

ヲシハルトコロナリト雖モ亦以テ將兵ノ奮戰健闘

ニ由ル茲ニ深ク其ノ勞ヲ多トスルト共ニ此ノ間陣
歿ノ英靈ニ對シ衷心敬重ノ意ヲ表ス

惟コニ戰局ノ前途尚遠遠ニテ暴戾ナル敵軍

ニ更ニ一大鐵槌ヲ加フルノ要ナル取テ贅言ニ要

セサル所之ヲ為今圖作戰ノ轉機ニ際シ軍ノ戰

斗序列改変ノ大命ニ授ケ或ハ死生ヲ徇ニセル部

隊ト袂ヲ別テ或ハ依然祖傳方ヘテ新任務ニ就

キ或ハ新ニ麾下ニ精強ナル部隊ヲ迎テハ守

陣容ノ變更ヲ見ルニ至レリ

抑々今次等ノ變ハ大日本國民ニ課セラレタル天

ノ試鍊ニシテ軍ハ既ニ幾多光輝アル戰績ヲ收

メ得タリト雖敵ノ死命ヲ割レ能ク聖戰ノ目

的ヲ達成シ得ルト否トハ等々口懸リテ今後作

戰ニ存ス是ヲ得テ以テ出テナ他ニ轉スルモノト

依然軍ニ留ルモノト將ク又新ニ軍ニ入ルモノト問
 ハス愈々志氣ヲ昂揚シ益々軍紀ヲ振作シ
 征戰長期ニ亘ルモ有ニル難局ヲ打開シテ戰
 捷ノ一途ニ邁進シ彼ヲシテ屈服セシメスハ止マサ
 ルノ氣魄ヲ堅持セサルヘカラス劣弱ナル支那軍
 ニシテ尙且長期抗戰ヲ呼籲シ執拗ニ抵抗
 ヲ持續ス我ニシテ堅忍不拔ノ意志ヲ缺クルト
 ロアラニカ安ンシ能ク聖戰ノ目的ヲ貫徹シ得
 シヤ今ヤ新陣幕ヲ以テ乾坤一擲ノ次期作
 戰ニ向ワントス將兵一同愈々盡忠報國ノ精
 神ヲ砥礪シテ二度作戰行動ヲ再興スルヤ前
 途ニ横ル天嶮地障ヲ踏破シ炎着瘴癘ヲ
 克服シ勇躍奮進敵ヲシテ餘喘ナカラシムルノ
 諸準備ニ遺憾ナキヲ期スヘシ

昭和十三年七月十日

第二軍司令官 檢 考 王

四 軍人軍隊ノ對住民行為ニ関スル注意ノ件
 リタルニ付印刷配布シ之ヲ徹底ヲ計ル其ノ内容
 左ノ如シ

方軍参ニ案第一六一號

軍人軍隊ノ對住民行為ニ関スル注意ノ
 件通牒

北支那方面軍参謀長 岡部直三郎

一 軍占據地域内ノ治安ハ徐州會戦ノ結果一
 時好轉セラヤニ看受セラレモ最近ニ至リ山東
 省方面ニ於ケル交通線ノ破壞復ヒ盛トナリ又
 北部京漢線西方地區共産遊東隊ノ活動
 ハ北京北方地區ヲ経テ從來ノ平和境冀冀東

方面ニ迄擴大セラル、等再ニ逆轉ノ傾ヲ示レ
 ツ、アリ治等回復ノ前途ニ多難ナルヲ覺セム
 ニ治等回復ノ進捗遲々タル主ナル原因ハ後方安
 定ニ任スル兵カノ不足ニ在リト勿論ナルモ一面軍
 人及軍隊ノ住民ニ對スル不法行為カ住民ノ
 死心嗟ヲ買ヒ及抗意識ヲ煽リ共産抗日系分工
 民衆煽動ノ口実トナリ治等工作ニ重大ナル悪
 影響ヲ及ボスコト尠シトセス

而シテ諸情報ニヨルニ斯ノ如キ強烈ナル反日意
 識ヲ激成セシメシ原因ハ各地ニ於ケル日本軍人
 ノ強姦事件カ全般ニ傳播シ莫ニ豫想外
 ノ深刻ナル反日感情ヲ醸成セルニ在リト謂フ

三 由來山東河南河北南部等ニ在ル紅槍會
 大刀會及之ニ類スル自衛團體ハ古來軍家

一 掠奪強姦行為ニ對スル及抵抗激烈ナルカ
 特ニ強姦ニ對シテハ各地ノ住民一齊ニ立チ死
 ヲ以テ報復セルヲ常トシヤリ（昭和十三年十月六
 日方軍ヨリ配布セル紅槍會ノ習性ニ就テ
 参照）從テ各地ニ頻発スル強姦ハ軍ナル刑法
 上ノ罪惡ニ留ラス治安ヲ害シ軍令嚴ク作戦
 行動ヲ阻害シ累テ國家ニ及ホス重大ノ逆
 行爲ト謂フヘク部下統率ノ責ニイレル者ハ國
 軍國家ノ爲込テ恩宥ヲ靳リ他人ヲシテ忒
 ベシメ再ヒ新ク行爲ノ發生ヲ絶滅スルヲ要ス
 若シ之ヲ不問ニ耐スル指揮官アラスハ是不足ノ
 臣ト謂ハサルヘカラス

四 若クハ軍人個人ノ行爲ヲ嚴重取締ルト共
 ニ警戒ルベク謀ニ性的慰安ノ設備ヲ整ヘ設

備ノ無キタメ不本意ナラ禁ヲ侵ス者ヤヲラシムル
ヲ緊要トス

五 右ノ外討伐部隊カ戦中上ノ必要ニ基ク非
スレテ單ニ敵兵ノ存在セシ故ニ依リ或ハ住民地
附近ノ交通ヲ匪賊カ破壊セリトノ理由ニ依
リ住民ノ家屋ヲ焼却スルカ如キハ徒ニ無事
ノ住民ヨシテ自暴自棄ニ陥リ匪賊ニ投セラル
結果トナルヲ以テ住民地ノ焼却ハ嚴ニ之ヲ禁
止スルヲ要ス近時各遊撃部隊ハ縣政府ヲ
作り相當組織アル行政ヲ布キアルヲ以テ討
伐部隊ノ行爲住民ヲ庇護スルノ能ハ度ニ
出テカルニ於テハ住民ヨシテ日本軍ヨリモ友ヲ
遊撃部隊ヲ德トスルニ至ラシムベシ

六 前述ノ諸項ハ從來屢々注意セラレシ所ナル

カ其ノ徹底特ニ実行部隊ヲ中隊以下ニ對
スル徹底十分ナラサル憾アリ此ノ際特ニ下級部
隊ヘノ徹底ヲ期シ信賞必罰ヲ以テ臨マシ度
ク命ニ依リ通牒ス

五 加給品ヲ尤ノ如ク分配ス

加給品 米 廣 各人一本

糧秣補充
六 本日尤ノ如ク糧秣補充ヲ受ク

④慰安所ノ狀況〔波集團司令部〕(昭14・4)

陸支函大日記
514-41

昭和十四年自四月拾壹日
至四月貳拾日

戰時旬報(後方關係)

南支二三

波集團司令部

ニ慰安所ノ狀況

一、慰安所ハ所管警備隊長及憲兵隊監督ノ下ニ警備地區内將校以下ノ爲開業

セシメアリ

二、近來各種慰安設備(食堂 カフェー料理屋

其他)ノ増加ト共ニ軍慰安所ハ逐次衰

微ノ徴アリ

三、現在從業婦女ノ數ハ概ネ千名内外ニ

③

シテ軍ニ於テ統制セルモノ約八五〇名
 各部隊郷土ヨリ呼ヒタルモノ約一五〇
 名ト推定ス

右ノ他第一線ニ於テ慰安所ノ設置困難

ナルモノニシテ現地ノモノヲ使用セルモノ若干アリ

4 慰安所ノ配當及衛生状態概況別紙

如レ

慰安所配當及衛生狀況一覽表

區分	場所	人員數	罹病率(百分率)
軍直部隊	市内	一五九	二八%
久納兵團	廣州市東部	二二三	一%
濱本兵團	廣州市東部	一二九	一〇%
兵站部隊	河南	一二二	四%
佛山支隊	佛山	四一	二%
飯田支隊	海口	一八〇	
合計		八五〇	

備考

右ハ憲兵駐留地ノミモ、ヲ計上ス。右以外三水九江官寮
 増城石龍等ニモ設置サレテハ、極メテ少數ニシテ詳細不明ナリ

⑩

⑤支那事變ノ經驗ヨリ觀タル軍紀振作對策 [陸軍省副官] (昭15・9・19)

部外祕

陸密第一九五五號

支那事變ノ經驗
ヨリ觀タル

軍紀振作對策

支那事變ノ經驗
ヨリ觀タル



ACMIRS-MR-120

Copy 1

12830
GINCHAG-CINCPAC (Area #)
Handwritten signature

WD@#
146816

32962

砲銃隊本部

0-100

昭和十五年九月十九日印

30035

~~30035~~
~~30035~~

木冊ハ支那事變ノ經驗ニ基キ軍紀振作上主トシテ軍隊
ニ於テ著意スヘキ事項ヲ記述セルモノニシテ内容更ニ
推敲ノ餘地アルモ教育指導ノ參考トシテ印刷ニ附スル
コトトセリ

陸密第一九五五號

教育指塚參考資料送付ノ件關係陸軍部隊へ通牒

昭和十五年九月十九日

陸軍省副官 川原直一

「支那事變ノ經驗」ヨリ觀クル軍紀振作對策」教育指塚ノ參考トシテ送付ス

支那事變ノ經驗
ヨリ觀タル
軍紀振作對策

目次

緒言

第一、一般的事項

第二、主トシテ事變地ニ於テ著意スヘキ事項

第三、其ノ他

結言

附錄

主要多發犯ノ若干ニ對スル一部ノ觀察

緒言

一、要旨

軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ而シテ其ノ弛張ハ實ニ軍ノ運命ヲ左右スルモノニシテ透徹セル訓練モ之ニヨリテ能ク其ノ成果ヲ實戰場裡ニ發揚スルヲ得ヘク軍隊ノ指揮亦之ニヨリテ完璧ヲ期シ得ヘク聖戰ニ從フ皇軍ノ聲價モ之ニヨリテ光彩ヲ發揮スルコトヲ得ヘシ然ルニ支那事變勃發以來ノ實績ニ徴スルニ各關係當事者ノ努力ニ依リ漸次緊肅ノ道程ニ在リト信スルモ赫々タル武勳ノ反面ニ幾多其ノ弛緩ヲ實證セル事犯ヲ生起シ就中統帥指揮ノ神聖ヲ冒瀆シ軍存立ノ本義ヲ害スル軍紀犯竝ニ武士道的精神及矜ノ缺如ニ因由スル諸犯多發シ軍紀ヲ侵害セルノミナラス軍ノ威信ヲ失墜シ延イテハ聖戰ニ對スル内外ノ嫌惡反感ヲ招來シ治安工作ヲ害シ國際關係ニ惡影響ヲ及ホシ聖戰目的ノ達成ヲ困難ナラシメアルモノアルハ眞ニ遺憾トスル所ナリ戰爭狀態長期ニ亙ルニ從ヒ動モスレハ軍紀弛緩ノ諸因ヲ包藏シアルニ鑑ミ之カ振作ニ關シテハ格別ノ配慮ヲ要ス

二、支那事變間ニ於ケル犯罪、非行ノ特色

支那事變間ニ於ケル犯罪、非違ノ件數ハ國軍總兵員數ノ激增セルニ比スレハ其ノ增加率ハ必スシ

事變勃發以來ノ實情ニ徴スルニ赫々タル武勳ノ反面ニ掠奪、強姦、放火、俘虜慘殺等皇軍タルノ本質ニ反スル幾多ノ犯行ヲ生シ爲ニ聖戰ニ對スル内外ノ嫌惡反感ヲ招來シ聖戰目的ノ達成ヲ困難ナラシメアルハ遺憾トスル所ナリ宜シク皇軍ノ本質竝ニ今次聖戰ノ目的ハ抗日排日容共政權及其ノ軍隊ヲ打倒シ東洋永遠ノ平和ヲ確立シ新秩序ノ建設ニ寄與スルニ在リテ決シテ一般民衆ヲ敵トスルモノニ非サル所以ヲ一兵ニ至ルマテ徹底セシメ其ノ行動ヲシテ之ニ即應セシムルコト肝要ナリ

二、事變地ニ於ケル軍紀ノ實相特ニ犯罪非行ノ特色ヲ把握シ其ノ因テ來ル所ヲ究メ指導取締上ノ要點ヲ逸セサル如ク留意スルヲ要ス

三、戰鬪行動直後ニ於ケル軍紀風紀ニ關スル指導取締ニ就キ格別ナル留意ヲ必要トス

犯罪非行生起ノ狀況ヲ觀察スルニ戰鬪行動直後ニ多發スルヲ認ム是レ戰鬪間ニ於ケル殺伐タル心情ノ餘波ヲ受ケアリト思料セラルルヲ以テ戰鬪直後ノ指導取締ニハ特別ナル留意ヲ必要トス

四、事變地ニ於テモ萬難ヲ排シテ教育訓練ヲ勵行スルヲ要ス

今次事變ニ於ケル部隊ノ編成、素質及戰場ノ諸相ヨリ考フルニ「且教へ且戰ふ」ハ最モ必要トスル

所ニシテ之ニ依リテ將兵ヲシテ常ニ軍紀ヲ嚴正ニシ志氣ヲ振起シ團結ヲ強化シ戦力ヲ發揮スルコトヲ得ヘシ特ニ戰場ノ機微ノ間ニ實施セル精神教育ハ深キ感銘ヲ與ヘ發奮興起ノ基トナルハ想像外ニシテ平時ニ於テ見ラレサル所ナリ而シテ戦地ニ於テ最モ困難トスルハ資料ノ乏シキニアリ特ニ現下軍隊下級幹部ノ精神教育能力ニ鑑ミ之カ資料ヲ作製配布スルノ著意ヲ必要トス

又戦地ニ於ケル起居ハ不規則ニ互リ易キヲ以テ機會ヲ求メテ軍紀訓練ヲ實施スルハ價值大ナルモノアルヘシ

尙從來犯行者取調ノ結果ニ徴スルニ陸軍刑法、同懲罰令ニ關スル必要事項ノ教育不十分ナルタメ不知ノ間ニ犯罪非行ヲナセルモノ尠カラサルヲ以テ苟モ此等教育ノ不徹底ニ基キ勳功アル部下ヲシテ犯罪者タルノ汚名ヲ蒙ラシムルコトナキヲ要ス

五 事變地ニ於テハ特ニ環境ヲ整理シ慰安施設ニ關シ周到ナル考慮ヲ拂ヒ殺伐ナル感情及劣情ヲ緩和抑制スルコトニ留意スルヲ要ス

環境カ軍人ノ心理延イテハ軍紀ノ振作ニ影響アルハ贅言ヲ要セサル所ナリ故ニ兵營(宿舍)ニ於ケル起居ノ設備ヲ適切ニシ慰安ノ諸施設ニ留意スルヲ必要トス特ニ性的慰安所ヨリ受クル兵ノ精神的影響ハ最モ率直深刻ニシテ之カ指導監督ノ適否ハ志氣ノ振興、軍紀ノ維持、犯罪及性病ノ豫防

等ニ影響スル所大ナルヲ思ハサルヘカラス

第三、其ノ他

一、在郷軍人ニ對スル教育指導ニ就テ

今次事變勃發後二ケ年間ニ發生セル在支全軍ノ犯罪ヲ役種別ニ就テ調査スルニ

豫備役 四六三

後備役 六一四 一、三六二

補充兵役 二八五

現役 三一二

ニシテ應召者ニ極メテ多ク又應召者ノ犯セシ罪質ハ軍成立ノ根元ニ觸ルル對上官犯或ハ聖戰完遂ヲ妨害スヘキ掠奪、強盜、強姦等極メテ惡質ナルモノ多發シアリ此ニ依リテ觀ルモ軍紀振作上在郷軍人ノ教育指導ニハ格別ナル配慮ヲ要スルモノト思料セラレ

二、事變地在留邦人ノ取締指導ニ就テ

部隊ノ駐留、移動ヲ問ハス最モ關係深キハ邦人居留民ナルヘシ過去ノ事例ニ依リ之ヲ觀察スルニ

特ニ作戰部隊ニ跟隨移動スル邦人ノ中ニハ不良性ヲ帶ヒ部隊ノ軍紀ヲ紊シ宜撫工作ヲ害スルモノアルヲ以テ之カ取締ヲ適切ニシ累ヲ軍隊ニ及ホササルコトニ著意スルヲ要ス

結 言

軍紀振作ノ爲ニハ以上述フルカ如ク各般ノ事項ニ互リ著意スルヲ要スルモ軍紀振作ノ要ハ軍紀ノ源泉タル將校先ツ自ラ武徳ヲ涵養シ統率指揮ヲ嚴正ニスルト共ニ教育指導ヲ適切ニシ部下ノ服從觀念ヲ透徹セシメ且信賞必罰ヲ勵行シ身ヲ以テ之カ振作ヲ圖ルニ在リ特ニ軍紀ノ根本ニ牴觸シ自由主義思想ニ胚胎セル下剋上の對上官ノ軍紀犯竝ニ皇軍ノ本質ニ背馳スル掠奪、強姦等ノ惡質犯多發セルハ國軍ノ爲誠ニ痛嘆ニ堪ヘサル所ニシテ宜シク其ノ因テ來ル所ヲ究メ拔本塞源の芟除策ヲ講シ軍紀ヲ確立シ以テ益々皇軍ノ眞價ヲ發揚スルヲ要ス

教育能力ノ不十分竝ニ下級者ノ軍紀ニ對スル觀念ノ缺如ニ基因スル所大ナリト思料セラル尙幹部ノ軍紀振作ニ關スル監督指導的確ヲ缺キ事犯生起スルモ表面ヲ糊塗シ斷乎タル處分ノ實施ヲ躊躇シ爲ニ逐次重大事犯ヲ累加セシメアルモノ少カラサルコト竝ニ飲酒カ犯行直接ノ動機トナレルモノ多キコトハ教育指導上特ニ注意ヲ要スル所ナリ

本事犯ハ軍隊存立ノ根本ヲ破壞スル虞アルモノナルヲ以テ深ク其ノ原因ヲ究メ徹底セル對策ヲ講シ之ヲ警防スルト共ニ一度事犯生起セハ斷乎タル處置ニ出テ以テ軍紀ヲ確立スルヲ要ス

二、掠奪、強姦、賭博等ニ就テ

支那事變勃發ヨリ昭和十四年末ニ至ル間ニ軍法會議ニ於テ處刑セラレシ者ハ掠奪、同強姦致死傷四二〇、強姦、同致死傷三一二、賭博四九四ニ達シアリ其ノ他支那人ニ對スル暴行、放火慘殺等ノ所爲亦散見スル所ナリ

抑々此種事犯ハ皇軍ノ本質ニ戾ル惡質犯ニシテ軍紀ヲ紊ルノミナラス事變地民衆ノ抗日意識ヲ煽リ治安工作ヲ妨ケ支那側及第三國ノ宣傳資料ニ利用セラレテ皇軍ノ聲價ヲ傷ケ延イテハ對外政策ニモ不利ナル影響ヲ及ホシ聖戰目的ノ遂行ヲ阻害スル等其ノ弊害誠ニ大ナルモノアリ宜シク軍隊幹部ニ於テ部下ノ教育指導ヲ適切ニシ特ニ今次聖戰ノ目的ヲ一兵ニ至ルマテ徹底セシメ其ノ行動

ヲ之ニ即應セシムルト共ニ慰安其ノ他ノ諸施設ヲ強化スル等各種ノ手段ヲ講シ以テ此種犯行ヲ防
過シ皇軍ノ眞價ヲ發揚スルヲ要ス

三、經理上ノ非違行爲ニ就テ

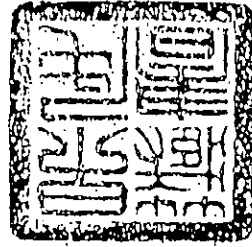
經理上ノ非違行爲ノ防遏ニ就テハ各種ノ機會ニ於テ上司ヨリ屢々注意ヲ喚起セラレタル所ナルモ
事犯ハ依然トシテ續出シアリ

而シテ往々其ノ手段極メテ巧妙ニシテ尋常ノ手段ヲ以テハ之カ警防容易ナラサルモノアルコト、
甚シキハ巧妙ナル方法ニ依リ贈賄ヲ要求セルカ如キモノアルコト、非行者ノ大部ハ遊興ニ耽リ而
モ長期間ニ亙リ犯行ヲ繼續セルモノ多キコト竝ニ事變ニ當リ軍關係業務ニ従事スルニ至レル軍屬
等ニ在リテハ地力ノ風習ヨリ推斷シテ此種非違行爲ニ對スル是非ノ觀念透徹セサルモノアルコト
等ハ監督指導上留意ヲ要スル所ナリ

民間業者中ニハ各種ノ老獪ナル術策ヲ以テ軍關係者ニ接近シ不正手段ニ依リ利益ヲ壟斷セントス
ルモノヲ生シ易キ社會ノ實相ニ鑑ミ本事犯ノ防遏ニ就テハ特ニ深甚ナル配慮ヲ必要トス

⑥ 戦場生活ニ於ケル特異現象ト其對策 [早尾庸雄] (昭14・6)

A



戦場ニ於ケル特殊現象ト其對策

(戦場心理研究各論)

早尾史料経歴書

本史料は早尾史料（昭和三十六年度寄贈史料展覧会資料）の一つである。

早尾史料は、昭和三十六年十月二十五日渡史室編さん宮長尾正夫（一等陸佐）を介し、早尾席雄氏（元軍区大尉、金沢区大出、現家数有数（米甲）精神鑑定医新富区下落台一の一四五）より、渡史室に寄贈されたものである。

氏は精神病理学の研究者で、本史料は同氏の上述事変従軍肉、戦場心理の实態を研究せるものである。

昭和三十六年十月二十五日

渡史室長 西浦 進

翁さん官 長尾正夫



支那事變後の軍中提出せる論文

(自昭和十三年十月至同十四年十月)

一、戦場心理の研究 總論

二、戦場ニ於ケル特殊現象ト其対策 (右各論)

三、戦場ニ於ケル神経病並精神病 (總論)

四、 今右 (右論)

五、戦場ニ於ケル自殺企圖ニ就テ

六、中支ニアリシ支那人精神病院ニ於ケル調査書

七、戦場ニ於ケル犯罪就テ (總論)

八、 今右 (右論)

九、戦場ニ於ケル精神鑑査例

軍医部依頼

軍医務部依頼

生活

戰場ニ於ケル特異現象ト其ノ対策

陸軍

緒言

日支事変一應召シ戰場生活ヲ体験ナス時~~中~~戰場生活ハ
 出征將士ノ精神ニ向ツテ曰常生活ニテハ到底經驗ナシ得又
 様々ノ刺激マ衝動ガ加ヘラレ其等ガ度重ナルト共ニ遂ニ
 特異ナル現象ヲ精神ニ示ス事一ナルヲ知ツタ即チ是等
 ノ現象ガ神至病精神病ノ症候ノ中ニ織リ込マ~~ル~~
 是等ノ事~~ハ~~既ニ歐洲大戰ニアリテ知らレタルモノナルガ故
 ニ敢テ珍トナスニ足ラヌカモ知レナイ然レ私ハ戰場ヲ自ラ
 經驗シテ其ノ事~~ヲ~~確認シ得タトト共ニ歐洲大戰時ニハ
~~概~~ナカワタ現象モ存セスルストウ知~~ル~~此處ニ稿ヲ起
 スコト一ナフタ

戰場生活ニ於ケル現象ヲ示ス期間ハ誠ニ短ク速カニ是

ヲ記載シ或ハ撮影シ置カザル時ハ患者ガ戦線ヨリ後送
 セラレ、ニ隨ヒ其ノ凶容ハ漸次消褪シ終ニ安ラ致スルニ至ル
 戦地ニ着イタ患者ニ再ビ是ヲ求メ様トシテモ不可能
 デアル、戦地病院デサヘ其ノ最後方兵站病院ハ達シタ頃
 ニ餘程其ノ凶容ニ變化ガアル

故ニ私ハ戦場ノ主要病院ニハ必ズ一人ノ専門軍医ヲ配屬セシ
 ヲ病床日誌ノ記載ニ備ヘテ置カネハナラヌト主張シタ是ニ
 ヲワテ凶地ノコニアリ実戦ニ参加ナキ軍医ノ感スル不便ヲ除ク
 デアル此ノ主張ハ漸次實施セラレタ戦地唯一ノ精神病棟
 ハ上海陸軍病院凶ニアル是ハ昭和十三年十月ウラ開設セラ
 レタ從ツテ専門ノ專任軍医ガアル其他ハ幸ニ専門医ハ居
 フラトシテ又病棟ヲ持ツテ居ラズ他科ノ病室ノ一部ヲ借り居
 ルニ過ギナイ然レ上海以外ノ主要病院ニハ専門医ノ配屬セ
 ラレヌノガ未ダ多数ナル反之患者輸送班ノ如キモノニ却

ヲテ専門隊カ配屬サレテ居ル始末デアル或ハ隊附トシテ存在
 シ是ヲ他ニ隊附配屬セシムルコトノ困難ガアルト言ハレル
 此ノ為メニ未ダ曰誌記載ノ内容ハ十分ナクトハ言ヒ難イ幸
 ニ此地ノ患者集合地タル広島大坂、小倉等ノ陸軍病院ニハ
 比較的早クカラ専門隊ノ配屬ガアワタノテ曰誌ノ内容ハ極
 テヨク整ツタガ此處ニ於テハ最早戰場テ目撃スル生々シイ
 特異ノ現象ハ既ニ本ノ雜イノデアル
 余ハ左ニ戰場ヲ其ノ等ニアタリ経験シタ事柄ニ就イテ全
 ク遠慮ナク記述シ同好ノ士ノ為メニ参考ニ供ヘタイト思フ
 若シ多少ナリトモ戰場生活ノ眞状ヲ傳ヘルコトカ出来タ
 ナラバ誠ニ幸デアル

昭和十四年六月總稿ヲ終ル

於國社台陸軍病院附

陸軍軍志中尉

金沢医科大学教授

早尾房



於ケル

陸

軍

戦場生活ニ關係アル特異事項

戦場デハ内地^{ニテ}到底經驗ノ出来又色々ノ事情ガ生活ノ
 中へ織リ込マレサ是ニヨリテ身心ガ支配セラレ是ヲ刺激ス
 ルコトガ甚大デアル次ニ述ベントスルモノ、内容ハ悉ク是
 等ガ刺激トナリ人々ノ生来性毒因ガ是ニ反應シテ病的
 徴候ヲ示スニ至ル事夫ヲ逐次記述スルノガ目的ヲアル
 即チ特異事項トハ左ノ如キモノデアル

一 燈火管制

二 細菌戦

三 毒物投入及注入

四 毒瓦斯

五 爆撃等

七、敵襲

(57)

六、便衣隊ト正規兵

七、入徴發ト掠奪

八、防諜トスパイ

九、上官脅迫ト枕命

十、詐病

十一、懷郷心

十二、戦病ト戦傷

十三、戦争恐怖ト陣中逃亡

十四、憲兵ノ右躍

十五、後送ト凶地帰還

十六、飲酒ト傷害

十七、性慾ト強姦

十八、競争ト虚談症

十九、競争ト妄想幻覺

四

三十四 戰爭卜予期願切也

三十五 戰爭卜迷信

三十六 戰爭卜希死

陸

四

十七. 性慾ト強女

出征者ニ對シテ性慾ヲ長ク抑制セシメルコトハ自然ニ支那婦人ニ

對シテ暴行スルコト、ナロウト兵站ハ氣ヲカサセ中支ニモ早速ニ慰

安所ヲ因致シタ其ノ主要ナル目的ハ性ノ満足ニヨリ將兵ノ氣分

ヲ和シテ皇軍ノ威嚴ヲ傷ケル強姦ヲ防グノニアツタ

慰安所ノ施設ハ確カニ其ノ目的ノ一部ハ達セラレタ然シテアノ多

數ノ將兵ニ對シテ慰安所ノ女ノ數ハ問題ニナラ又上海ヤ南京ナドニ

ハ慰安所以外ニ其ノ道ハ完ケテルカラ慰安所ノ不足シタ地方ハ

或ハ前線ヘト送リ出サレルノデアワタガシテモ地方的ニハ強姦ノ數

ハ相當ニアリ亦前線ニモ是ヲ多ク見ル是ハ尚女ノ供給ノ不足シテ

コトニ因ルハ勿論ノコトカガヤハリ留學生ガ西洋女ニ興味持ツト同様

テ支那女トイフ所ニ好奇心ガ湧クト共ニ内地デハ到底許サレ又コ

トガ敵ノ女ダカラ自由ニナルトイフ考ガ非常ニ働イテ居ルタメニ支

那娘ツ見タラ想カレタ豫ニヒキフケテ行ク從フテ檢査セタ

者コソ不率ナシテ藩ニハドレ程アルカ解ラヌト思フ

憲兵ノ活躍ノナクワタ頃デ而モ支那兵ニヨリ荒サレズ殆ント抵抗マ
 ナク日弁兵ノ通過ニマカセタ市町村アタリハ支那人モ逃ゲスニ多ク居
 ワツカラ相考ニ被害ガアワタトイフ加エ部隊長ハ兵ノ元氣フツルニ
 却テ必要トシ見テ知ラス振リニ過シタノサヘアワタ位デアル

然ルカ故ニ支那土民ハ日弁兵ヲ見ルト娘ハ何處カへ隠サレテソウ

上癮ニ耽溺シタ日弁人ハ支那人、西洋人ノ前ニ日弁ノ軍人ハ非常ニ

礼節ヲ重シムルカラ支那婦人ヲ冒スザンテ事ハ掛レテナイト事

吹聴シタモノダワタ然ルニ事莫ハ是ニ相違シタノテ支那民ノ日

弁兵ノ怖ルコト甚シク若イ女ハ悉ク隠サレテ影モナイ様ニナワタ

ト言ハレル

然ルニ南京ノ避難民又カラハ糊口ノ道ヲ得ルタメニ昔ノ夜鷹ノ

如クニ若キ支那人ガ枕ニテルモノ下敷ニナスモノクケラ携エテ昼夜兵ノ宿

舎ニアラハル様ニテワタシテ風儀ノ紊サレタ事モアワタ

コトナルト憲兵ノ方モ強姦カ和姦カノ区別ヲ考ヘネハナラナクナリ
 若シ其ノ場所ニ敷物代用品カアツタリ支那婦人ガ同奉貸ヲ持ツテ
 居ワタ事実ガ認メラレタラ和姦トシテ取り扱ワテ見ル様ニナリ強姦ノ
 数ハ實際ヨリハ少クナワタイス、敵國人トイフ感ノ働クニメニ無償ニテ
 行ヒ要求セサレタ時ニ是ヲ追ヒ松ヲタリスル為メニ自治委員会カラノ
 告新ニ会ソテ取フカノ例モナラナイノデアル

勝利者ナルガ故ニ金銀財宝ハ武フニ及バス敵国婦女子ノ身侍造

汚ストハ誠ニ文明人ノナスベキ行爲トハ考ヘラレナイ東洋ノ礼節ノ

同ソ誇ル國民トシテ慚愧ニタヘヌ事チアル昔和倭ハ上海ニ上陸

シ南京ニ至ル迄此ノ様ナ暴券ニ出タ爲メニ非常ニ野蠻人トシ

テ卑メラレ嫌ヒレタトイフガ今ニ於テモ同ジ事ガ繰リ返ケルハ何

トシテ恥辱デアロウ 憲兵ノ活躍ハ是ヲ一掃シ皇軍ノ名譽

恢復ニ努力シワアルコト感謝ニタヘヌ

次ニ強姦事件ノ实例ヲ列挙スル

(一)

或ル兵ハ兵站病院ヲ退院原野へ復歸ノ途次飲酒酩酊ノ上
祈禱隊宿舎ノ附近ノ支那赤屋へ侵入シ同赤ニ階ニ居合セテ支
那婦女(者テオ)ヲ強姦シタ

(二)

(A)兵ハ他ノ人ヲ誘ヒテ外出シタ Aハ支那婦人(者テキ)ヲ見ル
ト劣情ヲ起シ強姦ヲ志シ Cヲシテ同女ヲ附近ノ空赤へ連れ行カシ
メ Cヲシテ所持ノ小銃ヲ一發發射セシメ更ニ着刃ノ上 刃先ヲ同女
ニ突付ケテカ脅迫セシメ同女ガ恐怖スルヲ見ルト附近ノ民赤内へ
引キ入レ強姦シタ Bハ Aノ目的ヲ達シタラ知ルト Aノ立ケ出タ
後へ入り込ニテ同女ヲ強姦シタ

(三)

或ル兵ハ或ル支那民赤へ立ケ金剛ト同赤ノ娘(者テ六ケ)ガ兵
ヲ見テ怖レ逃ケ去ラウトスルト是ヲ捕ヘテ強姦シタバカリテナク
翌日又別ツテ再ニ強姦シタ

(四)

或ル兵ハ飲酒酩酊ノ上無断外出シ支那婦人某(者テ五ケ)ヲ
方(侵入)シ所持ノ軍刀ヲ引キ抜イテカ脅迫シタ上強姦シタ

(五)

或ル兵ハ加給ノ酒ニ酔ヒ戦支ト共ニ外出シ支那婦人某(者四十二
 年)ヲ認メ是ヲ姦淫セント思ヒ同赤ぬニ侵入シテ同女ニ性交ヲ
 要求シタ、同女ハ旦平兵ヲ怖シテ抵抗ノ出来ナイニ乗ジテ姦淫シ
 タ、

(六)

或ル兵ハ支那酒ニ酔ヒテ、支那店ニ立ケ寄り焼鳥ヲ食スル時
 其ノ傍ニ居テ支那少女(者六十一)ヲ見ルト同女ガ十三才未滿ノ少
 女アルニトテ認識シテカラ姦淫セント思ヒ同女ヲ抱キテカラ室内へ
 入り同女ノ父ニ銃劔ヲツキツケ退去ヲ命ジ置キ同女ヲ姦淫セントヤ
 シモ少女ノ爲メ目的ヲ達シ兼テ指頭ヲ以テ押レ同ガントシテ負傷セ
 シメタリ

(七)

或ル兵ハ武裝街頭ニ出テ支那兵永ノ表ヲ蹴外レ家内へ侵入シ
 隠レテ居テ支那女(者十六年)ヲ発見シ同女ニ銃口ヲ差向ケテ脅迫ノ
 上姦淫シタ、次に同女ヲ内舎へ運レ行キ掃毛スレバ殺スゾト脅
 迫シテ不致監禁ヲシタ、其ノ角無抵抗ナシニ乗ジテ姦淫シタ

七五

(十)

(九)

(八)

其ノ翌々日同女ノ宅へ侵入シ怖レ隠レ居ルヲ發見シ強姦セシメ
 或ル兵ハ戰友二人ト共ニ支那酒マヰルヲ飲シテ上支那婦人ヲ擄シ
 求メテ上輪姦セシメテ

或ル兵ハ齒科治療ニ行ツテ帰途ニビールヲ飲ミ酔ニ乘リ支那家
 屋ヘハツクシテ入ツタ。買カセテ出シテクエタ。外ニ話者カヌレテ着
 デ強姦ニ出コウトスル時ニ迄ツタ。其所リニ支那女ニ触レタカニ知シ又
 ト話シタカニ是ハ偽リテ強姦未遂デアツタ。

或ル兵ハ街上ノ支那家屋へ入ルト親ト娘トカ居タ娘へ要求フスル
 ト承知シタ母親ハ是ヲ見テ出テ行ツタ。其ノ娘ヲ姦淫セントシ、
 タカ發育シテ居ラナクテ出来ナカワタ。(娘ハ才位) 其々、帰ツタ
 娘へ隊へ来ルハ残飯ヲマルカウト隊名ヲ書き置イタニトカラ萬兵
 ニ捕ヘラレタ

以上ノ述ヘタ擄テ例ハ尚沢山ニ擧ゲル事カ出来ル強姦ヲマツテ

容易ニ發覺シナイタロウト考ヘルコトハ大變ナ誤テコナニ知レ
 易イ事柄ハナイノデアルト法務部当局ハ兵達ヲ戒メテ居ッ
 タカ全ク其ノ通リデアル

日本ノ軍人ハ何故ニ此ノ様ニ性徳ノ上ニ理性ガ保チナイカト私
 ハ大陸上陸ト共ニ直チニ痛嘆シ戦場生活一ヶ年ヲ通ジテ終
 始痛感シタ然シ軍当局ハ敢テ是ヲ不思議トセス更ニ此ノ力
 面ニ對スル訓戒ハ耳ニシタ事ガナイ而モ軍経営ノ慰安ノ所ヲ旺
 シニ設ケテ軍人ノ爲メニ賤業婦ヲ提供シタソシテ娼婦カラ
 性病ヲ軍人間ニ蔓延セシメタソシテ遂ニ其レノシテ收容スル
 兵站病院ヲ作ル必要ヲ生シタ爾性病ノアル間ハ帰還ヲ停
 止シタ兵ニシカク嚴ニシテカラ將校間ニ却ツテ性病多カク若
 イ將校ドコロカ上長官ノ間ニ患者ハアリ軍医ニ秘密治療ヲ
 受ケテ居ル性病ヲ支那人カラ得ヌ様ニ慰安ノ所ヲ設ケぬ地内
 鮮人ヲ娼妓トシテ使用シナカラ皮肉ニ彼等ガ性病ヲ去ゲヌ

軍者尚ハ軍人ノ性徳ハ抑ヘル事ハ不可能トシテ支那婦人ヲ強
 女セ又様ト慰安所ヲ設ケタ然レ強姦ハ甚ク旺ニ行ハシテ
 支那良民ハ日本軍人ヲ見ルハ必ズ是ヲ怖レタ


將校ハ率先シテ慰安所へ行キ兵ニ是ヲスレモ慰安所ハ公用
 ト定メラレタ心アル兵ハ慰安所ノ内容ヲ知ラテ軍者尚ヲ冷笑
 シテ居ワタ位デアル然ルニ慰安所へ行ケ又位ノ兵ハ氣違ヲト罵
 ワタ將校モアワタ


要之戰場生活ハ殺風景ガカラ氣ガ荒クテル是ヲ抑ヘル爲メニ
 ハ兵ニ女ヲ抱カシヨリ善イ策ハナイトシタノハ尤モデアル

然レ日本軍人ガ戦争ニ来テ大キナ類ヲシテ慰安所へ暇サヘアルハ
 通フ安カク支那人ハ笑ワテ居ワタ

上海上陸シタ其ノ日ニ何處へ行ワタラ女ガ買ヘルカト在る日
 ニ聞クト言フテ日本ノ兵隊サニハ戦争ニ来タノ分アナイノカト反
 応シテルノヲ聞イタ

上海デモ南京デモ回春服安ノ婦人ヲ見ルトケラク笑フヲ取テモ
 如ラスニ抑揄スルソレガ亦起婦人タルト賣笑婦タルト区別ガナイ
 慰問ニ来タ女子生ヤ婦人ニ向ツテモ手氣デ無作任ナ動作ヲ示リ
 言葉ヲ掛ケルトウレテ軍人ハ此ノ様ニ性慾ニカフエテ居リ亦甚ノ
 抑割ガナイカト思ヒル。海軍之人ハ決シテ此ノ様ナ風ヲ見セナイ
 ハ海軍之人ノ平常ノ教育ガ宜シイ爲メト考ヘラレル。
 此ノ様ニ陸軍之人ハ性慾ノ奴隸ノ如クニ戰場ヲ荒シテ居ルムデア
 ルカラ除却ノ頻癸モ希止ムヲ得ヌト、思ハレタ
 宣撫班ソウブ所ソ一カニハ大キナ成果ヲ奏ゲフ、一方カラ是ヲ破壊スル
 様ナ破簾ソ痴シナ行爲ガ行ハレアル。即強姦ソ姦シト金品ノ奪過ト
 テアル。是ハ其ノ職ヲ利用スル無賴ノ徒ガ通譯トシテ入り込
 ンデ居ルカラデアル。此ノ様ナ不徳行爲ノタメニ大切ナ宣撫手
 業ガ妨碍ソセル輩一方ナラヌト私シ給シ聞カサレタ。


 土
 自
 十
 日
 系
 修
 行
 記


 秘
 庫
 用

⑦支那事變ニ於ケル軍紀風紀ノ見地ヨリ觀察セル性病ニ就テ〔大本營陸軍部研究班〕(昭15・10)
 無形戦力軍紀風紀關係資料第五號

支那事變ニ於ケル軍紀風紀ノ見地ヨリ觀察セル性病ニ就テ

昭和十五年十一月
 大本營陸軍部研究班

附表第二

性病患者職業別、教育程度、感染地、相手女調査表

職業別		性病患者職業別表		性病患者教育程度表		性病感染地別表		相手女國籍表		「ソック」ノ効能	
患者數	患者數	患者數	患者數	患者數	患者數	患者數	患者數	受病者數	區分	受感數	
農漁業	四六〇五	尋中退	一三	内地	一、五三四	日本女	二、四一八	「ソック」ノ効能	一四〇		
商業	三一四八	尋卒	三〇一五	朝鮮	二四	朝鮮女	四四〇三	「ソック」ノ効能	三七		
職人	三〇二七	高小中退	一一七	支那	一六四	支那女	三〇五〇	「ソック」ノ効能	一五		
工業	一、二九四	高卒	五八八五	北支	八六二八	公娼	二、八三七	「ソック」ノ効能	一九二		
官吏	一、〇七七	中學中退	一七四	支	五九六五	私娼	九一四	「ソック」ノ効能	一九二		
公吏	四二九	中學卒	七六七	計	一六三一五	計	一、一三三	「ソック」ノ効能	一九二		
技術官	八五五	專門退校	九	北支ノ八千六百餘名及中支ノ約六千名ハ注意ノ要アリ		朝鮮女ノ精確ハ他ヲ壓倒シテ本表ニ備シテ得ザルモ参考トスルニ足ル		「ソック」ノ効能	一九二		
教育者	一二六	專門卒	四二	備		一、朝鮮女ノ精確ハ他ヲ壓倒シテ本表ニ備シテ得ザルモ参考トスルニ足ル		「ソック」ノ効能	一九二		
軍人	三六	大學中退	七	考		二、本表ニ依レバ平時悠長ナル場合ハ兎モ角兵馬倥傯ノ間ニ在リテハ効果少キヲ知ル		「ソック」ノ効能	一九二		
其他	八八八	大學卒	二八	考		三、本表ニ依レバ平時悠長ナル場合ハ兎モ角兵馬倥傯ノ間ニ在リテハ効果少キヲ知ル		「ソック」ノ効能	一九二		
計	二五四八五	計	一〇、〇五六	備		一、高卒者ニ種メテ多キハ兵數ノ多キニ依ルベキモ一面從來ノ野卑ノ生活ニ基キ性慾ヲ制シ得ザルニアラザルカ		「ソック」ノ効能	一九二		
考		備		考		一、下層階級ニ多キハ注意ヲ要ス		「ソック」ノ効能	一九二		

⑧ 昭和十四年八月第二旬衛生旬報 [南支派遣軍軍醫部] (昭14・8)

昭和十四年
八月第二旬
衛生旬報

南支派遣軍軍醫部

者(共)發生セルヲ以テ同隊菌檢索實施ニ關シ
 別紙第二ノ如ク南支那防疫給水部長ニ指示ス
 二十四日總衛甲第五三號ニ基ク支那事變歸還人
 員マラリア原蟲保有者同疑似要治療者ニ關ス
 ル件當軍七月末日迄ニ係ル事實ヲ別紙第三ノ
 如ク野戰衛生長官ニ報告ス
 十六日花柳病豫防ノ徹底ヲ期スヘク南支參連
 丁第一〇三號(別紙第四)ニ依リ軍慰安所以外ノ
 接客業者取締ニ關シ憲兵隊駐總領事館ニ通牒
 スルト共ニ別紙第五ノ如ク市内邦人接客業者

ニ對スル健康診断並檢査要領ヲ規定シ之カ
 實施ヲ廣東博愛會ヲシテ擔當セシム之ト共
 ニ本通牒ノ要旨ヲ別紙第六ノ如ク披釋シ隸
 下一般ニ通報シ軍内一般ニ一層ノ注意ヲ喚
 起セシム

尚一方之カ主旨徹底ノ爲市内邦人接客業婦
 ヲ憲兵隊講堂ニ集メ佐藤(運)部員ヨリ花柳病
 豫防ニ就キ憲兵隊將校ヨリ取締規定ニ就キ
 夫々講話ヲ行ハシメタリ

必 先般南支防疫給水部ノ實施セラル廣東市内ノ

別紙第四

南支參通丁第一〇三號

軍慰安所以外接客業者取締ニ関スル件通牒

昭和十四年八月十三日 南支湊達達軍參謀長土橋勇逸

首題ノ件ニ関スル別紙要領ニ依リ実施セシメ度依命通牒ス

別紙

軍慰安所以外ノ接客業者ヲ取締要領

第一 軍慰安所以外ノ邦人接客業者ニ對スル取締

本取締八軍憲兵隊及日本總領事館之ヲ實施シ軍衛生機關之ニ協力ス

一 健康診断及檢査ノ實施

接客業婦(藝妓・酌婦・女給)ニ對シ毎月一回健康診断ヲ藝

妓・酌婦ニ對シ每周一回檢査ヲ實施ス

二 健康診断及檢査ハ所屬ニ應ジ衛生機關之ヲ援助ス

三 有疾者ノ處置

患者ハ一切接客ヲ禁止シ其實施ヲ嚴ニ取締リ禁ヲ犯スモノアル

トキハ營業停止等嚴重ニ處分スルコトナリ

三 豫防設備

枕席ヲ用意スル營業者ヲシテ心又豫防設備ヲ完備セシム

四 必要ト認ムルトキハ總領事館所管區域ニ對シ單ニ於テ直

接客業婦ノ健康状態及衛生施設ヲ検査ス

五 女給ノ賣淫行為ハ之ヲ禁止フルト共ニ之ヲ取締リ勵行シ禁ヲ犯スモノアルトキハ營業停止等嚴重ニ處分ス

六 報告 通報

一 總領事館ハ所管区域内ノ接客業婦ノ人名ハ藝名、本名共ニハ移動ノ都度軍憲兵隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ報告通報ス

二 檢査成績ハ檢査擔任者ヨリ別ニ定ムル所ニ依リ軍憲兵隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ報告通報ス

三 總領事館ハ所管区域内ノ女給取締状況ヲ毎月一回軍憲兵隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ定期報告ス

四 軍ニ於テ實施セル檢査ノ所見ハ關係機關ニ通報ス

第二 軍特殊慰安所以外ノ支那接客業者ニ對スル取締

本取締ニ關シ軍特務機關ハ支那側諸機關ヲ指導シテ之ヲ實行シ容易ナラシメ軍憲兵隊ハ支那側諸機關及日本人ノ實行ヲ取締ルモノトス

一、軍特殊慰勞所從業婦以外ノ支那娼婦ハ之ヲ軍隊宿营地ヨリ遠隔セル地點ニ於テ一他者ハ數地ニ集束結シ公娼トシテ適宜ノ方法ニ依リ定期檢査ヲ受スル如ク指道寸ス

軍人軍屬ノ右地域出入ヲ許サス

二、日本人ノ在虫民船内等ニ出入スル上接客從業者ニ接スルコトヲ許サス

三、前二項ノ取締状況ハ毎月一回軍憲兵隊ヨリ軍司令部ニ

定期報告スルモノトス

以上六主トシテ廣東市内及其附近ノ接客業者ニ對スル取締ナルモ各兵團(隊)ハ本締要領ニ基キ自己警備区内ノ飲食店カフエー等ヲ取締リ毎月一回其状況ヲ軍司令部ニ定期報告ス

2790

別紙第五

南支醫曹第八四五號

市内接客業者健康診断

実施ニ関スル件 通牒

昭和十四年八月十六日 南支派遣軍軍醫部長

廣東博愛會醫西院長殿

別紙南支参通丁第一〇三號第一二三基夕

廣東市内邦人接客業者ニ對スル健康診断及
 檢徴ハ自今左記ノ要領ニ依リ貴院ニテ之カ実施
 ヲ相當相成度

左記

一 健康診断ハ毎月一回檢徴ハ毎週一回実施ス

ルモノトス

二健康診断ニ慢性傳染病ノ早期發見ニ重点ヲ指向シ尿検査要スレハ喀痰検査及血液検査(徴毒反應)ヲ実施スルモノトス

三有疾者ハ努力ヲシテ之ヲ收容入院治療トスルモノトス

四検査成績ハ別紙様式ニ依リ週末統合ノ上本職及軍中憲兵隊領事館ニ提出スルモノトス
検査所見上取締等ニ関スル参考意見アラハ附記スルモノトス

五検査要言ノ氏名検査直實施目割ハ本職宛豫メ通報スヘシ

六 更施ノ繼部ニ関シテ公直接ニ急兵隊領事館
 警三察ト連絡協定スルモノトス
 追而更施ニ関シ勤一務力收容力等ニツキ意見
 ヲラハ速ニ申出ラレ度申添フ

別紙第六

通 報

昭和十四年八月十七日
於 廣 末

一 軍ハ最近 軍慰安所以外ノ接客業者取締ニ関スル
事項ヲ定メ南支參通第一〇三號關係各部隊ニ通牒
セリ其ノ中直接軍人軍屬ニ関スル事項左ノ如シ

ノ 女給ノ賣淫行為ハ之ヲ禁止スルト共ニ之ヲ取締
勵行シ禁ヲ犯スモノトキハ營業禁止等嚴重ニ
處分ス

又 軍特種慰安所従業員以外ノ支那娼婦ハ之ヲ
其ノ区域内ニ集結シ軍人軍屬ノ之等ニ接スル
ヲ嚴禁ス就中 登民船等ニ出入シ水上接客

業婦ニ接スルコトハ危険ヲ伴フヲ以テ日本人全
 般ニ對シ之ヲ嚴禁ス

右ハ畢竟軍人軍屬ノ花柳病豫防ノ實績ヲ向
 上セシメカ爲メ引イテ戦力ノ低下ヲ防止セシムル意圖
 ナルヲ以テ各部隊ハ右ノ規則ヲ嚴守セシムル如ク指導
 相成度又之ト併行シテ精神教育ヲ徹底セシムルト共
 ニ花柳病豫防方法ノ實行ヲ必ス嚴守セシムル如ク
 指導シ函々相俟ツテ目下單ノ最モ取辱トスル花柳病ノ
 多發ヲ防止スルノミナラス更ニ之カ撲滅ヲ期シ度ヲ以テ以
 上ノ主旨ヲ具現スル如ク各隊ニ於テ特ニ御努力ヲ相
 成度

別紙第七

南支醫第八六六號

市内飲食店衛生巡視ニ關スル件通牒

昭和十四年八月十五日 南支派遣軍庫醫部部長

今般市内飲食店ニ對シ軍ニ於テ衛生巡察ヲ實施シタ
ル成績左記如ク付關係者ヲシテ之カ指導ヲ監督ニ
努メレメ以テ軍自衛ニ協力方難慮相成度

是テ別紙附表中△ヲ附シタルハ將來指導上持ニ留
意スベキト被存ニ付可然訓諭方相成度

左記

市内飲食店衛生巡察ノ件

八月二日中央憲兵分隊長望月少佐ノ協力ノ下ニ田
中部隊防疫作候班一茲檢疫班回ヲ以テ實施シタル
衛生巡察所見ノ概要左如ク



⑨呂集團特務部月報(昭15・4)

昭和十五年四月(第七號)。通卷第十七號。

呂集團特務部月報

呂集團特務部

發行所

送 附 先

陸軍次官	一	廣東特務機關長	一
參謀次長	一	上海特務機關長	一
支那派遣軍總參謀長	一	蚌埠特務機關長	一
興亞院總務長官	一	武昌警備隊長	一
興亞院華中連絡部長官	一	漢陽警備隊長	一
武漢警備司令官	一	町尻部隊本部宣務部	一
美座憲兵隊長	一	武昌分室	一
松田兵站司令官	一	蕪陽分室	一
檢垣碇泊場司令官	一	九江特務機關長	一
漢口海軍特務部長	一	南昌特務班長	一
漢口軍報道部長	一	呂特上海連絡所	一
在漢口總領事	一	各縣政府內面指導官	各一
南京特務機關長	一	各縣政警備內面指導官	各一
蘇浙皖綏靖軍總司令部顧問部部長	一		

呂集團特務部月報（四月分）

目次

武漢

司法

- 1 武漢司法部ヲ武漢司法委員會ト改稱ス
- 2 武漢司法部法院組織法ノ廢止
- 3 司法訓練所畢業人員任用辦法ノ制定
- 4 司法官資格審查委員會
- 5 武漢司法工作報告冊ノ刊行
- 6 司法訓練所狀況
- 7 武漢司法委員會所屬各機關四月分受理件數並ニ人員

治安。警務

- 1 治安狀況

對民衆工作

- 2 難民狀況
- 3 娼區ノ設定
- 4 司法及違警罪
- 1 難民救濟狀況
- 2 乘船許可證ノ發給
- 3 小本貸借狀況
- 4 罹災民ノ救濟
- 5 軍隊宿營地區內貧民ノ移轉完了
- 6 乞丐ノ收容
- 7 臨時自治公益會ノ成立
- 8 勞工登記及工會ノ成立
- 9 勞資爭議ノ調停
- 10 東亞運動大會參加狀況

衛生

教育

- 1 コレヲ豫防注射實施
 - 2 春季種痘實施
 - 3 武昌衛生事務所ノ設立
 - 4 妓女檢疫所ノ設立
 - 5 醫師、士、藥師、助産士、護士、藥劑生、牙醫ノ登記
 - 6 診療班業務概況
 - 7 防疫
 - 8 特殊營業戶數表
- 1 市政一周年紀念祝賀大運動會
 - 2 校舍増設準備
 - 3 學校衛生
 - 4 才力ノ設置

3 娼區ノ設定

漢口在住ノ娼婦ハ現在ノ登記人員二百數十名ニ過キサルモ、實數ハ優ニ三千名以上ニ達シアルモノト思料セラレ。是等ハ市街ノ隨所ニ散在シ、風紀ヲ害スル一面又汎ク病毒ヲ傳播シ、延テハ皇軍ノ衛生上ニモ累ヲ及ホスヲ願慮シ、統制、取締、衛生上ノ各見地ヨリ全市ニ二十箇所ノ娼區ヲ設定シ、六月末日迄ニ該區域ニ收容シ、妓女ノ登記、等級ノ區分ヲナシ衛生局ノ檢病施設ト相俟ツテ花柳界ノ改善ヲ圖ルコトトナレリ。而シテ武昌、漢陽方面モ逐次漢口ニ準スル方針ナリ。

4 司法及違警罪

地 區	前月計	本月計	增	減	備 考
漢口方面	四五七〇	四六二〇	五〇		
武昌方面	一七五〇〇	一七四八〇		二〇	
漢陽方面	五四五四三	五五三八一	七三八		漢陽ハ難民ノ區別ナシ

本月中ニ於ケル武漢特別市政府警察廳及所屬各局署刑事並ニ違警罪
 狀況次表ノ如シ

武漢特別市政府警察廳及所屬各局署刑事每月比較表

自三月十六日
 至四月十五日

件名	四月件數		三月件數		件數增	件數減
	男	女	男	女		
強盜	三	四	二	二	一	
搶奪	一	一	一	一		
殺入	一	一	一	一		
強姦	三	四	二	二	一	二
傷害致死	一	一	一	一		
偽造文書	八	七	一	四	七	四
公共危險	四	九	一	一	三	一〇
妨害公務	二	一〇	三	四	九	一

生員六名ヲ配シテ清潔保持ニ努ムルコトトセリ。

4 妓女檢査所ノ設立

妓女檢査所修繕工事ハ三月ヨリ開始シアリタル處四月上旬竣工シタルヲ以テ四月十六日正式設立ヲ了シ近ク檢査實施ノ豫定ナリ。

5 醫師、士、藥師、助産士、護士、藥劑生、牙醫ノ登記

市政衛生局ニ於テハ四月十日ヨリ武漢特別市區域内ニ於ケル醫師、士、藥師、助産士、護士、藥劑生、牙醫ノ登記ヲ行ヒ、以後無資格者ニ對シテハ嚴重取締ヲ行フコトトナレリ。

6 診療班業務概況

本月中取扱患者數次ノ如シ

外 來		中 國 人	
新 患	一、五三一名	新 患	一、六一〇八名
舊 患	一、八六〇名	舊 患	一、三六六名

入院 中國人

日本人

二七二名
六〇三名

コレラ豫防注射 中國人

二九五名

健康診斷 中國人

七名

檢微 日本人

四三五名

明治小學校兒童體格檢査

四五〇名

接客業者及其使用中國人
ノ健康診斷

一九九五名

本月ニ入り天然痘患者日本人間ニ發生懸シク新患者十四名ヲ數ヘ何レ

モ民國隔離所ニ收容シテ其治療ニ當レリ。

又一方班員ヲ派シ、明治小學校或ハ三民路等ニ於テ衛生講話ヲ施行セ

シメ防疫智識ノ普及ニ力メタリ。

7 防疫

初傳染病發生狀況

シ當分檢閲ヲ憲兵隊ニ於テ行フ。四月二十日ヨリ末日迄ノ當郵局取扱ヒノモノ左記ノ如シ

南昌出信數	控	留	九江到着信數	控	留
日本人	二九六	〇	一三三	〇	〇
支那人	六六一	二五	二五八	四	〇

5 樂戸（遊廓）公娼ノ施設

風紀衛生公安ノ維持ノタメ樂戸公娼ノ取締及營業稅徵暫行規定ヲ設ケ特定地區第三市場附近ノ一廓ヲ限り營業ヲ許可スルコトトセリ。現在許可シタルモノ三戸ニシテ暫行規定左記ノ如シ

南昌市政府籌備處ニ於ケル樂戸（遊廓）公娼ノ取締及營業稅徵收暫行規定

第一條 本處ハ娼妓ヲ取締リ社會ヲ改進センカタメ樂戸公娼藝妓ニ屬スルモノ均シク本規定ニ依リ營業免許證ヲ發給シ營業セ

シム

第二條

樂戸開設ヲ希望スルモノハ本處營業科ニ於テ登記ヲ申請シ
免許證ヲ領得シタル後營業スルコトヲ得

第三條

樂戸開設者ハ左列ノ手續ヲナス
一、戸主、氏名、年齢、本籍、現住所

二、樂戸ノ屋號

三、樂戸ノ所在地

四、公娼ノ名數

五、樂戸ノ等級

六、保證人

第四條

樂戸ハ毎月營業ヲ納メル以外免許證ヲ三ヶ月毎ニ更換シ免
許費及手数料ハ左記三種ニ分ク

甲種ハ免許費二圓、毎月營業稅十七圓

乙種ハ免許費一圓、毎月營業稅十圓

丙種ハ免許費五十錢、毎月營業稅七圓
各種樂戶ノ所有公娼八十名未滿トス

第五條
第六條

樂戶ハ屋號規定左ノ如シ

甲種ハ〇〇「掌」ト稱シ

乙種ハ〇〇「班」ト稱シ

丙種ハ〇〇「居」ト稱ス

第七條

各種遊廓ハ本處警務科ヨリ燈（硝子製）ヲ領得シ玄關ノ上ニ鈎リテ識別ニ資ス（灯代三圓）

第八條

公娼ヲ希望スルモノハ左記ノ届出ヲ爲ス

一、姓名、年齢、本籍、現住所 二、本家ノ職業

三、親類ノ有無

四、公娼ニ希望スル理由

五、志願スル娼妓ノ種別

六、保證人

第九條

公娼ハ一、三、種ニ分ケ各種樂戶ニ於テ營業シ毎月營業稅ヲ納メル以外免許證ヲ領有シ三ヶ月毎ニ交換シ免許費及營業

ノ一回分ハ左ノ如シ

一種、免許費一圓毎月營業稅五圓

二種、免許費八十錢毎月營業稅四圓

三種、免許費六十錢毎月營業稅三圓

第十條

娼妓トシテ免許申請ノ時ハ四寸半ノ寫眞二枚ヲ添付シテ一枚ハ警務科ニ保存シ一枚ハ免許證ニ貼付ス、又三ヶ月毎ニ

寫眞貼付交換申請ス

第十一條

藝妓ハ毎月營業稅ヲ納メル以外免許證ハ六ヶ月毎ニ更換シ營業稅及免許費ハ左ノ如シ

免許費一圓、毎月營業稅三圓

第十二條

各種娼妓ノ花代並ニ出局（真會應召）金ハ左記ノ規定ヲ超過スルコトヲ得ス

一種ハ一晚十圓、二種ハ一晚八圓、三種ハ一晚六圓、出局

一回一圓

第十三條 樂戸ノ公娼トシテ營業ヲ停止シ出嫁スル者アル時ハ免許證

取消ヲ申請スルコト

第十四條 各種娼妓ハ每週一回醫務所ニ赴キ検査ヲ受ク、若シ疾病丁

ル時ハ治療期間ニ於テハ營業ヲ停止スルコト

第十五條 出局娼妓ハ必ス局票ヲ携帶シ局票ハ一枚ニ付二十錢トシテ

本處醫務科ヨリ贈入ス

第十六條 樂戸トシテ左列ノ一ヲ有スル時ハ本處ヨリ適當ニ處罰ス

一、樂戸免許證ヲ故意ニ訂正セルモノ

二、收容者年齢十六才未滿又ハ十六才ノモノニシテモ發育健

全ナラサルモノ

三、原配過者ヲ有シ娼妓生活ヲ後悔セルモノ

四、良家婦女ヲ誘致セシモノ

五、娼妓ノ人数ヲ隠瞞スルモノ

六、娼妓ノ出局ニ不事實ヲ記入シ又故意ニ訂正セシモノ

第十七條

七、娼妓トシテ出嫁セントスルモノヲ故意ニ留メタルモノ
 八、其ノ他一切本規定ヲ違反セルモノ

娼妓トシテ左列ノ一ツヲ有スル者ハ本處ヨリ適當處罰ス

一、免許證ヲ故意ニ訂正セシモノ

二、出局票ニ記入セシ妓名、時日、場所カ符合セヌモノ

三、娼妓トシテ樂戸ニ入ラス私自ニ營業スルモノ

四、花柳病ヲ有シテ方ヲ隠瞞スルモノ

五、其ノ他一切規定ヲ違反スルモノ

第十八條 本規定ハ參事會ニ於テ隨時訂正スル事ヲ得

第十九條 本規定ハ公佈日ヨリ施行ス

6 阿片吸飲所ノ設置

戒煙暫行辦法及施行細則ヲ制定シ吸飲所ヲ設置セリ。大体市内各要

所ニ八ヶ所ヲ許可スル豫定ナルモ現在許可セルモノハ二ヶ所ナリ。

暫行辦法及施行細則左記ノ如シ

⑩ 政務月報 [遠藤兵團政務部] (昭16・2)

66



昭和十六年二月

政 務 月 報 (三 號)

遠 藤 兵 團 政 務 部

配布區分表

石鼓警備隊	潮州警備隊	潮州警備班	憲兵隊	報道部	遠東兵團司令部	廣東陸軍特務機關	同 經理部	波米蘭司令部	配布先員數
—	—	—	—	—	三	—	二	八	
計	障中日誌	遠東兵團政務部	在汕頭日本領事館	汕頭海軍武官府	汕頭駐泊司令部	汕頭	蓬濠	澄港警備隊	配布先員數
三六	八	(控) 一	—	—	—	—	—	二	

目次

第一章	一般狀況	一頁
第二章	一般政務並ニ産業經濟指導業務	六頁
第一項	一般政務	六頁
第二項	産業經濟指導業務	八頁
第三章	金融、通貨、貿易狀況	一二頁
第一項	經濟並ニ金融ノ一般狀況	一二頁
第二項	現地通貨ノ流通並ニ信用狀況並ニ現票交換特別資金ノ狀況	一二頁
第三項	商品市場ノ狀況	一八頁
第四項	諸統計	二一頁
第五項	其他參考トナルベキ事項	二六頁
第四章	行政機關指導狀況ト業績	二七頁
第一項	汕頭市政府	二七頁

第四章 行政機關指導狀況ト業績

第一項 汕頭市政府

一、各局ノ業績

1、社會局

婦女補習班校開設ノ件

汕頭中國婦女會ノ婦女子ノ爲ニ實習女學校ヲ開設シ之カ開校式ヲ一日十時ヨリ同校ニ於テ盛大ニ舉行セリ

2、僑務局

A、本月中ニ於ケル出境者及入境者數次ノ如シ

出 境 者		入 境 者	
渡 航 先 員 數	泰 國 三五九	渡 航 先 員 數	泰 國 一一六
新 嘉 坡 新 三 八 九	新 嘉 坡 新 一 一 八	計 七 四 八	計 二 三 四

2、道路補修

最近ノ連續的降雨ノタメ密着道路ハ各所ニ破損ヲ生ジタルニヨリ修路夫ヲシテ補修工作ニ從事セシメ交通ノ安全ヲ期シタリ

第五項 澄海縣政府

一 治安ノ情況

澄海縣當面ノ敵ハ偽縣長李少如及游擊隊長洪之政ノ指揮スル十三ヶ中隊兵力約千五百ニシテ訓練裝備共ニ不十分ナリ

敵ハ皇軍部隊ノ進撃ヲ恐レ韓江左岸ニ今尙堅固ナル陣地構築ヲ急キツツアルモ其行動益々退嬰化シ我カ勢力函内ニ侵入セシヲ阻カズ治安ノ狀況良好ナルモ冠山郷、蓮田郷（南港江、北港江方面）以北ノ住民ハ人心最モ悪ク敵地へ密輸ノ幫助ヲ行ヒアルモノノ如シ
又金剛區蓬州郷、文浦方面ハ便衣隊土亞ノ出沒ヲ見ル

三 民生關係

1、專變後ニ於ケル各區郷人口ノ概況ヲ明瞭ナラシメ又聯防組織

ノ育成ニ資センガ爲戸口調査ヲ二月二十日一齊ニ各區郷所縣署
 察署ニ於テ調査ヲ開始セリ

尙調査完了ハ三月十日前後ノ見込ニシテ之カ調査ヲ俟ツテ良民
 證ノ交附ヲナス準備完了セリ

2、敵地ヨリノ流通物資中木炭約三十万斤、薪十万斤其他砂糖（
 数量不明）カ數ヘラル

3、皇軍部隊ノ整備ト良民保護ニ依リ近時歸來民及敵地ヨリ恐ろ
 ヲ逃レテ我カ勢力圏内ニ住居ヲ移ス者日一日ト多キヲ加ヘツツ
 アリ

民國二十九年十一月二十五日縣政府成立當時ニ於テ

四万五千餘名ナリシモ

民國三十年二月五日現在ニ於テ

六万五千ノ多キニ達シ

良民ハ安居樂業シ居レリ

4、日本人關係

本縣内ニ近時居住者増加シ八十一名ノ多キヲ數フルニ至レリ
 之ヲ職業別ニ見レバ宜撫用品取扱十九、慰安所三、食堂二、寫
 眞館二、醫者一ニシテ營業行爲以外ノ行爲アルヲ聞カズ又支那
 民衆ニ對スル不法行爲アルヲ見ズ

警察關係

縣政府成立以來銃意警察關係ノ組織ニ關シ準備中ニシテ着々之カ
 進歩ヲ見ツツアルモ教育訓練ニ關シテハ未々不完全ナリ

種別	員數	小銃數	小銃型	備考
第一區警察署	四〇名	三五	一五〇	使用可能小銃二〇
第二區	四〇名	三〇	一一〇	、
第三區	四〇名	二五	一三〇	、
第四區	六〇名	二五	一四〇	、
警察	二〇名			、
政務警察隊	三〇名	三〇	二一〇	使用可能小銃二一
計	二〇〇名	一四五	七四〇	計七五

水上警察隊

水上警察隊ノ編成ヲナシ水上ノ防備及密輸船ノ監視ヲナサント目下皇軍部隊ノ協力援助ヲ得テ準備中ナリ

水上警察隊編成豫定

人員六十名 資格高小卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ

採用方法 試験制度（主ニ人物考査）

教育訓練期間 第一期一ヶ月（第一期訓練終了後實地訓練ヲ經テ

卒業トス

教育方法 一般警察行政、犯罪搜查、精神訓練、衛生警察

特高警察

訓練方法 特ニ皇軍ノ協力ヲ得テ軍學教練ヲナス

二月中犯罪統計左ノ如シ

強 盜	一 二	竊 盜	二 二
便衣嫌疑	五	帶 鴉 片	五

附表第 二

昭和十六年十一月陸軍々人軍属非行表 中支那派遣憲兵隊司令部

所管所属	役種官等級	非行	非行、概要	處置
中支派遣憲兵隊 隊員上級隊渡辺 部隊	現一	三三三	一九二〇頃飲酒酩酊ノ上魚断外出 支那人住居ニ侵入口論ノ未成竹茶 行ス	非道通報所屬長 於テ重懲令「五 〇」ニ処ス
中支派遣馬屋 部隊加藤隊	現曹一	二二三	延刻外出甲飲酒酩酊シニ三〇〇頃 市安慰安所ニ到リ暴行居内ニ乱入ス 通報所屬長ニ於 テ重懲懐五〇日処ス	
中支派遣武田部 隊平木部隊白井 隊	精上一	二二七	外出甲二四〇頃飲酒酩酊ノ上慰 安所ニ到リ扇ヲ破壊同僚ニ暴行ノ爲 ス	非道通報所屬 令八日ニ処ス
中支派遣湯川部 隊	豫軍一	二二三	三二〇頃魚断外出ニ市四支那料理 店ニ於テ飲酒酩酊ノ上飲食店ニ到リ 支那人ニ暴行ス	非道通報所屬 三日ニ処ス
			軍事郵便檢閲ヲ免ル目的ヲ以テ慰 非道通報	

<p>中支派遣武内部 隊渡辺部隊本部</p>	<p>中支派遣(北平部隊 中支派遣并千隊 (倉橋部隊配屬)</p>	<p>中支派遣(祭筭 七三六部隊)</p>	<p>中支派遣 (三才第七七五部隊)</p>
<p>警衛官 一</p>	<p>軍属 一</p>	<p>現衛曹 一</p>	<p>現 一</p>
<p>二二五</p>	<p>二二五</p>	<p>二二六</p>	<p>二一六</p>
<p>安所張場名義ヲ使用支那側郵政 局ヲ通シ郷里ヨリ金百圓ヲ送金セシメ 一〇〇〇頃公用外出中市内支那人飲 食店ニ於テ飲酒酩酊ノ上支那人経営 運輸公司ニ到リ故ナク支那人ヲ殴打シ 之ヲ制止セントシタル支警署ヲ殴打ス</p>	<p>允許外出シ飲酒酩酊散策甲新街 口ニ於テ中國人華儀ニ遭遇スルテ衆人 ノ前ニ於テ靈柩ニ飛付テ華儀進行ヲ 停止セシメ附近ニ居合セタル上官ヨリ 其非違ヲ制止セラルモ之ニ應セス</p>	<p>戦友二名ト允許外出シ支那料理店 ニ於テ飲酒酩酊シ偶々未店ロシ他部 隊兵ト喧噪シ両者爭鬪スルモ至ル</p>	<p>戦友ノ喧嘩ヲ制止スルコトナク之ニ追 從喧嘩ス</p>
<p>所屬長ニ於テ最 重罰戒</p>	<p>非違通報部隊 長ニ於テ最重罰 諭</p>	<p>非違通報</p>	<p>非違通報重懲 舎一日 非違通報輕懲 舎一日</p>

<p>中支派遣松竹部隊 松田部隊</p>	<p>補上 一</p>	<p>一一三〇</p>	<p>許可外出申飲酒場所ニ支那人ヲ 殴打ス</p>	<p>非違通報部隊 ニ於テ嚴重説諭</p>
<p>中支派遣松竹部隊 松第三部隊本部</p>	<p>現曹 一</p>	<p>一一二二</p>	<p>飲酒ニ慰安所ニ立入り化券ヲ購入セ ス登樓シテラ以テ酌婦之ニ應セカリシ クメ激昂シ酌婦ヲ殴打暴行ス</p>	<p>非違通報部隊 於テ嚴重説諭</p>
<p>中支派遣松竹部 隊松第十部隊 清水隊</p>	<p>現一 二</p>	<p>一一二七</p>	<p>西名外出申虹口市内「カフエ」ニ於 テ飲酒場所ニ飲食代金拾壹円四拾 銭ヲ請求カルヤ所持金ナシト稱シテ 同々支拂ヒ且同店女給ノ態度横柄 ナリト難語感喝ノ上二五三項同店ヲ立 出テ附近露人「カフエ」ニ至リ再ヒ暴行 セントス</p>	<p>嚴論上所屬隊 責任者ニ不足代金 支拂フ如ク指不シ 身柄引渡ス</p>
<p>中支派遣 南部部隊但馬部 隊香川隊</p>	<p>豫少 一</p>	<p>一一一三</p>	<p>支那料理店ニ於テ飲酒場所ノ上飯途 綏靖軍將兵ノ謀策シアルヲ自己ヲ冷笑 シアルモノト誤認シ居合セタル綏靖軍 將兵五名ヲ殴打暴行ス</p>	<p>非違通報</p>

<p>中文派遣 南部隊但馬部隊 香川隊</p>	<p>現一 二</p>	<p>二、六</p>	<p>陣地構築用木材ノ調査採木ノ民家ヨリ養鶏七羽ヲ強要持取ラントス</p>	<p>非違通報</p>
<p>中文派遣 第一二機隊郵便 局第一分局</p>	<p>軍属(兵隊)一</p>	<p>一〇、三〇</p>	<p>人目僚ト共ニ飲酒場所ノ上ニハ。上司不在ナルヲ奇貨トシ又那人旅館ニ至リ又那人一ヲ不法暴行旅館主ニ始娘提供ラセテス 又、支那淫賣窟ニ至リ遊興痛泊翌三丁目 〇六三、級局入</p>	<p>嚴重説諭上所属 長三位ス 所属長ニ於テ訓告 於分三行ス 外出禁止(三丁目)</p>
<p>中文派遣中山部隊 古栗部隊</p>	<p>現上 一</p>	<p>六、一五 九及二</p>	<p>宜撫班勤務中支那婦女ト關係ヲ結ビ 軍記ヲ交スル 市内カフエニ於テ飲酒場所、上乗客ニ對シ暴行ヲ加フ</p>	<p>非違通報 長於テ訓戒ス</p>
<p>中文派遣大賀部隊 佐藤光部隊</p>	<p>補衛一 一</p>	<p>二、三</p>	<p>慰安婦ノ依頼ヲ受ケモルヒテ、其他、軍用菓料ヲ持出サントス 情ヲ知リテ前記兵一ノ行爲ヲ援助ス</p>	<p>非違通報所属長 ニ於テ重懲答テ、心 非違通報所属長 於テ重懲答名五日ニ入</p>

<p>中支派遣河南部隊 攻伊部隊山辺隊 中支派遣大賀部 隊至長部隊 置島隊</p>	<p>補兵 一 現任 一 二、二、一</p>	<p>二、二、一</p>	<p>魚斷外出ス 飲酒醜町ノ上支那人店舖ニ斬ニ侵入暴行ス 不要電線撤收作業中將校宿舍ニ魚斷侵入シ人ヲキテ奇貨トシ旋風機室内靴等各一ヲ所屬隊ニ持テ飲リ隱匿一部ヲ私用ス</p>	<p>非違通報 非違通報 金三田ヲ辦償セシメ所屬長ニ処置ニ任訓式ス</p>
<p>中支派遣河南部隊 隊梅行隊</p>	<p>隊兵長 一 九、二</p>	<p>九、二</p>	<p>漢口出張中料亭飲食店ニ於テ飲酒醜町ノ上女給ニ情交ヲ強要シタルモ之ニ應セス且本人ノ暴言ニ女給等カ逃避スルヤ之ニ憤慨暴行ス</p>	<p>非違通報 テ上記物ヨリ返着上重管舎ニリニ処ス</p>
<p>中支派遣青木部隊 陸軍中尉 陸軍中尉</p>	<p>役種不明 陸軍中尉 一 二、二、二</p>	<p>二、二、二</p>	<p>引率外出中飲酒醜町ニ集合時刻ニ遅レタルヲ魚斷慰安所ニ宿泊セントス</p>	<p>非違通報</p>
<p>中支派遣陸沢部隊 現衛見習士官</p>	<p>補一 一 二、七</p>	<p>二、七</p>	<p>言語不通下酒勢ヨリ逆ニシ夜間並成勤務中支那側對言士ヲ殴打ス</p>	<p>非違通報 所屬長ニ於テ重謹慎五日ニ処ス</p>

<p>中支隊遺豊島部隊 隊</p>	<p>中支隊遺阿南部隊 川原部隊塩野 隊</p>	<p>中支隊遺高橋部隊 高橋部隊益前隊</p>	<p>中支隊遺阿南部隊 大久保部隊本部</p>	<p>中支隊遺豊島部隊 高橋隊</p>
<p>現上、 一</p>	<p>補一 一</p>	<p>補一 一</p>	<p>予位 一</p>	<p>現一 一</p>
<p>二、七</p>	<p>二、三</p>	<p>二、五</p>	<p>二、六</p>	<p>二、七</p>
<p>公用外出中飲酒酩酊シ軍慰安所ニ到リ上衣ヲ脱シ下駄履トテリ飲食若シ並慰安所等ヲ彷徨ス</p>	<p>允許外出中飲酒酩酊シ慰安所ニ至リ馴染女ニ先客アリタルニ依リ酒勢ニ衆シ同所此場ニ暴行セントセルラ他部隊兵ニ制止セラル、ア激昂暴行ス</p>	<p>齒齧治療ノタメ武昌ニ出張中飲酒ノ上魚断外出シ軍慰安所ニ到リ遊興セントセルヲ休業中ニテ慰安婦ニ拒絶セルルヤ之ニ憤慨同慰安婦ヲ道路上ニ引出シ殴打ス</p>	<p>允許外出中飲酒酩酊シ上居留邦人(女)ヲ殴打ス</p>	<p>允許外出飲酒酩酊シ又那人ヨリ果物ヲ贈入セントセルモ言語不通ヨリ激昂器物ヲ破壊ス</p>
<p>非違通報</p>	<p>非違通報 所屬長於テ重 管舎五ロニ處ス</p>	<p>非違通報</p>	<p>同 右</p>	<p>破壊器物代(三)月ヲ賠償セシテ所屬隊ニ引渡ス</p>

<p>甲又激進北野部 伊丹部隊</p>	<p>甲又激進北野部 隊飛田部隊等部</p>	<p>甲又激進河南部 隊江口上部隊 河原隊</p>	<p>甲又激進早坂部隊 芥藤隊</p>	<p>甲又激進豐島部 隊菅原部隊原田</p>	<p>甲又激進豐島部 隊片岡部隊勝渡 運隊</p>
<p>衛一 一</p>	<p>軍長通款 一</p>	<p>現上 一</p>	<p>現伍 一</p>	<p>現一 一</p>	<p>補一 七</p>
<p>一一三三</p>	<p>一一二二</p>	<p>一一一六</p>	<p>一一三二</p>	<p>一一三五</p>	<p>一一二七 一一二八</p>
<p>日直勤務甲無断外出シ飲酒酌斷 徘徊ス</p>	<p>上司、監督充分ナラクルヲ奇貨トシ 辱ニ阿片ヲ吸煙シ遂ニ阿片中毒トナル</p>	<p>允許外出甲飲酒酌斷ノ上私娼窟 附近徘徊甲又那人ニ對シ暴行ス</p>	<p>戦友數名ヨリ借金遊興シ之ヲ為メ 鄰里ヨリ借金ヲ受ケルニ際シ所屬長 ノ通信檢閲ヲ免レントス</p>	<p>入院甲日夕英呼後鉄條網ヲ脱綱 飲食店ニ到リ飲酒ス</p>	<p>甲隊炊事場及當番室ニ於テ日夕 英呼後約二時間ニ亘リ賭博類似行 爲ヲナス</p>
<p>非違通報所屬長 ニ於テ重懲令下 ニ処ス</p>	<p>非違通報</p>	<p>非違通報所屬 長ニ於テ重懲令日 ニ処ス</p>	<p>非違通報</p>	<p>非違通報</p>	<p>所屬長ニ在 所屬長ニ於テ処 置考慮中</p>

[中略]
附表第四

昭和十六年十一月憲兵干與邦人(含台鮮人)犯罪表 中支那派遣憲兵隊司令部

姓名	任所氏名	犯行日	犯行ノ概要	處置	結算
本籍地 岡山縣小田郡 住所 南京市中山路八二 公文書偽造 日行使詐欺	本籍地 福岡縣八幡市 命社員 当三十六年	十五年 十月 日迄	保險外交員トシテ發動中信用取 得ト收入ノ増加ヲ圖ル目的ヲ以テ憲 兵中尉ト詐稱シ同中尉ノ服飾ヲ 僭用十五年三月公文書タル本籍地 村長泰給ノ身分證明書ヲ偽造行 使シ同年十月二十三日家屋讓渡 三藉口シ金五百圓ヲ編取ス	十一月廿四日 登部 隊軍法會議 三事付送致	昭一六 一三〇
軍中職保護法 違反	本籍地 福岡縣八幡市 命社員 当三十六年	二一八	被告ハ登部隊ヨリ會社紀配布 カレタル軍中極秘書類三通ヲ 自己ノ携行スル手提鞆内ニ納メ 自宅ヘノ飯途佛租界電車内ニ於テ 該手提鞆ヲ置キ志レ因テ軍中極秘 書類ヲ遺失ス	十一月十九日 一件 書類ヲ登部隊 軍法會議長官 宛検査報告	審理中

自殺
助殺

盗
盜

住所

上巻更宝興路ニヨ
号

貸座敷業
白痴

当二一六年

住所

湖南省岳陽縣
岳州洞庭路二四
号

本籍
德島縣板野郡

軍中慰安所帳場

当二一五年

昭二六

一〇、二五

自
三月上旬

至
十月下旬

軍属

当二一五年

終ル
コリ情死ヲ迫ラレルヤ之ニ同情シ
ノ購入シ未レルカルモノケンラ照
下シ
ノミ死セシ被苦ハ示遂ニ

軍特殊慰安所帳場トシテ稼働中

二同慰安所内ニ於テ三月上旬頃營
業主ノ上衣物入甲ヨリ軍票七
円ヲ竊取シ

二五月上旬帳場ニ放置シアリタル
營業主所有ノ腕時計(時價
一〇円)一個ヲ竊取シ別染女ニ手
交シ

三十月中旬同三直リ帳場内ニ於テ
當月ニ金合計四百三十二円(軍
票)ヲ盜取リテ竊取

七竊取ル代金公都ヲ遊興ニ費ス

十一月五日登部審
隊軍法會議
檢察官宛事
件送致

憲兵探知捜査
ノ上十月三十日願
事館並ニ察査者
ニ移送ス

定 禾 中 理 密

考	備	窃	盜	住前	本籍	長崎縣東彼杵	即	郡	
<p>九月之報中</p> <p>一一二二 偽造公文書行使 公文書偽造致欺 業務上損壞</p> <p>〃 窃 盜</p> <p>一一二九 偽造公文書行使 公文書偽造</p> <p>十月之報中</p> <p>一一二九 偽造公文書行使 公文書偽造致欺</p>	<p>九月之報中</p> <p>一一二二 偽造公文書行使 公文書偽造致欺 業務上損壞</p> <p>〃 窃 盜</p> <p>一一二九 偽造公文書行使 公文書偽造</p> <p>魚職</p>	<p>湖北省蒲圻城内 武漢紫煙公司 蒲圻出張所 吉力監督</p>	<p>湖北省蒲圻城内 武漢紫煙公司 蒲圻出張所 吉力監督</p>	<p>消シ他ハ隠匿所持ス</p> <p>吉力監督トシテ稼働中</p> <p>上司ノ出張不在ナルト候用支那人</p> <p>カ作業ノタメ出向不在アルヲ奇</p> <p>實トシ所長居室ニ侵入施錠シ</p> <p>アリタル戸研ヨリ扉票九百七十円</p> <p>ヲ取取シ九百十五円ニ同家床下</p> <p>ニ隠匿シ其他ハ遊興等ニ費消</p>	<p>自勤車</p> <p>運轉手</p>	<p>賀馬商</p> <p>外交員</p>	<p>總役二年</p> <p>二年間執行猶豫</p> <p>總役一年六月</p>	<p>未</p> <p>定</p>	

①昭和一六年二月陸軍々人軍屬犯罪表 [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭16)
 附表第一

昭和十六年十二月陸軍々人軍屬犯罪表 中支那派遣憲兵隊司令部

姓名	所屬	本籍	犯行	犯行概要	志置	處分
用兵上等官	大分縣日野	本籍	一三三	週番上等兵トシテ服務中 所屬勤務班ニ於テ飲酒泥酔シ 日々兵呼立會前位長一ヨリ服 装ヲ注意セラレタルニ立腹シ 兵呼儘カトル旨語カ何ヲ巧言 カ何カト暴言ヲ吐キ公然上官ヲ 侮辱シ 更ニ兵呼終了後狂態ヲ演シテ ル爲下士官兵等ニ執鞭セシメ ラレタルカ同日ニニモ頃起上リ兵 銃剣ヲ魚断拔取り下士官官 闖入シ矢筈ニ執獲諸書字ノモ 部伍長ノ右前膊部ヲ突刺シ兵 器ヲ用テ上官暴行シ且傷害シテ	所屬長ニ囑 ニ依リ復査トシ 十二月二十五日 團臨時軍法 會議檢察官 宛事件送致	中 審 理

亡 逃 中 軍

中 文 激 遣
原 第 二 九 三 五
部 隊 池 田 隊

現 二

三 二 二 三 一

二 日 二 二 二 四

ヲ 以 テ 知 取 ヲ

四 同 日 前 記 犯 罪 事 實 察 覺 自 來
所 屬 中 隊 ニ 於 テ 監 視 セ ラ レ ア リ タ
ル 方 同 月 二 十 八 日 矢 合 東 側 シ リ 脱 走
離 隊 外 走 二 十 四 日 富 陽 警 署 前
隊 庫 地 ニ 首 出 ス ル 迄 軍 中 政 令 未
後 ヲ 離 ル

二 三 月 三 十 七 日 登
部 隊 監 督 官
會 議 檢 察 官
三 事 行 送 致

石 岡

一 長 沙 作 戰 參 加 途 中 富 陽 懸 念 所
ニ 在 ル 情 婦 ヲ 認 慕 ノ 餘 リ 七 月 十 八 日
自 己 ノ 疾 病 ヲ 誇 張 妄 診 ニ 赴 ヲ 依
シ 前 記 情 婦 ノ 許 ニ 到 リ 同 月 二 十 七 日
急 性 大 腸 炎 ニ ラ 入 院 ス ル 迄 軍 中
在 リ テ 故 ヲ 入 日 間 餘 職 役 ヲ 離 レ
二 更 大 腸 炎 治 癒 退 院 後 前 記 情
婦 ノ 許 ニ 到 リ 流 連 遊 興 シ 其 後 軍
醫 作 成 五 八 年 公 入 書 ヲ 偽 造 入 院
十 月 六 日 治 癒 退 院 後 憲 兵 ニ 送 捕

中宣公七文書偽造行使節用

殺 人

中宣公遺書偽造
部隊本部

中宣公遺書偽造
六八〇部隊本部

不籍
長崎縣南高

示約

平上

三二一九三

不籍
福岡縣西白河

一一三九

自
一、一、白
三
二六

ヒナルト追軍中ニ在リテ故テクニ
四日余職役ニ就ラス

三前記入院ワコ公用證ヲ偽造魚断

外出シ

四葉アルニ不致前記情場ニ對シテ

婚スルト詠後、上文再ノ意ニテ

流連遊興セル花代七百三十八日ヲ

詐取シ

三尚情婦ノ欲心ヲ得シク爲シ六始

天部並野武病院ニ到リ死入喜ヲ

偽造之ヲ行使シ以テ多量ノ衛生

材料ノ交付ヲ受テ情婦ニギクシ

六外出時常時軍中ヨリ襟章ヲ所シ

服飾管見ス

魚断外出シ飲酒部町ニ持込慰

安所ニ到リ同シク臨断セル野武舎

庫ニ勤務初共一ト口論格闘シ遂ニ逆

上殺意ヲ生シ携行セル二十六式卷

憲兵檢事獲
查ノ上十一月二十

四日召集團長

野重法會議

長官ニ死傷重

報告

折尾長ノ死
此ノ度至ノ上
二月四日召集團
長野重法會議
檢察官宛書

會 理 中 同 石

① 昭和十六年二月 中陸軍々人軍屬非行表 「中支那派遣憲兵隊司令部」 (昭16) 附表第 二

昭和十六年十月中陸軍々人軍屬非行表 中支那派遣憲兵隊司令部

所管 所屬	役種官等缺員	非行月日	非行ノ概要	處置
中支派遣吉田部 隊朝比奈隊	現 上 一 一三四		允許外出シ飲酒臨所、 上慰安所ニ到リ休業中、 慰安婦ニ接客ヲ要求拒 否エラル、ヤ月女ヲ毆打暴 行ス	非違通報所屬隊長 ニ於テ嚴諭
中支派遣祭田三 九部隊紺屋隊浦 口隊	補陸 一 一三七		公用外出中飲酒臨所 上旅館ニ立入り夫那婦人 ト口論ス	説諭、上所屬隊長ニ引 渡シ所屬隊長ニ嚴諭ス
中支派遣岩本大三七 部隊	現軍醫留宇尉 一 一三七		外出中「カフエ」ニ於テ飲 酒臨所、上些細ノ事ヨリ 常人ト喧嘩口論シ且暴 行ス	憲兵説諭、上非違通 報部隊隊長於テハ嚴重 訓戒

<p>中又派遣第六四三 部隊 桑奈部隊</p>	<p>中又派遣第六九七 五部隊</p>	<p>中又派遣第七九九 部隊 古西隊</p>
-----------------------------	-------------------------	----------------------------

<p>軍 屬 一</p>	<p>現 一 一</p>	<p>現 一 一</p>
------------------	------------------	------------------

<p>一二二九</p>	<p>一二二〇</p>	<p>一二二七</p>
-------------	-------------	-------------

<p>部隊内ニ於テ飲酒酩酊上 脱離外出シ浴衣ニ上外套ヲ着テ隊ニ於テ嚴重訓戒ヲ受 シ服装ヲ茶室ニ遊撃ビニ上テ</p>	<p>路傍ニ放置ス 程度)ニ般連外被燒創ヲ 部ヲ破壊損害額約二十由</p>	<p>退院敵隊ノ途中在而京戰 友家ニ於テ飲酒酩酊シ 再ヒ南京中碑亭巷「白」 食堂ニ到リ所持金一日ルニ モ不抱日本酒四本(價格三由 六丁銀)ヲ飲酒更ニ「白」ル瓶 ヲ以テ窓硝子ニ枚ニ破壊ス</p>
---	---	--

<p>憲兵説論ノ上通報所屬</p>	<p>憲兵説論ノ上所屬隊 ニ引渡シ所屬隊ニ於テハ 二月間外出ヲ禁止ス</p>	<p>憲兵説論ノ上所屬隊 ニ非違通報</p>
-------------------	--	----------------------------

<p>中支派遣(河南)部隊 溝口隊</p>	<p>補上 二</p>	<p>一三九</p>	<p>允許外出中(幸)人某館ニ於テ上月余ニ相當スル魚飯飲食ヲナス</p>	<p>所屬長ニ通報 所屬長ニ於テ支拂アルヲ以テ處置ニ任 討伐参加中ニ付未處置</p>
<p>中支派遣(明)九〇二部隊</p>	<p>現上 一</p>	<p>一三六</p>	<p>允許外出中(露)店支那人ヨリ鎖ヲ買ヒトセルモ高價アルヲノ立去ラントモ際^廻那人カニ個没有您小盜^ト呼ヒタルニ憤慨シ同人ヲ毆打暴行ス</p>	<p>本人(東)某傭行本校へ派遣ノ途ニテ且改換ノ情願着アル爲輸送指揮官立會ノ上被害者ニ治療費三丁目ヲ惠與セシム</p>
<p>中支派遣(大)久保隊 隊北沢隊</p>	<p>軍屬 一</p>	<p>一一五</p>	<p>特殊慰安所ニ到リ飲酒酌斷ノ上同樓家屋ヲ破壊スル等ノ暴行ヲナス</p>	<p>非違通報</p>
<p>中支派遣(山本)省部 隊岳州又隊</p>	<p>軍屬 一</p>	<p>一一三</p>	<p>允許外出シ飲酒酌斷ノ上慰安所街ヲ徘徊中酒勢ニ乘シ慰安婦ニ名ニ暴行ス</p>	<p>所屬長ニ通報 被害者ニ對シテハ所屬隊ヨリ各三丁目、慰料料惠與ス</p>
<p>中支派遣(武)部 隊山上部隊春藤隊</p>	<p>補上 一</p>	<p>一一三</p>	<p>允許外出シ飲酒酌斷ノ上慰安所街ヲ徘徊中酒勢ニ乘シ慰安婦ニ名ニ暴行ス</p>	<p>所屬長ニ通報 被害者ニ對シテハ所屬隊ヨリ各三丁目、慰料料惠與ス</p>

<p>中文激遣青藤部 隊梅村隊</p>	<p>中文激遣廣部七三 五部隊</p>	<p>中文激遣大賀部 隊佐木部隊清 瀬隊</p>
<p>予兵長</p>	<p>現曹 予軍</p>	<p>現一</p>
<p>一 二二九</p>	<p>一 二二三</p>	<p>一 九二三</p>
<p>飲酒酌斷ノ上允許外出 シ隊ヲヨリ知セタル軍慰 安所ニ到リ日主人ニ二百 圓借用方甲出テタルモ 之ヲ拒絶セラルヤ酒勢 ニ乘シ同主人並ニ同室ニ居 合セタル慰安婦ヲ殴打ス</p>	<p>飲酒酌斷ノ上允許外出 シ應城ノ内食堂ニ到リ再 ヒ飲酒中同食堂ニ居合 セタル又那人ノ態度不遜 ナリトテ殴打暴行ス</p>	<p>檢閲室宛中金指環三 個及一圓銀貨四丁三枚ヲ 押放シテラ上司ニ報告ス 出トテノ居室ニ保管ス</p>
<p>嚴諭ノ上所属長ニ口 頭ヲ以テ非違通報</p>	<p>嚴諭ノ上所属長ニ引渡 ス</p>	<p>非違通報 所属長ニ於テ重懲令 七廿ニ處ス</p>

昭和十六年十二月憲兵關與邦人(含台鮮人) 犯罪表 中支那派遣憲兵隊司令部

罪名	内台、鮮人別、職業、性別、氏名、年令(本籍、住所、役種、官字級)	犯行月日	犯行概要處置	處分
贈 賄	水籍 兵部隊神戶市灘區 住所 安徽省蕪湖市中山路 無職	自 三、二 至 三、二	物資搬出入之関シ便宜供與シ受クタル所ニシテ警備隊長(准尉)ニ按テ近シ數回ニ亙リ約二百三十餘相當之糧食應ヲ為シ或ハ藝妓ヲ提供シ憲兵會談檢脩隊長ヨリ預リタル法幣一萬二千餘圓ニ至五百元ヲ無斷攜帶上海ニ到リ内件送致二千四百元ヲ檢領費消ス	藤
領 續	[Redacted] 昔二十五年		元瀋州部隊一軍爲トシテ勤務中後記相報告 [Redacted] 卒、勳勞ヲ十二月十二日受テ同入等ト共ニ約十四日同支那派遣部隊倉庫ヨリ軍用白米六十袋、軍人法命、食糧三張砂糖一俵ヲ竊取シ地方ノ議檢察官	理
盜	木籍 廣東縣廣島市 住所 右 同 洋服裁縫業 [Redacted]	自 三、二 至 三、二	[Redacted] 經手行送致	中

<p>兵役法施行規則 遼</p>	<p>窃盗</p>	
<p>本籍 福三縣南條郡 住所 河南省信陽縣城內 日六人街一五號 豫桂一</p>	<p>本籍 鹿兒島縣所屬阿蘇 住所 上南島中實公廟八三 留持券慰勞所教島校内 引忍文婦 當二十五年</p>	<p>當二十一年</p>
<p>百五十九 至六十二</p>	<p>一六 二二三 二二五 二二九</p>	
<p>渡支ニ際シ聯隊區司令官宛外國 旅行届ヲ提出スヘキニ之カテ續 ヲ怠タリ湖南省信陽到着後 外國在留届ヲ忘却シ在留五テ 月余ニテ手續ヲ為シタル又同手 續提出以前臨時召集發令サレ 同令收交付ヲ不能ナラレム</p>	<p>軍持券慰勞所ニ於テ豫高ヲ金 銀長期タル結果連隊(軍十八 萬)或ハ操場賣溜合ヨリ前發 三回三直リ四百五円ヲ窃取ス</p>	<p>支那人五名ヲ發見スルマ之ヲ 抑留ノ上部下支那人ヲシニ四 百元ヲ喝取セシム</p>
<p>福三縣南條郡 司令官ニ發 並續江憲兵 分隊長ヨリ 移送ヨリ搜 査ノ上十月 三十一日在漢 口總領館檢 定</p>	<p>南島領事 館警署署長 ニ事行移 際</p>	<p>報告</p>

反
當三十五三

右同
本籍
三宜縣縣名部
住所
湖北省隨縣新河下城內
補陸一
當三十一三

款
詐
本籍
滋賀縣甲賀郡
住所
河南省信陽縣信陽城內
白砂九二分
當三十一三

自
一〇二

自
一〇二
至
六九
至
二九

自
六五
至
一九
至
六二
至
二二

渡支之際に聯隊區司令官先外
國旅行(在留)居ヲ提出スヘキニ
之カ手續ヲ怠リ渡支後江西南
南昌市並湖北省漢口應山前
河等各地ヲ轉々トシテ其間
昭和十六年九月三十日本籍ニ於
ケル簡閱點呼ヲ怠居不參ス

一支拂能力ナキニ不初他人ヲ欺
用ニ前後五回ニ亘リ二百三十四
圓取レ
ニ支拂ノ意志ナク他人ヨリ前後
二回二百圓ノ物品ヲ購入之カ代價ニ
十九圓十錢取取シ
三前後二回ニ亘リ計二十五圓六錢
ノ無銭飲食ヲナス

支拂取板
宛事行送致
漢谷(漢分
隊ヨリ)移隊
ニ依リ捜査
上土月二十五
日在漢口總
領事館檢査
ヲ務取板
宛事行送致
捜査上二二
月十二日在漢
口總領事館
檢査ヲ務取
板宛事行
送致

宛事行送致

宛事行送致

宛事行送致

人事秘密

軍紀違犯者ノ件特別報告

一 所屬官氏名

第十三師團經理部附現役陸軍主計曹長

二 發生月日時

一月三日二一三〇頃

三 違犯事項ノ概要

共ニ昭和十七年一月三日一七三〇頃宜昌市日華區
所在ノ軍人食堂日華俱樂部部ニ於テ第十三師
團經理部附ヨリ内地部隊ニ轉出スベキ下士官ノ
送別宴ヲ催シ終了後吉川准尉外三四名ト
市内ニ馬路銀珍食堂ニ立寄り飲酒酩酊上更
ニ市内平和聖軍特殊尉心安所おやめ本館ニ到

四動機

其ノ玄關内廣間ナル慰安婦客待所ニ於テ狂
 燥乱舞中二三ノ頃偶々慰安所素見ニ來
 會セル獨立兵第八聯隊副官陸軍大尉野路
 宗十郎同聯隊附陸軍中尉谷村政男及
 同聯隊中隊長陸軍中尉宇尾喜入松トノ間ニ
 紛争生シシ
 過ツテ傍ニ在リシ谷村中尉ノ左前胸部第二肋
 骨部ニ長サ約八厘深サ約二五厘ノ横狀切創全
 治三週間ヲ要シメタリ

前記



かあやめ本館玄關内廣間ニ

於テ放歌乱舞シ在リシ吉川准尉ニ對シ敬禮ヲ
 要求シ敬禮ヲ爲セル吉川准尉ノ態度不良ナ
 リトテ更ニ叱責シ且其ノ襟首ヲ突飛セルヲ見ルヤ

五處置

傍ニ在リテ酩酊自制心ヲ失ヘルハ該大尉ノ
 言動ニ對シ極度ニ激昂シ偶々携帶シ在リシ
 吉川准尉ノ軍刀(實際ハ部附奥田技手ノモノヲ
 吉川准尉ガ間違ヘテ携行セシモノヲ更ニ
 帶セシモノナリ)ヲ抜キ放チ振リ廻シツ、二三歩前
 進シ[REDACTED]ヲカサテ追道走セシメタリ其際傍
 ニ在リタル谷村中尉ニ對シ受傷セシタルモノナリ

師團長ハ首子ニ直昌憲兵派遣隊長ヲシテ事件ノ調
 査ニ任セシメ[REDACTED]主計曹長ヲ搜查處分ニ附セシメ
 獨立工兵第八聯隊長ハ[REDACTED]又第三師
 團經理部長ハ吉川主計准尉ヲ夫々重謹慎十日
 ニ處シ將來ヲ誠ムル所アリタリ
 六責任者處分

師團長第六第十三師團經理部長陸軍主計大佐
 對馬俊夫^二對^シ部下^ノ監督指道^寸不十分^カ
 廉^ニ因^リ重^シ謹慎三日^ニ處^ス



陸軍

特別報告中軍人變死ノ件報告

一 官等 陸軍一等兵

二 氏名 昭和八年徵集

三 所屬部隊 步兵第百十聯隊本部

四 月日時 三月十三日二二〇〇

五 場所 湖北省宜昌縣宜昌市ニ馬路

六 手役 聯隊行李班長代理石島兵長ニ十六年

七 式拳銃 (彈藥ニ十三發共)ヲ以テ自殺ス

七 平素又ハ變死前後ニ於ケル參考事項

昭和十七年一月頃ヨリ此紫金嶺慰安所ヲ慰安
婦(半島人)ト遊興ヲ續ケ遂ニ將來同

搜ヲ志シ偶々部隊ノ配備變更ニ伴ヒ宜昌ニ移動

シ三月十二日宜昌ニ馬路飲食店大阪屋ニ於テ

既ニ紫金嶺ヨリ宜昌慰安所ニ力支店ニ引揚

ン来レルト構曳シホノ除隊現地就職
 時機迄大阪屋女給トシテ奉ハムシ速カニ尉安婦
 ヲ廢業スヘキ旨ヲ要求セシモ即答ナカリシヲ以テ
 明十三日雨會目ヲ約シ翌十三日日夕點呼後聯隊
 行李班長代理石島兵長既巡察ノ為不在ナルニ
 乘シ同居室ヨリ二十六年式拳銃(彈藥二十三發共)
 ヲ持テ出シ無斷外出シ大阪屋ニ赴キ
 呼ビ出シ前日要求ノ確答ヲ迫リシモ拒絶セラレ
 興奮ノ餘リ二一五頃所持シ來リシ拳銃ヲ發
 射シ
 二重傷(右胸部首官銃創)ヲ負ハシ
 メ其殮ルルヲ認ムルヤ自己ノ咽喉部ヲ自ラ射算
 瀕死ノ重傷(咽喉部首官銃創)ヲ負ヒ第四
 野戰病院林宮内雨軍醫少尉ノ手當ヲ受ケ
 第四野戰病院ニ担送中二三〇絶命セリ

陸 軍

八原 因 將來同棲ヲ志シタル尉心安婦ノ同意

ヲ得ザリシヲ他ニ情夫アリト邪推嫉妬曲解輿奮

セルニ因ルモノト認ム

九 故意又ニ不可抗力ノ別

故意

一〇 既遂未遂ノ別

本人ハ絶命セルモ被害者ハ全治約一ヶ月ヲ要スル見込

ニテ目下第四野戰病院ニ入院中ナリ

一一 處 置 三月十三日二〇〇頃直昌憲兵派遣隊

ヨリ右事件ノ通報ニ接シ聯隊本部日直士官渡

邊曹長現場ニ到リ次イテ西村副官驅ケツケ調

査上死體ヲ引キ取り翌十四日二〇〇茶毗ニ付ス

一二 責任者ノ處分

聯隊長ハ聯隊副官西村少尉ニ對シ政監督指導

〔以下略〕

軍紀違犯事件詳報

一、發生年月日

自昭和十六年五月下旬

至昭和十六年十二月初旬

二、發生場所

宜昌 患者輸送部第三班

三、違犯事項ノ概要

第三班、宜昌駐留間、昭和十六年五月下旬ヨリ、昭和

十六年十二月初旬、亘ル間ニ於テ屢々糧秣倉庫及

衛生材料庫内ニ盜難アリテ、當該部隊ハ極カ内外ニ

亘リ搜查セルモ、發見ニ至ラス、引續キ警告戒申十二月

六日漢口移駐後、班長内務検査宜實施、際陸軍

衛生軍曹 [redacted] ノ手箱内ヨリ宜昌慰心安所慰

安婦 [redacted] ヲ封書一通、及陸軍衛生一

陸軍

筆兵

發信ノ

軍曹宛同封 信書一

通ヲ發見シ其ノ内容ニ盜難ニ関ル係アリト認メラル
ル不審ノ點アルヲ以テ當人ニ就キ取調ヘタルモ容易ニ
自供セス且フ宜昌ノ遠隔ニシテ調査ノ困難ヲ感シ漢
口憲兵分隊ニ調査方ヲ委囑セリ其ノ結果左記犯
罪判明セリ

陸軍衛生軍曹

右ハ昭和十六年五月下旬ヨリ同年十二月初旬ニ至ル間
前後十數回ニ亘リ自己カ保管出納保助手ノ職
責ヲ利用シ「モルヒネ」注射液約三十本 蚊取線香約
四五箱 其他衛生材料ヲ横領シ馴染慰安婦ニ
與ヘ又同年十二月 班移駐ノ際日用品トシテ經理係
保管ニ係ル支那紙ヲ竊取シテ軍票 三拾圓ニ盡
却セリ

陸軍衛生(其五)

陸

軍

右ハ昭和十一年五月下旬ヨリ同年十一月下旬初旬ニ亘ル間ニ於テ糧秣倉庫内ノ白米・味噌・鰯・砂糖ヲ持テ出シ之ヲ慰安婦ニ配ラセタリ

昭和十一年四月頃内務省ニ於テ杉田隊外出証ヲ拾得シテ之ヲ外出ニ利用セント企圖シ漢口移駐後事務室ニ人ト本隊ヲ窺ヒ隊印ヲ押捺シテ公文書偽造タル外出証ヲ所持セリ同年七八月頃宜昌ニ於テ支那人子供ヨリ米約五斗及石油ヲシテ掠奪シ馴染慰安婦ニ配シ又同年八月宜昌某ニ野戦病院ヨリ「六〇六」ヲ注射液ヲ詐取シ同地慰安所「あやめ」懐湯田口某ニ注射ヲ施シ軍票拾圓ノ謝禮ヲ受ケタリ

四原因

過度ノ飲食遊興ノ為ニ遊興費ニ窮シ且ツ馴染慰

安婦ノ歡心ヲ買ヒンガ為ナリ

五 是處置

匪長ノ取調ニ對シ
 齊金一筆ヲ兵ハ外出証偽造關
 又シ自供セラセ其ノ他ニ関シテハ兩名共頑トシテ自供セ
 ス且ツ犯罪地ノ遠隔ニシテ取調困難ナルヲ以テ一月三
 十日身柄ト共ニ狭口憲兵分隊ニ捜査ヲ依頼シ前
 記犯行判明セラルヲ以テ犯行ノ軍紀ニ及ホス影齋音
 重テトルニ鑑ミ直ニ檢察處分ヲ寓兵分隊ニ委
 嘱セリ

六 是責任有ノ是處分

第 五 惡 者 翁 送 部 長 八 左 ノ 如 ク 夫 々 責 任 有 者 處
 分 ス

陸軍軍醫中尉

右ハ衛生材料係トシ其ノ保管少納適切ヲ缺キ

陸軍

下級者ノ指導ヲ監督不十分ナル結果 助手下士官ヲシテ
官物檢領ノ犯行ヲ犯サシムルニ至ラシメタル 科ニ依リ輕
謹慎三日ニ處ス

陸軍中尉

右ハ經理糧秣係トシテ其ノ保管出納適切ヲ缺キ下級
者ノ監督指導不十分ニ至リ屢々糧食物品ヲ竊取セ
ラルルニ至ラシメタル 科ニ依リ輕謹慎二日ニ處ス

陸軍中尉

右ハ班長トシテ部下ノ監督指導適切ヲ缺キ部下
下士官及兵ヲシテ軍紀風紀ヲ紊リ皇軍ノ威信ヲ
失墜セシメタル 科ニ依リ重謹慎五日ニ處ス
七、其ノ他必要ナル事項

陸軍衛生監督

ノ 経歴、職業、教育程度

〔以下略〕

⑮軍紀違犯事項二関スル件報告〔支那派遣軍總司令部〕(昭17・3・30)

總司令部第五〇號

特別報告提出ノ件

昭和十七年三月三十日

支那派遣軍總司令部

陸軍省 御中

時適宜報告を爲規ニ依ル旨應ノ件左記ノ通提出ス

記

軍紀違犯事項ニ関スル件報告一通(別紙)

上海憲兵隊本部 陸軍憲兵軍曹

同 右

蘇州憲兵隊 蘇州憲兵分隊

陸軍憲兵伍長

二月九日

17.4.18 防衛課

17.4.22

17.4.20

17

17

処置	動原 核因	概 要	違 犯 事 項
<p>二月十日過失傷害致死罪トシテ登部隊臨時軍法會議 檢察官ニ事件送致セリ</p>	<p>醉余ノ過失ニ因ル</p>	<p>取ラントセル刹那同任長ニ暴發余中レ為ニ同任長ニ 左耻部腹部穿迹性首管銃創並左甲后爪根部貫 通銃創ヲ負ハシメ遂ニ二月十一日死セシムルニ至ラレ メタリ</p>	<p>■ 彈曹ハ二月九日一九。頃構内酒保ニ於テ同課勤 務加藤伍長ト飲酒醉余ニ。頃西名相携仍ヘテ 無断外出レ上海市虹江路慰安所ニ於テ ■ 彈曹 カ携行セル抑収拳銃ヲ取出シ彈丸ヲ抽出セントナリタ ルモ容易ニ抽出シ得サレテ以テ加藤伍長カ抽出スヘク受 取ラントセル刹那同任長ニ暴發余中レ為ニ同任長ニ</p>

<p>其 他 事 務 頭 考</p>	<p>貴 任 者 の 処 分</p>
<p>一 家庭ノ状況 一家ハ父母兄弟弟十三名暮ルテ精米業ヲ営ミテモ 家計裕福ナラス ニ 前科 ナシ ニ 教育ノ程度 中学卒業 四 平素ノ勤務状況 本部長務課ニ在リテ警備中服務レ其成績概不良好 ナリ</p>	<p>所屬憲兵隊長ニ於テ 一 部下ノ指導監督不行届ノ科依リ第一課長 譴責 副官 輕謹愼 三日ニ処セリ 二 兵器係主任將校ハ兵器ノ保管取扱適正ヲ欠キタル科ニ依リ 輕謹愼 二日ニ処セリ 三 迴審士官ハ迴審勤務ノ適正ヲ欠キタル科ニ依リ輕謹 愼 一日ニ処セリ 四 内務班長ハ班員ノ指導監督不行届ノ科ニ依リ輕謹愼 三日ニ処セリ</p>

[以下略]

昭和十七年一月陸軍々人軍属犯罪表 中支那派遣憲兵隊司令部

姓名	所屬	官階	籍貫	犯行	概要	處置	處分
上官	中支派遣	本籍	大分縣宇佐郡	三三二	飲酒酩酊上 二二三口頃同隊下士官 室到リ無断ニ寢台 ニ就床セントシタルヲ同 下士官ヨリ返望シ上就寢 ス、夕説示セラルルヤ憤 概ノ上ニ問答後伺ラ ト反抗的態度ヲ示シ タルヲ同隊長ニ叱責セラ ルヤ	所屬表ヨ リ委嘱 依リ捜査ノ 上一月十日 呂集團臨	結果
侮辱	部隊石上隊	本籍	大分縣宇佐郡	三三二	下士官九何カヤルテラ	時軍法会 議長官宛 捜査報告	審
侮辱	部隊石上隊	本籍	大分縣宇佐郡	三三二	下士官九何カヤルテラ	時軍法会 議長官宛 捜査報告	中

	<p>竊盜 竊盜</p>	
<p>中支派遣</p>	<p>登才七三三七 部隊吉谷隊</p>	<p>中支派遣</p>
<p>本給精</p>	<p>長野縣岡谷市 現一 当三十三号</p>	<p>本給精</p>
<p>奥漫線官控駅ニ取長 並助役トシテ服務中 ト共ニ</p>	<p>戰多時計四個時價約 甲二月ヲ竊取シテ外 部隊内ニテ拾得セル 時計及財布各二個 (時價約共六円)ヲ着服 其ノ一部ヲ賞印シ 飲食ニ費消ス</p>	<p>華街露店西替屋ニ 到リ前記同株券銃 ヲ以テ威嚇シ軍中面示 二百拾八分ヲ掠奪ス</p>
<p>十二月二十日 當人三名</p>	<p>一月三十五日 登才七三三〇 部隊 軍法會議 檢察官 宛事件 送致</p>	
<p>審</p>	<p>平一役懲</p>	

款款

收賄

呂弟五三七一

部隊

岩田部隊

市川隊

愛知縣井筒郡

予軍下

当三十年

本籍

石川縣北郡字

予兵三

当三十年

昭二六

自五月

三月

(功後) 下六謀犯意

繼續 上前筋大回

百ヲ在官塘邦人四月

職務三周三軍票八十五

内黒短靴一足 毛絲製

分多一枚ヲ收受該

軍上宗ノ一部ヲ遊興ニ

賞有殘額ハ發令或ハ

保管ス

上在官塘邦人ヨリ金

品ヲ收受シ

昭和十六年 春上旬ヨリ

九月中旬迄ノ間在官

塘慰安所ニ於テ遊

興シ之ヲ遊興費ニ充

呂集木田

臨時軍佐

全議長官

宛

搜查報告

理

中

昭和十七年二月陸軍々人軍屬犯罪表

中支那派遣憲兵隊司令部

罪別	所屬	本籍 役程官等級 氏名年令	犯行 日期	處置	處分 結果
同兵器 官果執行 抗命	中支派遣 第五五五 部隊	本籍 福岡縣鞍手郡 現一軍 本籍 福岡縣三浦郡 現一 本籍 當二丁四年 當二丁三年	二月五日 二月三日 項 公務出張、飯途 の武昌市に於て飲酒酌酌の上 軍曹ハ映画劇場内及那人賣店 に於て暴行シ將校ヨリ制止セラル モ之ニ從ハス 同將校ヨリ反抗的態度ヲ詰問 セラル 將校力何夕此方へ来イ ト運呼左手ニテ拔劍右肘部ヲ 以テ數回同將校ニ体當リテ局シ 或ハ銃劍ヲ右手ニ持テ替へ前方 ハ突出シ 兵一モ之ニ助勢シ右ニテ帶劍	被言者右 出並所屬隊 毎囑ニ依リ 捜査ノ三月 二十四日召集 團臨時軍法 會議長官宛 捜査報告 中 理 審	審 中 理 審

用共器
上官暴行
傷 害
並
傷害致死
隊

中又派遣
隊第六九一
部隊藤田

本籍
高知縣安藝郡

補上

三十二年

自
二月三日
二三、三
二月四日
二〇、二〇

柄ヲ握リ拔劍スル如ク身構ヘ同
將校ニ向キ
山砲ヲテメタカ 將校カ何タレト
呼ニ危害ヲ加ヘントスル氣勢ヲ示シ
依テ兩名共ニ兵器ヲ用ヒ上官ニ
暴行脅迫ス

(1) 二月三日加給品ノ酒及戰友ノ懸入シ
来レル支那酒ヲ飲ミ酪酊ニ兵舎内
ヲ徘徊シアリタルヲ衛兵司令並
下士官ニ注意セラルヤ憤慨シ手榴
彈三個ヲ持出シ兵舎裏口内ニ於テ
放棄中ヲ週番上官及前記下士官
ヨリ再ヒ注意マシタルヤ上官タルト
ラ認識シ取テ手榴彈ヲ投擲シ依テ
兵器ヲ用ヒ上官ニ暴行シ

(2) 右手榴彈ノ炸烈ニ依リ前記下士官
ニ及兵ニ傷害ヲ與ヘ中一名ヲ死ニ
至ラシム

所屬長依
囑ニ依リ搜
査ノ二月三
十三日迄
臨時軍法會
議長官宛
搜查報告

審
理
中

用兵器 上官暴行 脅迫	用兵器 上官脅迫	用兵器 上官脅迫 傷命 害隊
中支派三連 猪第六八四六 部隊	中支派三連 猪第六八四六 部隊	甲又派三連 谷第四三三四 部隊 兇王
本籍 和歌山縣有田郡 現上 当二丁五年	本籍 東京市下谷區 地 現一 当二丁四年	本籍 東京市下谷區 地 現一 当二丁四年
一、二、五	一、二、五	一、二、五 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
允許外出申飲酒酌所ノ上慰安所ニ 赴キタル際同所張場ニ於テ待機中ノ 同隊幹部候補生(室曹)負谷正三對 シ、オイ、負谷ト呼掛テタルカ負谷候補 生ケ素見の態度ヲ以テ應答セルニ復	前記下士官ニ對シ銃劍ニテ科ケ 責務モアルノカト拔劍ノ氣勢ヲ示シ 兵器ヲ用ヒ上官ヲ脅迫ス	(一) 一月十四日駄馬相付ニ端ヲ齊シ古参 二幸兵一ト裕騎ヲ爲シタル兵長一 ニ付裁セラレ且足蹴ニセラレタルニ憤 既ニ右兩名ニ對シ復讐心ニモノト決 意シ其後同兵長ノ後方ヨリ歩兵 銃ニテ頭部ヲ毆打シ約四程ノ墜傷ヲ 与ヘ (二) 復ニ分隊長及下士官ニ制止セラレタ ルモ之ニ従ハス前記上等兵ニ暴行シ (三) 前記暴行中引止ノラレタルニ憤慨シ 前記下士官ニ對シ銃劍ニテ科ケ 責務モアルノカト拔劍ノ氣勢ヲ示シ 兵器ヲ用ヒ上官ヲ脅迫ス
二月二日召集 團臨時憲法 會議檢査 官宛事件送 致	報告 長官宛検査 報告	所屬長ヨリノ 旅囑ニヨリ控 査ノ上二月五 日召集團臨時 會議法會議 長官宛検査 報告
中理審	中理審	中理審

〔以下略〕

⑬ 昭和十七年二月軍人軍屬非行表 [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭17)
附表第二

昭和十七年二月軍人軍屬非行表 中支那派遣憲兵隊司令部

所管所屬	役種官等級	非行月日	非行概要	處置
中支派遣憲兵隊服部隊	現 伍、一、	二、一、	<p>允許外出中ニセ。頃醉餘基督病院職員宿舎ニ侵入シ及那人ヲ毆打輕傷ヲ負ハシメ且服裝ヲ奈シ泥靴ヲ穿ケタル益寢台ニ横臥ス</p>	非違通報
中支派遣憲兵隊第六三七部隊白開隊	予 曹 一	二、七、	<p>飲酒酩酊ノ上ニ頃慰安所ニ登樓シ慰安婦ト對談中自己ノ財布及時計ヲ戦友ニ預ケ置キタルヲ忘失シ該女ヲ竊取セルモノト誤認シ抜刀ニ該女及樓主ヲ詰問ス</p>	同 石
中支派遣憲兵隊	予 伍 中、一	二、九、	<p>ニニ。頃醉餘慰安所ニ赴キ居合セタル他部隊伍長ノ態度不遜アリト之ヲ毆打暴行ス</p>	<p>所屬長ニ非違通報所屬長ニ於テ重謹慎ト日ニ處ス</p>
祭第七三六七部隊永野隊	現、一、一、	二、一、		

甲支派遣 鑛山教習隊 第一甲隊	甲支派遣 米第一六三九部 隊製水工場	甲支派遣米第一 六三七部隊稽 察部隊吉崎隊	甲支派遣祭第 九四六五部隊	甲支派遣 祭第七三六〇部 隊發不隊	甲支派遣 米第一三三六部 隊
軍屬一	同 右 一	同 右 一	現 伍 一	手 軍 一	現 軍 一
二一九	二二〇	二二一	二二二	二二三	二二四

禁止セラレアル支那側郵便ヲ利用シ送
金依頼等ヲナス

非違通報

允許外出甲飲酒酌所シ單独外出禁止區
域タル天子廂附近ヲ散策シ支那人慰安所ニ
立入り板劍威嚇暴行セントス

所屬隊ニ身柄
引渡シ所屬隊
ニ於テ嚴訓セリ

允許外出甲飲酒酌所ノ上單独外出禁止
區域密注賣店ニ立入り遊興シ酒勢ニ乘シ居室
入口ノ扇ヲ破損暴行ス

同 右

允許外出飲酒酌所ノ上支那人皮革店ニ於テ
價格八圓ノ手袋ヲ一圓ニテ購入セントシタルモ世間
マルト爲暴行ノ舉ニ出テ甲國人ニ輕微ナル打撲
傷ヲ負ハシム

被害者ニ治療費
トシ若干ノ英金
ヲ嚴諭上所屬
隊ニ送テ通報ス
所屬隊ニ於テハ
嚴訓ス

<p>中又派遣 三島隊</p>	<p>中又派遣 菅原部隊</p>	<p>中又派遣 時分三九九部 隊花園隊</p>	<p>中又派遣 三島隊七三三隊 隊二隊</p>	<p>三又派遣 隊渡辺部隊初 三共隊</p>	<p>中又派遣 七四部隊本部</p>
<p>予一 二、三、八</p>	<p>予一 一、二、四</p>	<p>予一 一、二、六</p>	<p>現上 一、三、八</p>	<p>現上 一、二、九</p>	<p>現上 一、六、六</p>
<p>允許外出シ飲酒酩酊上「カチ」調理場ニ至リ 居合エタル使用中国人ヲ故テ打撃行ス</p>	<p>一八〇頃公魚断外出シ飲酒酩酊上慰安所ニ登 樓シタルカ應對意キニ激昂シ部屋仕切戸ヲ破損 シ尚主人ニ對シ暴行ヲナス</p>	<p>二〇〇頃宿舍監視勤務中魚断区域外又那 辰家ニ立入り言語不通ニヨリ慥ニ又那人ニ暴行 ヲナス</p>	<p>允許外出飲酒酩酊上賊隊スヘク黄包車ニ乘車 セルカ意今ヲ赴カサルニ憤激シ之ヲ殴打暴行ス</p>	<p>又那側郵政局ヲ利用シ又那人宛自己ノ軍務 苦痛ヲ通信ス</p>	<p>外出甲飲酒酩酊シ又那人家屋内ニ立入り服装ヲ 著シク茶リタル上土間ニ寝轉ヒタルモノアリ</p>
<p>非違通報 所屬長八訓成 處分ヲナス</p>	<p>敬諭上折屬 長ニ通報 部隊移動ニ 處置不明</p>	<p>嚴諭上折屬 長ニ通報所屬 長ニ於テ重懲 念七日ニ処ス</p>	<p>非違通報折屬 長ヨリ重懲念七 日ニ於レシ至大 對シテ八部隊側 ヨリ慰籍料シテ 三千圓ニ付可憐</p>	<p>非違通報</p>	<p>非違通報</p>

<p>甲支隊遺徒四 七七部隊坂部 隊</p>	<p>甲支隊遺徒四 七九部隊有田 隊</p>	<p>甲支隊遺徒三 一九二部隊井上 隊</p>	<p>甲支隊遺徒 原隊七九三大部 隊赤司部隊</p>	<p>甲支隊遺徒南部隊 隊大塚隊</p>	<p>甲支隊遺徒 卷森特務隊 園部隊連絡官 手務所</p>
<p>現軍一 一</p>	<p>現二 二 二二</p>	<p>現軍一 一 二、三</p>	<p>現軍區中尉 一 二、三</p>	<p>現兵長二 二、一</p>	<p>軍屬一 二、九</p>
<p>魚断外出シ延喜貞辰ニ立入りタル儘同所ニ宿泊シ 翌朝矣呼時ニ至ルモ敵隊モス</p>	<p>飲酒酌断シ支那人料理店ニテ暴行並ニ無銭飲 食セントシ抜剣、上店員ヲ脅迫ス</p>	<p>飲酒酌断シ慰安所ニ於テ抜剣板壁ヲ破壊シ 且樓主取婦等ヲ面罵ス</p>	<p>寒褸古納命日ニ際シ宴会ニ列席ニシテ頃敵隊 途甲酒勢ニ配ラレ支那人経営旅館ニ立寄リタルカ ホーイノ態度不遜アリト器具ヲ破壊且支那人ニ ニ微傷ヲ負ハシム</p>	<p>飲酒、上魚断外出シニシテ頃明江路ヲ魚帯剣ニ 徘徊ス</p>	<p>軍指定寫真與業邦人ノ依頼ヲ受ケ魚断片印 ヲ使用シ公文書類似書類ヲ発行ス</p>
<p>非違通報 部隊例ニ於テ 重罪慎言ニ思フ</p>	<p>非 保護檢束 通</p>	<p>非 部隊於テ嚴 重訓戒外此旨</p>	<p>非違通報 折尾長ニ於テ 重罪慎言ニ思フ シテ受傷者ニ見 舞金ヲ手交</p>	<p>嚴諭、上折尾 長ニ通報</p>	<p>迄未書ヲ微シ 嚴諭、上非違 通報</p>

中又派遣獨立 第六五大隊	現兵 一	自七日 至九日	出張運送所ニ宿泊中魚断外出シ二日間離 隊シ慰安所疎直館等ヲ徘徊ス	非違通報
中又派遣獨立 第六五大隊	警備 一	二九	公用外出中酒断ノ上市内ニ於テ通行人ニ暴行 ヲナス	非違通報 前在長ニ於テ 重懲候五日
中又派遣獨立第九 師團第五兵站 聯重共中隊	警備 一	二九	飲酒臨町ノ上時間外ナルニ拘ラス市内ヲ徘徊 通行人ニ暴行ス	非違通報 重懲候五日乃 至重懲候五日
中又派遣獨立 第六五大隊	警備 二	二一〇	飲酒臨町ノ上深夜市内慰安所ニ至リ登窓方要 求拒絶セラレハヤ帖場ニ対シ暴行ヲナシ將校タル 体面ヲ汚シ	非違通報 所屬長ニ於テ 重懲候五日
中又派遣獨立 第六五大隊	現上 一	二二	魚断外出シ飲酒臨町ノ上街路上ヲ徘徊ス	非違通報 重懲候五日
中又派遣獨立 第六五大隊	補上 一	二二	魚断外出ノ上立入禁止区域タル雜民ニ立入り隣 中ノ又那甚居ヲ開閉セシメシト暴言ヲ吐ク	非違通報
中又派遣獨立 第六五大隊	現一 一	二一五	允許外出中飲酒臨町ノ上慰安所ニ到リ同樓慰安 婦ヲ殴打或拔劍ニ着候ヲ破壊セトス	非違通報

〔以下略〕

特別報告 提出ノ件

昭和十七年三月二十七日 第二十二師團長

大城戸三治

陸軍大臣 東條英機殿

左記ノ者ニ對スル首題ノ件別紙ノ通報告

左記 記

第二十二師團司令部 陸軍備人

(大正十二年二月十八日生)

支那派 連軍總 司令部 由	昭和十七年四月十日
總副報第 七九	

陸軍大臣
17.5.14

軍
17.5.12
48
防衛課

軍
17.5.13
25
課費

第二十二師團司令部
大城戸三治
印

逃亡ニ關スル報告

一 逃亡日日時

昭和十七年二月二十六日二十時四十分頃

二 違犯事項ノ概要

昭和十七年二月二十六日夜師團司令部ハ幹部職員設置演習

爲老東嶽(杭州西方六料)ニ宿營スルニ當ルベク

管理部山崎主計中尉ヨリ馬糧ノ運搬ヲ命ゼリ同

日十六時頃一回馬糧ヲ運搬シ該地ニ於テ概不一時間馬

糧ヲ分配シ其ノ他連絡ヲシテ二十時頃衛兵長早出中尉

指揮スル師團長護衛貨車ニ便乘シ二十時四十分頃師

團長宿舎前ニテ全員敬禮ノ爲下車セシ際夜暗ニ乘

シ逃亡シタルモ司令部内ニテハ當夜

ルモト思ヒ衛兵ト管理部班トハ兵舎ヲ異ニアリ其ノ儘

過シ翌二十七日夜管理部班歸還ニ伴ヒ逃亡セルコトヲ發

覺ス (註 蘇兵長早出洋對ハ
便求シタルコトヲ知ラス)

三 原因ト認ムヘキ事項

東京理研合成樹脂株式會社職工タリシ當時住タカ至
一等ニ出入シタルコトアリ逃亡當時司令部ノ幹部ノ大
部ハ演習ノ爲不在ナルヲ窺ヒ遊蕩ヲ思付キ慰安所等
ヲ彷徨中歸隊時期ヲ逸シ遂ニ逃走シタルモノト目心料ス
回動機

幹部大部演習ノ爲不在ナルヲ窺ヒ俄ニ遊蕩ヲ思付慰
安所等ヲ彷徨シ時期ヲ經過シ歸ル時期ヲ逸シ自責又
ハ罰ヲ恐レテ逃亡シタルモノ、如ク他ニ確ナル資料ナシ
又處置及其後ノ狀況

三月二十七日逃亡不在發覺後ト共ニ司令部内ノ搜索一部兵
力ニ依リ杭州市内ノ搜索ヲ實施スルト共密心兵隊ニ搜索
手配ヲ依頼ス

二十八二十九日及三十日、天竺(一部)兵力ヲ以テ杭州市内ヲ搜索
セルモ發見スルニ至ラス

3. 憲兵隊ノ調査及其他ニ依リ判明セル逃走後ニ於テ之ノ狀
況左ノ如シ

1. 二月二十六日夜ハ杭州市内村野女所湖月亭ニ立テ守リタ
ルモ暫次ニシテ同所ヲ出テ市内支那旅館冷州旅館藉
泊ス

2. 二十七日ノ足取不明尤モ同夜錢塘江畔芝罘大學子内ニ
宿泊翌二十八日錢塘江鉄橋ヲ自動車ニ便乘渡江
シタルコト確實ナリ

ハ三月六日頃本人蕭山(南岸地區)市内ヲ歩クアリシヲ元
師團管理部備人タリシ台湾人詹壽春發見シタルコト
ヲ十四日頃聴取ス

ニ以上依リ本人ハ自殺志ハ敵地投降等ノ舉ニ出スルコトナク

杭州周邊地區ヲ彷徨中ト判断セラル憲兵隊及錢塘江
南岸地區警備隊ニ連絡依頼シ搜索繼續中ナル未ク
手懸シ得ス

六 責任者ノ處分

管理部長ハ司令部内各雇傭人取扱關係者ニ對シ
之カ取扱ハ兵同様十分其ノ個性ヲ熟知シ一層骨肉ノ至
情ヲ以テ監督指導シ再ヒ斯ク如キ事ナキ様嚴ク注
意ヲ與フ又雇傭人全員ニ對シ右ノ非違ヲ説キ懇ク説
諭セリ

直接責任者タル管理部長及將校ノ責任ニ就テ檢
討スル當人ハ司令部來馬小隊長ニシテ當時尙演習ニ
參加シアリテ歸隊シテ又事故ノ原因他人爲的介在ナ
シト認め且逃亡後本人ノ行動等ヲ判断スル意思慮淺キ者
有リ一時的思想未定ト先ニ承認セシメ其ノ後檢査中

七、其他必要之生活費

1. 服裝所持金及携行品

軍衣軍袴、冬襦袢同袴下、戰帽、防雨外套

所持金概、三十圓内外

2. 水籍地及採用前ノ職業家庭狀況

群馬縣碓氷郡

自出給出前、浪京市本郷區

家庭ハ父母、姉、弟、妹、六ノ家庭ニテ、父ハ養蚕、教師トシテ

家ヲ支ヘ、月收百圓内外ナルモ、生計豊トラス

3. 採用後出入シ場所遊興程度

外出ハ常ニ單獨ヲ選ヒ、主トシテ映画、以支那飲食店ニ

出入シ、其ノ間慰安所等モ二三回出入シアリ

4. 水人ノ性行

温順ニシテ明朗、尤モ幾分意志薄弱ナル所アリ

陸軍

以下略

廣河台第六七號

經由 由第58師團長下野一盛

本林

陸

特別報告呈出件報告

昭和十七年四月八日 第五十八師團長下野一盛

陸軍大臣 東條英機 殿

①

首題件別紙通り報告ス

陸軍省文書第1737號

昭和十七年五月二十二日 陸軍省文書第1737號

殺位

殺勳

支那派経 昭和十七年五月十日 司令部由 總副報第九二號

第五十八師團長之印

陸軍省文書第1737號

陸軍

軍紀違犯事項報告

一 所屬官等級氏名

獨立歩兵第九十六隊第五中隊陸軍一等兵

同

同

二 發生年月日

昭和十七年三月二十六日 自二〇三〇時至二〇三〇時

三 違犯事項ノ概要

當日〇、九〇〇兩名ハ無斷外出シ慰安所ニ於テ遊興飲酒シ一ハ〇〇頃歸隊中ヲ恰モ之ヲ搜索中ノ中隊下士官ニ連レ戻サルルヤ自己内務班内ニ至リ一等兵ハ下士官ノ制止ニモ關ラズ實包四發ヲ發射シ一等兵ハ實包ヲ發射シント暴ルンヲ取柄ヘラレ日夕莫ク予後兩名ノ者ハニニヨリ其後ヲテラシ

〔以下略〕

①9 陸軍軍事警察年報 (昭和一六年) [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭17・5・3)

極秘

陸軍軍事警察年報 (昭和十六年)

昭和十七年五月三日
中支那派遣憲兵隊司令部

別紙第一

對上官犯罪主要事例

役種官等入員

犯

罪

概

要

補一、一

飲酒酩酊シタル儘處當番ニ服務中酩酊ノ上逆リ掛リタル下
 士官一ヨリ處當番力定位僱外ニ在ルコトヲ理由ニ此賈毆打
 セラレ不快ニ思ヒ居タル際後刻厩舎附近ニ於テ再ヒ前記下
 士官ニ出合ヒタルヲ以テ故意ニ誰何シ茲ニ口論トナリタル
 モ戰友ニ制止セラレ其ノ場ヲ退カントシタルニ同下士官
 カ一貫棧逆ケルカ一ト罵聲ヲ浴セ乍ラ追從シ來リ其ノ態度
 頗ル執拗ナルニ激怒シ之ヲ殺害セント決意所携ノ銃ヲ發シ
 シ胸部貫通銃創ヲ生セシメ殺害ス

飲酒酩酊ノ上無断外出シ慰安所ニ赴キタルヲ所屬小隊長申
 隊長代理ニ發見セラレ慰安婦ノ面前ニ於テ叱責セラレタル
 ニ激昂歸隊後日本刀ヲ携行同小隊長ノ居室ニ至リ上官タル
 コトヲ認識シ乍ラ面前ニ於テ

以下略

此表三頁第一

昭和十七年四月陸軍々人軍属犯罪表 中支那派遣憲兵隊司令部

<p>罪名 所管所属</p>	<p>本籍 役種 官等 犯行 日</p>	<p>犯行ノ概要</p>	<p>處置</p>	<p>處分 結果</p>
<p>上官 前仁厚 党與上 官暴行</p>	<p>本籍 岐阜縣海津郡 [Redacted] [Redacted] 豫軍 當二十六年</p>	<p>兩名ニテ外出中飲酒酩酊上憲兵搜查ノ ニ三々頃尉安所ニ於テ大參上四月三日 ニテ喧噪中向所ニ居合セタル管轄軍法 陸軍少尉一ヨリ靜肅ニセヨ會談長官 ト諭旨セラレタルニハ憤死捜査報 激シ上官タルヲ認識シアルニ告 不拘同少尉ニ對シヨヤルナラ 來イ貴様等新兵カ何ヲト 其面前ニ於テ侮辱シ且押シ 倒スヘク兩手ヲ突き出シタ ルヲ以テ兩者組打シトアリ タルヲ目撃セルハハ 三加担シ兩者ニテ同少尉類</p>	<p>四一四</p>	<p>中 理 審</p>
<p>党與上 官暴行</p>	<p>本籍 石川縣金澤市 豫伍 當二十九年</p>	<p>[Redacted]</p>	<p>[Redacted]</p>	<p>[Redacted]</p>

戰時
逃七

中支張道
曉第五四
部隊

本籍

大分縣宇佐郡

軍屬(船員)

當二十年

白三四

五三三

漢口破洞中ノ所屬船ヨリ逃
七ノ市內淫賣空坐並黃陂
縣下新集附近等ヲ徘徊
宿石ノ漢口市内ニ於テ憲兵
ニ遇捕セラレ、迄戰時ニ
テ故ナク十七日間職役ヲ離
ル

三月四日管
轄軍法會
議長官先
搜查報告

中 理 籍

允許不出シ外出時限五十分
前ニ吸煙シタル處敵營時刻
違フ故ヲ以テ古手兵ヨリ叱
責毆打サレ尚當日外出中

管轄軍法
會議ニ申
件送致

敵禮哨ニ注意セラレタル旨
ヲ告ケタル所、日夕点呼後再
詰問スルトノ言ニ怯ム家庭
ノ事情ヨリ軍隊生活ヲ嫌忌
シテアノナル折柄日夕点呼後
ノ此等事項思ヒ下時國軍隊

	<p>軍用物 毀壞 探査 窃盜</p>
	<p>中支派遣 月第七三八 部隊川根隊</p>
	<p>本籍 岡山縣小田郡 現一 當三十二年</p>
	<p>三三八</p>
<p>一許可外六千飲酒ノ尉安所 使用人(平島人)一ト慰安 所ニ赴ク途上ト論ノ結果 長官宛投</p>	<p>決意洋車夫ヲ銃劍ニテ威嚇シ支那服上衣及帽子ヲ強奪シ更ニ支那民家ニ侵入支那ノズボン又那服ヲ提供シメテ変装シ自己着裝シ防雨外套、略帽、軍衣袴、縮上靴、卷脚絆及三十年式銃劍ヲ遺棄後偶々適行中ノ華人ノ身体検査ヲ受真施聯銀券二十圓ヲ探査トシ逃走シ該金銭ヲ遊興費及飲食代ニ費消更ニ翌二十九日市內露店ヨリ四圓二十錢ヲ窃取ス</p>
	<p>四月八日管轄軍法會議</p>
<p>審理中</p>	

考 四三六	備	
空切盜 空切盜 額領	三月々報申 處 分 結	
軍馬 現二	現一	果
		三箇ヲ發火因ヲ為レクル 又ト推定セラル 然而本天火ニ依リ森縣憲 兵隊本部將校宿舎全燒 シ損害約一萬圓ヲ生ス
懲役一年 懲役一年 懲役六月 二年間執行猶予	懲役一年 懲役一年	

昭和十七年四月陸軍々々人軍屬非行表 [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭17)

昭和十七年四月陸軍々々人軍屬非行表 中支那派遣憲兵隊司令部

所管所屬	殺擯官等級非行人員	非行内容處置
中支派遣 第七區隊	軍屬 一四一九	允許外出中飲酒酌酏シ一四〇頃所屬長三處遣慰安所ニ登樓遊興中待遇不 _レ 在 _レ 所屬隊於満ヨリ「アルコレ」酒ニテ酌婦ヲ大嚴重訓戒左後頸部ヲ毆打打撲傷ヲ負當分間外出ハレム 禁止ニ處ス
中支派遣 第九九部隊	補上 一四二五	禁止セラル支那側郵便小包所屬隊ニ通報ヲ利用シ内地ヘ向ケテ「オル靴」下シ現四八本人等ヲ發送セントス ニ還付ス
中支派遣 第五五部隊	補一 二四二	公用外出中飲食店ニ立入り飲酒酌酏上遊興中ノ客ニ對シ暴部隊側ニ於テハ重營舎音行ヲ加フ 非違通報 於テ非違通報
中支派遣		允許外出中陸軍慰安所ニ於テ非違通報

カ

柴第六九部隊補一
 藤田隊
 一四一
 慰安婦ヲ殴打暴行且器物ヲ破壊ス
 部隊側於十八日重官倉二十日

中支派遣
 呂第五三三部隊
 佐々木隊
 四一九
 允許外出中飲食店ニ於テ飲酒駈所、上遊興中他部隊兵ヲ殴打暴行シ尚器物ヲ破壊ス
 非違通報
 部隊側於十八日重官倉二十日

中支派遣
 晚第九三部隊
 德廣隊
 軍屬
 一四二四
 勤務中飲食店ニ於テ飲酒上慰安所ニ到リ當日休日ナルニ拘ラス登樓セントシタルヲ機ニ制止セラルニヤ之ニ憤激シ機ニ暴行ヲ加フ
 非違通報
 部隊側於十八日重官倉二十日並苦役三日

中支派遣
 呂第五六二部隊
 坂六隊
 補一
 一四二五
 允許外出中飲酒駈所ニ於テ結果上衣及帶劍ヲ脱シ通行人及支那人商店ニ入り暴行シ路上ニ横タワル等服装態度ヲ紊ス
 非違通報

支那派遣軍
 自工高
 カソリン使用共可達ヲ行シ於

<p>總司令部 松嶽關</p>	<p>囑託</p>	<p>三四四</p>	<p>我關ノ名ニ於テ支那人ニ禁免 許運轉(非ナレヲ知リ)トシム</p>	<p>非違通報</p>
<p>中支派遣 第四二野隊 郵便局</p>	<p>軍屬 二</p>	<p>四八</p>	<p>兩名ハ私服外出シ許可ナク日英 租界、佛租界ニ立入り賭博類 似行為ヲナス</p>	<p>所屬長ニ 處置一任</p>
<p>中支派遣 陸軍第九四二部隊 德廣部隊四谷隊</p>	<p>軍屬 一</p>	<p>四一九</p>	<p>外出中飲酒酩酊ノ上上衣及股釧 ヲ脱シ刺ヘ公衆面前ニ於テ路上ニ 横臥喧噪スル等ノ醜態ヲナス</p>	<p>非違通報</p>
<p>中支派遣 陸軍第九四四部隊 牧野部隊 高橋隊六二號</p>	<p>軍屬 一</p>	<p>四二九</p>	<p>所屬船ニ於テ飲酒酩酊ノ上附近 繫留中ノ陸軍第九四四部隊所屬 支那人乗組船ニ到リ船員ニ暴行 ヲ加フ</p>	<p>所屬隊責任 者ヲ呼出シ身 柄ヲ引渡ス</p>
<p>陸軍第十二師團 步兵第四四聯隊 第一大隊第四隊</p>	<p>豫中村 一</p>	<p>一</p>	<p>新設部隊要員トシテ派遣セラレ 夫々禾湖軍人俱樂部ニ於テ別個 飲酒中互ニ酒勢ノ乘スル處ト</p>	<p>非違通報 (口頭)</p>

〔以下略〕



②軍法會議判決「北支派遣軍」(昭17・5・5)

判決

本籍



所屬 北支派遣軍第四二五七部隊附

陸軍主計中尉從七位勳六等

明治四十一年五月十四日生

右ノ者ニ對スル業務上横領收賄被告事件ニ付當軍法會議ハ檢察官陸軍法務官岡田痴一干與罪理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役一年ニ處ス

右被告人ヨリ金七百六拾八圓六拾四錢ヲ追徴ス

理由

被告人ハ中學校卒業後昭和四年一月現役兵トシテ入隊シ爾來下士官ニ進級シテ勲績中同十二年十一月陸軍經理學校ニ入校卒業ノ上

陸軍

犯意ヲ繼續シテ

一、同十五年十月十九日頃前記潤治ヨリ平壤府櫻町料亭梅わか
 コト山村との方ニ於テ一人當金十一圓四十八錢相當ノ飲食遊
 興ノ饗應アルヤ右ハ同潤治カ自己ノ業務タル陸軍倉庫ヨリノ
 請負ニ係ル懸控馬糞ノ製造竝ニ製品ノ納入ニ付被告人ヨリ指
 導ヲ受ケ種々世話ニ爲リタル謝禮ト將來モ引續キ便宜ノ取扱
 ヲ得ントノ趣旨ヲ以テ致告人ニ對シ賄賂スルモノナルノ情ヲ
 知悉シ乍ラ之カ饗應ヲ受ケ

二、同年十一月十六日頃及同十六年二月十二日頃ノ二回ニ頁リ
 前記常吉ヨリ同府港町料亭喜よ美コト山田ます枝方ニ於テ一
 人當合卅金五十一圓二十五錢相當ノ飲食遊興ノ饗應アルヤ右
 ハ前同様ノ趣旨ヲ以テ右常吉カ被告人ニ對シ賄賂スルモノナ
 ルノ情ヲ知り乍ラ之カ饗應ヲ受ケ

三、同十五年十一月三十日頃及同十六年一月十八日頃ノ二回ニ
 頁リ前記常吉及前記菅太郎ノ兩名ヨリ同府黄金町料亭たまや

コト後藤源次郎方外一ヶ所ニ於テ一人當合計金四十五圓九十一錢相當ノ飲食遊興ノ饗應アルヤ前同様ノ趣旨ヲ以テ被告人ニ贈賄スルノ情ヲ知り乍ラ該饗應ヲ受ケ

四、同十五年十二月中旬頃豫テ馴染ナリシ京城府彌生町貸墾敷業江口又三郎方抱娼妓コトヨリ同女ノ廢業ニ要スル金錢ノ調達ヲ依頼セラルルヤ前記常吉トノ間ニ前叙ノ如キ職務上ノ關係アルヲ奇貨トシ同人ニ對シ當時同支庫原員タリシ
 〇〇〇〇ヲ通シテ金一千圓ノ借用方ヲ懇請シ以テ職務ニ關シ賄賂ヲ要求シ

五、同十六年二月初旬頃右安子ヨリ重ホテ調金ヲ依頼セラルルヤ同月十二日頃再度前記常吉ニ對シ前同様職務上ノ關係ヲ通リ右政ニヲ通シテ表面借用ヲ裝ヒ金六百圓ノ融通方ヲ懇請シ因テ同夜前掲料亭喜上美方ニ於テ右常吉ヨリ金六百圓ヲ提供セラルルヤ右ハ同人カ自己ノ業務タル黒糶ノ製造竝ニ製品ノ納入等ニ付從來被告入ヨリ指導ヲ受ケ種々世話ニ爲リタル附

軍人ノ變死ニ關スル件報告

第3飛行師團司令部

一 官等級 陸軍曹長

一 氏名



一 所屬部隊 第九十一飛行場大隊

一 月日時 昭和十七年九月十五日十八時三十分頃

一 場所 中華民國江蘇省上海江湾(西兵舎)

一 手段 拳銃自殺(十四年式)

彈藥ノ出所 本人ニ支給セル十六發ノ中一發使用

一 平素及自殺前後ニ於ケル参考事項

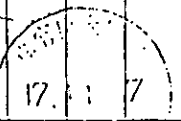
本人ハ極メラ温順ニシテ善性感旺盛ナルヲ西朝氣ニ

至シテ服勞狀態稍シ生氣ヲ缺ク家庭ハ父母

弟妹ニ計五人ニシテ何レモ健康家計ハ父也ソ司リ

農ソ營ミ村内中流ノ生計ヲ爲ス

昭和十六年九月改事掛下士官ソ命マシテ以來



精勵格勤克ク主計將校ノ補佐シテ其ノ任務カテ
 遂行シアリシガ昭和十七年七月十七日自己ガ炊事勤
 務以來却下タリシ陸軍調理手原島源太郎轉勤ニ
 方リ送別會ヨリ實施セントテ當日一九〇〇ヨリ二四〇迄
 自身ノ臨時外出ノ許可ヲ受ケ擅ニ炊事勤務カ
 中ノ陸軍上等兵 [redacted] 以下九名ノ無断引率
 外出シ江湾鎮江湾食堂ニ到リ飲酒酩酊ノ後
 歸營ニ當リテ自ら引率ヒル上等兵 [redacted]
 列中ノ無キヲ知リシモ深ク尋ヌル事モナク他ノ兵ヲ
 引率シテ二三三〇頃歸營セリ
 一方 [redacted] 曹長ノ手裡ヲ脱セル [redacted] ハ
 更ニ丸金食堂ニ赴キ飲酒酩酊ノ後劣情ヲ催シ
 翌十八日二〇〇頃慰安所ニ赴キタルモ既ニ開門後
 ナリシ為止ムナク歸途ニ就キタル際偶ニ江湾鎮花

園弄一八七徐林弟方前ニ差掛ルヤ醉狂ヨリ同家
 表麻ソ叩キテ戻アセレメ就寢中ノ
 五歳ナル姑娘ヲ認メ遽カ同サリ母淫セルトノ者
 情ニ馳ラシ銃劍ヲ以テ同サヲ脅迫約五十米隔リ
 タル畑地ニ連行強テ母淫シ共ノ目的ヲ遂ゲタルモ
 同家ヨリノ報告ニ依リ憲兵ニ連行セラレ身柄共
 軍法會議ニ送致ノ後七月二十七日懲役三年一
 等兵ニ降等ノ判決ニ處セラレ
 高曹長ハ牧事勤務兵ヲ無断テ引率外出
 レ且部下ヲミテ重大ナル過失ヲ犯サレメシ科ニ依リ
 七月二十三日重謹慎二十日ニ處シ同行セラル兵八
 名ニ對シテハ嚴戒飭スルト共ニ七月二十三日以降一ケ
 月間ノ外出禁止ヲ命ジタリ
 南米曹長ハ主夏任威ヨリ心中淫ノ期スル所

23 1 南方派遣渡航者二關スル件 [台灣軍司令官] (昭17・3・12)

60-2

陸軍省
陸軍部
陸軍大臣

陸軍部受第 二二九九號

昭和十七年三月十七日

發信地

陸軍部
陸軍部
陸軍部

秘 電報譯

三月十七日午前十一時三十分發

大

臣宛

發信者 台灣軍司令官

3

台電

第六〇二號

陸密電第六三號ニ関シ、ホルネオ行キ慰安土人ヌ。

名爲シ得ル限リ派遣方南方總軍ヨリ要求セルヲ以テ陸密

電第六三號ニ基キ憲兵調査選定セル左記經營者

三名渡航認可アリ度申請ス

左記

愛媛縣越智郡



台北州基隆市日

新町二六
[redacted]
四十二歳
朝鮮全羅南道濟

州島
[redacted]
台北州基隆市義重町四八一五

[redacted]
三十五歳
高知縣長岡郡
[redacted]
高

雄州潮州郡
潮州街二六七
[redacted]
五十一歳

終

副官ヨリ其湾軍參謀長宛

返電案不(暗号)

陸五密電

三月十二日附其電第六〇二号ノ件

認可ヤル 依命



156

陸五密電

一八

昭和拾七年三月拾六日

電三九



檢閱者

發信地



秘 電報譯 六月三日 午前午後一時一五分發

副 官 宛 發信者名 灣軍參謀長

名電 第九三五號

本年三月名電第六。ニ號申請陸亞密電第一八八號

認可ニ依ル「ボルネオ」ニ派遣セル特種慰安婦五十名。

關スル現地著後ノ實況人員不足シ稼業ニ堪ヘザル者

等ヲ生スル爲尚二十名増加ノ要アリトシ左記引率因

部隊發給ノ呼寄認可證ヲ携行歸名セリ事實止ム

ヲ得ザルモノト認メラルルニ付慰安婦二十名増派諒承

相成度

尚將來此、種少數、補充交代増員等必要ヲ生ズ
ル場合ニ右、如ク適宜處理シ度豫メ諒承アリ度

左記

基隆市日新町二ノ六



終
裁

24 下 1 渡航手續ニ關スル件 [波集團參謀長] (昭17・11・12)



發信地 廣東 號

秘 電報譯

一月二日午前二時五分發

次 官 宛 發信者 波集團參謀長

波集團參謀長 第五一〇號

邦人ノ南方渡航統制ニ関シテハ軍令三月三十日附陸軍

密第九九三號ニ係ル 暫定 措置要領ニ基キ嚴ニ実施

中十九日左記項目ノ通 疑義ノ莫之アルニ付 御回示

陸 軍

相成度

左記

一 軍酒保要員迄ニ慰安婦ニ対スル正式渡航

手續ヲ如何ニスルヤ

二 第三國人、南方、渡航、一月ニテ附陸匪密

第一八六号(乙)項ニ基キ新渡航ニ差當リ之ヲ

認メザルノ方針ニ了承セルモ、第三國人

陸軍

（特ニ中華民國人ニシテ敵性ナキ印度人ニシテ

止ルヲ得ザル事由存スル場合ノ渡航正式手續ヲ

如何ニスルヤ

（特ニ南方占領地ニシテ佛印泰ニ區別シテ承知

致度）

陸軍省（總軍ニ參考）

24 渡航手續二關スル件 [陸軍次官] (昭17.11.18)
 事務官 回付 (決行前)
 (決行後)

審案
 書記者

陸

罪

決行指定 局長		決行指定 三年		保存期限	
大臣 委				件名 渡航手續二關スル件	
官次 委				要密第二二三號 起元昭 (課名)	
局長 		局長 		書記官 	
課長 		課長 		主務官 	
局長 		局長 		事務官 	
課長 		課長 		事務官 	
課長 		課長 		事務官 	

被集團

事務官 回付 (決行前)
 (決行後)

(陸軍密電)

次官ヨリ破集團參謀長

南方軍總參謀長宛電報案

(暗號)

破集團參電第五〇號返

軍砲保要員並慰安婦ニ對スル護

航手續ハ昭和七年四月二十三日陸軍

密策一三八三號ノトニ依リ處理

セラルヘキモノナリ

尙慰安婦ハ既ニ南方地域ニ於テハ
飽和状況ナル由ニ付爲念

ニ已ハラ得サル事由ニ依リ第三國人ノ占
領地ニ渡航スルモノハ個々ニ詮議ス(キ
ニ付陸軍省ニ連絡セラレ度

尚佛印及泰ニ渡航スルモノニ就テハ
軍ニ於テ利用セントスルモノハ前項

前項ニ準

陸軍

實方キ於テ證明ヲ與ハテ渡航

知理シ

其ノ他一般渡航者ハ外交

手續キニ依ルモノナリ

通電先被(岡ハ参考)



一三九八

102

昭和拾七年五月廿八日



戰時月報

香港占領地總督部

昭和十七年四月



現在軍政會計ニ屬スル出納官吏（出納員）ハ二十五名ニシテ其ノ内行政機關八名ヲ除キ他ハ何レモ專業關係ニシテ其ノ種類左ノ如シ

電氣	水道	瓦斯	遞信
衛生	煙草	放送	鐵道
市場	農業	運搬	土木
冷蔵			

其ノ從業人員表及軍政會計毎月末殘高附表第六ノ如シ

第六 衛生

一 軍隊衛生

軍傳染病豫防規定及軍防疫要領ヲ制定シ軍隊保育要領亦起案中ナリ傳染病豫防ニ就テハ現地ノ實情ニ鑑ミ最大ノ努力ヲ拂ヒツツアリシモ「コレラ」患者二名ヲ出シタル外ナシ、又脚氣患者増加ノ傾向ニアルヲ以テ給養ノ改善ヲ督勵シアリ、花柳病亦増加ノ傾向ヲ示シアルヲ以テ慰安所探者ヲ限定セル一定地區ニ集結セシムル如ク計畫シ慰安所内衛生施設ヲ定備セシムルト共ニ軍人軍屬ノ豫防處置ニ萬全

ヲ期シツツアリ月間患者發生狀況附表第四ノ如シ
 二 地方衛生

地方衛生狀態ハ住民ノ衛生思想低ク腸管系傳染病深ク侵淫シ就中「コレラ」ノ如キハ數年來逐年ノ狀況ニシテ本年初發以來一、一九五名（内保菌者五二名）ニ逐シアリ

其ノ他ノ傳染病ニ於テモ相當多致發生シアルモノト推定セララルヲ以テ衛生行政機構ノ定備ヲ急キ施設ノ收斂ト相俟チテ地方衛生ノ向上ヲ期シアリ

本月中一於ケル疫病調査、豫防接種患者發見狀況左ノ如シ

檢 査 種 類	檢 査 數	發 見 數
コレラ豫防接種	四三〇、四三九名	二四、六七六名（内陽性五）
檢 疫 戸 數	五七、九八一戸	
檢 疫 人 員	二九四、五三六名	
摘 發 數	一九四名	
チブス豫防接種	九一四名	

②6 香港ノ警備竝ニ軍政實施ニ關スル香港占領
地總督第二遣支艦隊司令長官間協定覚書 (昭17・5・4)

昭和十七年五月四日

五拾部ノ内第

拾

號

軍事極秘

香港ノ警備竝ニ軍政實施ニ關スル香港占領

地總督第二遣支艦隊司令長官間協定覚書

香港占領地總督陸軍中將 磯谷廉介

第二遣支艦隊司令長官海軍中將 新見政一

ニ關スル事項

(一) 香港攻略ニ關スル第二十三軍司令官第二遣支艦隊司令長官間協定第十五ノ(ロ)項ニ依ル海軍警備擔任地域内海軍管理一般諸施設中左ノ外其ノ管理ヲ總督ニ移管ス

(イ) 第二海軍病舎(舊東洋東病院)

(ロ) 海軍軍法會議廳舎(舊少年感化院)

(ハ) 海軍自動車修理工場(舊香港ホテルガレージ)

(ニ) 海軍自動車修理工場附屬倉庫(舊子キサス倉庫)

(ホ) 北角海軍倉庫地帯

(ノ) 第十一特別工作部廳舎(舊政廳倉庫)但シ將來海軍水路部

豫定地

(2) 海軍北角倉庫及附近廣場(舊西南運檢倉庫)

- (3) 海軍水上警備隊見張所竝ニ特務倉庫（舊太古洋行石炭置場）
- (ハ) 下士官兵集會所附近置場竝建物
- (ト) 港務部見張所兼倉庫（ヨツト俱樂部）
- (チ) 海軍經理部第四、第五倉庫但シ軍需品格納ノ契無キニ至ラハ移管ス
- (リ) 兵舍竝ニ宿舍
現在使用中ノ海軍兵舍竝ニ宿舍
- (ヌ) 慰安施設
海軍會館（舊英京飯店）海軍將校俱樂部（六國飯店）海軍慰安所（四軒）海軍指定食堂（五軒）但シ適當ノ時機ニ移管ノコトトス
- (ル) 舊夕リケツトゾウソンドハ總督部管理シ陸海軍共用トス

②7 狀況報告「獨立攻城重砲兵第2大隊長」(昭13・1・20)

秘

自昭和十二年十二月一日
至昭和十二年十二月三十一日

陣中日誌

B
C
D
R

獨立攻城重砲兵第2大隊本部



狀況報告

一 全般

當大隊ノ一般ノ狀態ハ戰鬥力ノ充實軍容ノ整備豫期ノ如ク進捗シ直チニ立テ次期作戰ニ應シ得ルノ狀態ニ在リ

然レ共細部ニ至リテハ尚改善向上ヲ要スル
矣多クニ鍛ミ益々精神威力ノ鍛練ト訓練ノ精列ヲ期シ以テ上司ノ要望ニ答ヘントス

二 軍紀風紀

軍紀風紀狀態ハ緊張シアルモト認ムルモ稍々

モスレハ身戰場ニ在ルノ自覺ニ乏シク偷安ヲ事

戰傷 一名
 循環器 四名
 呼吸器 二名
 花柳病 一名
 感冒 胃 三名
 神經病 各一名
 計 二四名

十一 慰安

慰安設備ハ兵站ノ經營スルモノ
 又軍有部隊
 ノ經營スルモノニテ
 定日ニ幹部引
 出シテ
 概ネ一隊約一時間ノ
 配當ナリ
 衛生上ノ検査ノ為
 軍醫ヲテ豫メ文會
 点檢セシメツ、アリ

十二 其他

⑳ 獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌 (昭13・1・26)

秘 自昭和拾叁年壹月壹日

至今 年壹月叁拾壹日 和甲地一分

陣中日誌

廿二

獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊



1/26

為ヨセヨラサルコト

九今後右隊ニ下士官ヲ差出スコトアルヲ以テ協議

サレタシ

警備隊會

警備隊會報

報

一各隊ハ規定以外ノ點燈ヲセサルコト

ニ部隊トシテ外出セシムル時ハ警備隊ニ通

報スルコト

三二十九日ニ各隊ノ酒保商人ヲ憲兵隊ニ出頭

セシムルコト

四支那通貨ハ各隊ニテ處分スヘシ

第四野戰病院

一去日九歳ノ女兒ニ暴行セシモノアリ

調査ノ結果同女ハ花柳病ニ感染シヤリ之ニ

鑑ミ各隊ノ花柳病患者ニ注意スヘシ

二 兵站娼婦中検査ニ合格セルモノハ合格票(木
 札)ヲ持セシムルニ付注意スヘシ

宣撫班

一 支那民家ニ立入ラサルコト

二 支那人ニ對シ暴行セサルコト

三 軍票ノ價値ニ對シ認識セシムルコト

四 良民ノ籍簿ヲ作成スルニ付附近支那民ニ戶

籍ヲ登録セシムルコト

第三十六野戰郵便局

一 明日ヨリ爲替ノ取扱ヲ実施ス

會報事項

三 午後四時ニ於ケル會報事項要旨左ノ如シ

一 明日ヨリ爲替ノ取扱ヲ実施ス

記

②⑨ 獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌 (昭13・2・1、24、27)

秘

自昭和十三年二月一日
至今 年二月二十八日

陣中日誌

獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊



二月一日(火) 晴

課目 一 實施課目

午前 軍紀教練 及 兵器手入

午後 小銃戰闘法

砲臺整備要員出 二 南京附近砲臺整備要員トシテ 左記人員ハ 齋藤

發 中尉ノ指揮ヲ受ケ 南京ニ向ヒ出發ス

山本榮伍長 (長)

名和二等兵 古久保上等兵 本田上等兵 加藤 金澤

中山 橋角 奥島 黑崎 村中 徳田

辻 澤田 中谷

水窪尉南京出張 水窪准尉 軍司令部ニ連絡ノクメ同行ス

三 乘用車二。二號(運轉手 長崎 助手熊代)ヲ在

鎮江軍直轄砲兵隊司令部ニ貸與ス

會報 四 中隊會報

一、携帶兵器ノ手入ヲ確實ニ行フコト

明朝禮時 銃劍 革具ヲ検査ス

二、娛樂所ノ日割決定次第示ス

行フトギハ必ス外出證携行ノコト

豫防藥 屋私膏ヲ支給スルヒ 絶對的ニ非リ

ルヲ以テ注意ス、

三、衛戍地會報

1. 一月二十八日午前十時三十分 和正街廣場ニテ

煙草二箱ヲ盗メルモノアリ

2. 一月二十七日 鎮江ニ於テ「トラック」衝突シ死

者ヲ出シクル件アリ 連轉ニ注意スヘシ

四、警備隊司令部命令ノ要旨

密偵ノ報告ニヨレハ 横林鎮附近ニ下逞ノ

徒出沒シマリ 栗林部隊ハ之カ討代ニ

二月二十四日(水)晴

課目 一 實施課目

觀測小隊 小隊教練

戰砲隊 砲廠均ニ作業ヲ實施

二 午後二時ヨリ健康診斷

獨攻二日命第
二六號及領
二 獨攻二日命第ニ六號ノ受領ス

會報 四中隊會報

一 明後ニ十六日 酒保品運搬ノヲノ自動貨車

一ヲ本部ニ差出シ 段列貝本軍曹ノ指揮

ヲ受ケシムヘシ

食糧運搬ノヲノ 自動貨車一ヲ鎮江ニ差出

スヘシ

ニ慰安所ノ使用時間變更セラル

下士官 自午前十時 至午前十一時

矣 次回自午後三時 至午後四時

三 本日健康診断ヲ 受ケタルモノハ 明日之ノ行フ

四 送金希望者ハ 明日午後五時ヨリ七時ニノ間ニ

井上少尉ノメトニ差出スヘシ

26

二月二十七日(日)晴	課目 (一) 演習課目	午前 軍紀教練	午後 バスケットボール 場ノ地均シ作業ヲ行フ	藤田少尉歸還 ニ藤田少尉 午後十時 蘇州ヨリ歸還ス	會報 ニ中隊會報	一 近ク大隊長ノ清潔檢查アリ 井戸 便所ヲ特	ニ清潔ニスヘシ	一 運動盛ントナルニ伴ヒ 外傷豫防 及 被服保存	ニ注意スヘシ	三 慰安所ニツキ	下士官ノ時間定ムルニ注意スヘシ	四 三月一日夜 朝日新聞社ノ慰問映画アル事	場所未定
------------	-------------	---------	------------------------	------------------------------	-------------	------------------------	---------	--------------------------	--------	----------	-----------------	-----------------------	------

③獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌 (昭13・3・3、11、14、16)

自昭和十三年三月一日
至今 年三月三十日

陣中日誌

獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊



三月三日(水) 曇小雨 休養日

一 朝禮後軍紀教練 (敬禮動作)ヲ行フ

二 午後大阪工廠附一瀬中佐 火炮ヲ視察ニ來

ラル

會報 三 午後七時 中隊會報

一 中支派遣軍ノ名稱變更セル

上海畑部隊本部

爾今郵便物ノ宛名ハ、上海派遣一乃改

部隊松田隊トス

二 兵中ニ支那人飲食店ニ立入ル者アリ

衛生上不可ナリ 立入りヲ禁ス

三 城内ニテ強姦、掠奪各一件アリ (衛戍地會

報) 嚴ニ注意ス(シ)

四 外出證ヲ所持マスレテ慰安所ニ行ク者アリ

又割當ノ日ナラサルニ行ク者アリ

五慰安所規定中必要ナル事項及注意ヲ左ニ示ス

1. 下士官 兵ノ入口ハ南側 東門トス

2. 單價

支那人 一円

朝鮮人 一円五十錢

日本人 二円

3. 金ハ必ス支拂ヲコト

4. 時間ハ概ネ一時間以内

5. 防毒ニ注意スルコト

6. 飲酒者ノ出入ヲ禁ス

二月十一日(金)曇

課目 一 實施課目

午前午後共 觀測分隊 射擊修正計算板ノ用法

通信分隊 手旗現字通信

戰砲隊 大砲射擊準備

二 朝禮時此文ニ於テ行動セル軍ニ對シ賜リタル勅

語及寺内大將ノ奉答文ヲ傳達ス(引紙)

二 午後一時 松本伍長、北ニ梅川ハ貨車ニハ八號(杉

本、下村)ニテ鎮江ハ郵便物及領ノ為出發

午後五時二十分歸著ス

北村伍長上海ニ 四 上海ハ大砲屬品及領ノ為出張中ノ北村伍長ハ

歸還 本日午後六時半、大隊本部側車ニテ歸來ス

井上少尉ハ、あつ子、旅館ニ在リト

中隊命令 五 中隊命令

14

中隊會報

陸軍砲兵一等兵 坊田敏夫

補助憲兵トシテ 松井上等兵ト交代 常
州憲兵分遣隊ニ勤務スヘシ

中隊會報

一、下士官ニシテ 慰安所ニ夜行ク者アリ

昨日憲兵隊ニテ 確證ヲ得タリト

曰直 巡察將校ニテヨク取締ルニト

ニ他部隊ノ割當日ニ行ク者アリ

ニ外出先ノ兵ノ行動不良ナリ

巡察者 憲兵ニ非違ヲ認メラルルカ如キ

事無キ様ニ特ニ慰安所ニ於テ行動ヲ

慎ムヘシ

三、明日食糧彈搬ノ爲貨車一輛ヲ差出スニ

三月十四日(月) 曇後晴

課目 一 實施課目

午前 觀測分隊 方向交會法

通信分隊 回光通信

戰砲隊 分隊教練

午後 觀測分隊 方向交會法

通信分隊 電話通信故障發見法

戰砲隊 分隊教練

二 生駒營長以下十名、二、六、九、江陰方面、

自動車部分品拾集、為 午前七時五十分至

發 午後二時 歸著又

會報 二 午後七時 中隊會報

一 夏服、四月下旬支給、豫定

二 軍司令部ヨリ 演習用具、空包、支給ナル

陸軍

〔中略〕

	一付、明日會報時マテニ入用數報告ノ事
	三齒科藥劑ノ軍アリ支給ナル豫定ナリ
	又齒科醫巡回施療ニ來ル者ナリ
	四、自劔車ノ部隊號標識ハ前後ニ附ス
	五、襟章、肩章ハ警備間ニ於テハ必ス附ス
	六、兵器ノ修理ニ関シ左ノ通報アリ
	第一兵器現地修理班（松尾部隊）カ
	出來 攻城砲兵廠ニテ不可能ナル修理ヲ
	行フト
	七、慰安所ニ於テハ行動ヲ慎ミ暴行ナト行
	ハ又下
獨攻ニ日命第 二大號復領	四、獨攻ニ日命 第三大號ノ受領ス
中隊命令	五、中隊命令 陸軍砲兵伍長 吉田清吉

（附四十二）四、西島海軍司令部

三月十六日(水)晴

課目 (實施課目)

午前 兵器手入

午後 携帶兵器検査

中隊長歸還

二午後五時五十分 中隊長ハ 夏川ヲ伴ヒニ〇一號(山本^ニ八幡)ニテ歸還ス

會報 二午後七時中隊長會報

一 衛戍地會報中 必要ナル事項

1. 無料ニテ物品ヲ徵發スル者アリ

2. 城内外ニテ婦女子ニ暴行ヲ加ヘントセシ者アリ

アリ

3. 濫リニ民家ニ立入り 婦女子ヲ探ヌ者アリ

4. 支那人經營ノ飲食店ニ立入り 飲食

スル者アリ

	<p>5. 新聞配達人ヨリ新聞ヲ奪ハントシタル者アリ</p>
	<p>嚴ニ戒ムヘシ</p>
	<p>二次ノ物品ヲ慰安所ニ置忘レアリ憲兵隊ニテ保管ス</p>
	<p>1. 卷脚絆 一組</p>
	<p>2. 十九円五十錢入財布</p>
	<p>3. 人力車 經營マラシンドス 無料ニテ乘ルヘラス</p>
	<p>4. 慰安所ノ公休日ハ毎月十五日トス</p>
<p>4. 獨攻ニ作命 第五大號受領</p>	<p>4. 中隊長ハ上海出張間 上海第二兵站病院ニ入院中シアリシ 柴田竹次郎ヲ見舞ヒタルモ 柴田ハ去ル十二日内地ニ向ヒ 還送セラレタリトノ事ナリ</p>
<p>5. 獨攻ニ作命 第五大號ヲ受領ス</p>	

昭和十二年四月五日東京命令五

[以下略]

① 常州駐屯間內務規定 [獨立攻城重砲兵第2大隊] (昭13・3・16)



昭和十三年三月

常州駐屯間內務規定

獨立攻城重砲兵第2大隊



常州駐屯間内務規定ヲ本書ノ通り定ム

昭和十二年三月十六日

大隊長 万波少佐

目次

- | | |
|------|---------------------------|
| 第一章 | 總則 |
| 第二章 | 日課時限、起居及容儀 |
| 第三章 | 諸勤務(將校勤務、下士官勤務、衛兵勤務、當番勤務) |
| 第四章 | 火災豫防、消防、非常呼栗 |
| 第五章 | 命令下達及會報 |
| 第六章 | 連絡 |
| 第七章 | 郵便物 |
| 第八章 | 休日及外出出張 |
| 第九章 | 慰安所使用規定 |
| 第十章 | 軍機保護及防諜 |
| 第十一章 | 支那人、取扱 |
| 第十二章 | 炊事及入浴 |
| 第十三章 | 衛生 |

第九章 慰安所使用規定

第六

方針

緩和慰安、道ヲ講シテ軍紀肅正ノ助トナサントスルニ在リ

第七

設備

慰安所ハ日華會館南側圍壁内ニ設ケ、日華會館附屬建物及下士官、兵棟ニ區分ス

下士官、兵ノ出入口南側表門トス

衛生上ニ関シ樓主ハ消毒設備ヲナシ置クモ、トス各隊ノ使用日ヲ左ノ如ク定ム

星 部隊 日 曜 日

栗岩部隊 月 火 曜 日

松村部隊 水 木 曜 日

成田部隊 土 曜 日

阿知波部隊 金 曜 日

村田部隊 日曜日

其他臨時駐屯部隊ノ使用ニ関シテハ別ニ示ス

第六十一 實施單價及時間

1. 下士官兵、營業時間ヲ午前九時ヨリ午后六時迄トス

2. 單價

使用時間ハ一人一時間ヲ限度トス

支那人 一円〇〇銭

半島人 一円五十銭

内地人 二円〇〇銭

以上ハ下士官、兵トシ將校(准尉含ム)ハ倍額トス

(防毒面ヲ附ス)

第六十二

検査

毎週、月曜日及金曜日トシ金曜日ヲ定例検査日トス
検査時間ハ午前八時ヨリ午前十時迄トス

第六三

検査主任官ハ第四野戦病院醫官トシ兵站ヲ備病院
並各隊醫官ハ之ヲ補助スルモノトス、検査主任官ハ其ノ結
果ヲ第三項部隊ニ通報スルモノトス

慰安所利用ノ注意事項左ノ如シ

- 1 慰安所内ニ於テ飲酒スルヲ禁ス
- 2 金額支拂及時間ヲ嚴守ス
- 3 女ハ總テ有毒者ト思惟シ防毒ニ関シ万全ヲ期スヘシ
- 4 營業者ニ對シ粗暴ノ行爲アルヘカラス
- 5 酒類ヲ帶ヒタル者出入ヲ禁ス

第六四

雜件

- 1 營業者ハ支那人ヲ客トシテ探ルコトヲ許サス
- 2 營業者ハ酒有茶菓ノ饗應ヲ禁ス
- 3 營業者ハ特ニ許シタル場所以外ニ外出スルヲ禁ス
- 4 營業者ハ總テ檢査ノ結果合格証ヲ所持スルニ限ル

第五 監督擔任

監督擔任部隊ハ憲兵分遣隊トス

第六 附加事項

1 部隊慰安日ハ木曜日トシ當日ハ各隊ヨリ使用時限

ニ幹部ヲシテ巡察センムルモトス

2 慰安所ニ至ルトキハ各隊毎ニ引率センムヘシ

但シ巻脚胖ヲ除クコトヲ得

3 毎日十五日ハ慰安所ノ公休日トス

①第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌四號 (昭13・4・10)

自昭和三十三・四・一
至昭和三十三・六・二十六

才四号

陣中日誌

才十四師團衛生隊才三中隊



防衛研究所図書館

四月十日
赤野御殿あり
形

一日 蓮上小島 武井部三郎 殿務二

二、東口部 原衛兵下平花ノ節ノ殿務又

兵衛兵司令 佐長 原 石 庄 出 哨 掛 富 中 佐 男 出 哨

田中 豊吉 青木 平四郎 田部 井 林 吉 高柳 長一 郎

高橋 正三 中澤 良一 今井 熊 養 小石 川 浅 吉

石 島 利 部

三、東口下士 哨ト平花ノ節ノ殿務又

哨長 佐長 合 島 定 雄 出 哨 掛 石 坂 中三男 出 哨

江 藤 豊三郎 田中 正一 久保 田 廣一 大 森 健一 郎

小 山 正 一 今井 慶 吾 小 林 清 美 櫻 井 正 一

四、本日午前八時三十分 須藤 少 尉 以下 七 十 名 那 須 部 隊 配 属

ト 寺 出 発 又 (部 下 小 隊)

五、草 向 兵 出 下 三 口 名 守 前 (八 時 三 十 分 前 進 衛 兵 隊 下 平 青 山

守 匠 大 尉 指 指 三 依 出 発 又

六、
警備人員僅少ニ付テ、
警備長ヲ兼任スルノ配當、
甚障害物
トシテ、
付現地ニ到リ指示ス

七、
新隊長ハ増線及宿舎ヲ以テ視セラレ

八、
海軍長官部船口通曉校ノ勤務ニ關ス

九、
東口ノ珍斷ノ結果、
四日十日午後五時
於此御飲馬ニ東京
回部、
徳野部ヲ傷病院ニ入院ス

十、
衛生部會報

一、
外出時、
所々ニ敬礼ハ概シテ良好ナルモ、
服装ハ一般ニ不良ナリ

一般ニ注意ヲ喚起セラレタリ

二、
補任及恩賞其他關係事項ニ關シ、
又ハ希望那村ハ取

纏メ、
東口ニ口頭ニ東京ニ提出相成ク、
方

三、
北支方面ニ於テハ、
常用年票ノ使用ヲ禁止セラレタルニ付、
折

折七八名ハ、
東京ニ於テ交換セラレ方

四、
支那妓女ノ模倣、
或綾ヲ見ルハ、
殆ト有毒ナルニ依リ、
支那

妓樓ニ出入セザルコト

五、
入隊者、
以テハ、
給與通稱返附ニ付、
特ニ迅速イラシムルニ依リ、
警備

③2 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌八號 (昭13・11)

昭和十三・十一

才八号

陣中日誌

才十四師團衛生隊

防衛研究所図書館



アヲハ明(白)ハ付送ニ本部ニ報告せらしむ

(一) 丹河橋梁ハ予定ノ通リ明(白)付送

(三) 明(白)ハ外(出)日ニ付左ノ如キ并(常)中(常)事(項)ニ注意せらしむ

ハ他人及(郊)外ノ右(警)署ヲ所(サ)ガハ(注)意(多)ク(シ)テ

ハ(教)禮(ニ)就(テ)ハ(上)官(ハ)元(ヲ)同(級)ト(雖)モ(互)ニ(教)礼

ヲ(交)ス(標)ニ(注)意(多)ク(シ)テ

ハ(服)装(ハ)西(シ)ク(甚)然(ク)度(四)敵(ハ)テ(ル)ヲ(要)ス

ニ(外)出(先)ニ(於)テ(自)部(心)ヲ(失)フ(程)多(ク)糧(ニ)飲(酒)セ(カ)

ル(標)注(意)多(ク)置(カ)レ(タ)シ(又)時(候)ハ(念)欲(増)進(ノ)候

ナル(支)那人(飲)食(店)ニ(テ)暑(飲)日(暮)公(等)セ

サル(標)注(意)多(ク)アリ(タ)シ

ホ、右(身)持(持)スル(計)ハ(外)出(ス)ル(時)ニ(基)準(ト)ス(計)

ニ(念)セ(外)出(セ)シ(テ)ラ(レ)ル(シ)

(一) 警(備)隊(ノ)所(テ)右(割)表(ヲ)配(布)セ(ラ)シ(如)ニ(付)

十一月八日
前夜
20.16

九

同日男子部等上入若也こナラレテ南町街入浴場

本日、患者情状左ノ通リトス

胃腸^{三〇}部^{三〇}科患五^{三〇}名癒^{三〇}并^{三〇}其^{三〇}體^{三〇}休^{三〇}其^{三〇}

就業二一^{三〇}計三^{三〇}名

人員^{三〇}部^{三〇}三^{三〇}中^{三〇}隊^{三〇}一^{三〇}五^{三〇}六^{三〇}車^{三〇}輛^{三〇}隊^{三〇}八^{三〇}一^{三〇}

衛生^{三〇}部^{三〇}三^{三〇}三^{三〇}方^{三〇}行^{三〇}李^{三〇}一^{三〇}之^{三〇}小^{三〇}行^{三〇}李^{三〇}一^{三〇}六^{三〇}

高橋^{三〇}隊^{三〇}長^{三〇}少^{三〇}下^{三〇}三^{三〇}口^{三〇}二^{三〇}名^{三〇}馬^{三〇}匹^{三〇}五^{三〇}五^{三〇}頭^{三〇}

一 本日部隊日直特校西田准尉服務ス

二 本日巡査下士官近藤軍曹服務ス

三 本日日直下士官大坂伍長同上署員富中佐男服務ス

男服務ス

四 本日第一部隊衛兵ト在^{三〇}通^{三〇}了^{三〇}服^{三〇}務^{三〇}ス

陸軍

司令伍長 藤崎 耕一郎 步哨 横 森 常市

步哨 染野 宗五郎 横山 金作 中村 清一

大川 一男 安保 菊一郎 駒場 七郎

五、本日第二部隊係員ト多ク左ノ通リ服務ス

司令特一 守谷 文衛 步哨 柳山 常志

渡辺 芳次 藤 森 良雄 島羽 芳高 林辰 権

六、步三八旅日軍第一四一聯

西部警備隊日軍司令

一、一月八日十五時
尔今野砲兵第一〇聯隊第一大隊八旅團司令官及衛

兵隊(上)ノ病馬並ニ裝蹄ヲ完施スベシ

西部警備隊長 市村 村少將

下達法 印刷 文附々

七、衛生隊第一三〇日軍司令

陸軍少佐 伍長

十一月八日十七日
於 横 森 常市 部
須崎 升 美

20.17

上等員

山田義明

陸軍

右酒保委員並ニ助手ヲ余ニ

依テ来ル上日ヨリ重田主計ノ指示ヲ受ケ附務ヲ行ハシ

大行ホヨリ瀧水置置搬ノ為メ挽馬一頭ニ保管轉等

換テ余ニ依テ十一月六日小行ホヨリ引渡ス

尔後衛生隊ノ病馬並ニ裝蹄ハ野砲兵第一方隊ニ於テ

ニ実施セル付同隊ニ至リ治療及裝蹄ヲ行フベシ

衛生隊第三部會報

日 此後慶信衛生隊本部

来ル十一月十日ヨリ工身隊ニ於テ慰靈祭ヲ河北岸廣

場ニ於テ行ハルニ付各隊ニ於テ知人又ハ希望者ハ同日

八時三十分迄ニ本部ニ集會セシメラシメ

取寄ハ徳子帯剣巻脚絆

来ル十一月十五日頃故有山遊弥少佐佐下ニ於テ

ノ慰靈祭ヲ行ハルニ付各隊ハ十四日迄ニ本部ニ

安置ニ得ル如ク豫メ準備セラルベシ

(四) 料リタニ飲食店料理店官業者ヲ集メノ切切議ノ結果、
左ノ順序ヲ定メラル

定價ハ近日中ニ各官業者ヲ集メノ協議ノ結果左ノ
順序ヲ定メラル

一 精酒一本 (一合の) 五拾銭

二 ビール一本 八拾銭

(四) 藝娯妓一対ヲ對スルニ代 下ニ田下七官

参考准士官以上四員

(五) 酒類販賣ニ就テハ藝娯妓ヲ抱ヘ在ル宗ニアリ

テハ酒類一切ノ販賣ヲ嚴禁シアルニ付、私欲知セラルベシ

(六) 藝娯妓ノ合格者ト雖モ無常毒ハ保シ難キ

ヲ以テ以テ不防毒ヲ實施セル様指導セラルベシ

(七) 過日會報を出版ハ来ル十一月十日旅團司令

10.18

陸軍

部前二部十九時三十分迄二實施二倍三各係

毎二引中二同日十八時三十分迄二同所二集合セリ之

九、懷慶縣林倉府倉報

十一月八日
光榮、慶

一、昨九日九時三十分左記燈土用燃一科ヲ交附ス

左記

一、石油 三、隣寸

一、本日、患者情況左ノ歸下トス

旧患三三、新患二、治癒一、入院二、轉休三

十二、就業二日

一、人員担第帯三中隊一五七 車輛小隊八一

衛生部三三 大行李一六 小行李一六

高橋隊長以下三〇七名 馬匹五五頭

○ 計師少佐中ノ空向之計以長、尚義明、常隊ス

昭和十四・一

才十号

陣中日誌

才十四師團衛生隊才三中隊

防衛研究所図書館



給養ハ身証給養ニ依リテ之但ニ用者ニ依リテ

給マシ

衛分隊第三部長

高橋中尉

衛分隊第三部長會報

一月二十三日
光澤啓

一、明日二十四日左記ニ依リ目例自體検査ヲ行フ

人 以下各場

自北場五十分
至十時三十分
担架第三中隊

自十時三十分
至十一時
小橋小隊

自十一時
至十二時
大小行李、衛生部

之、場所 衛生部

三、當日ノ勤務者及他ノ勤務者ニ對シテハ

順次ニ依リ十三時ヨリニ給養ス

二、支那人接客場ニハ有毒者多クニ考ヘラレシニ

付成ルヲク支那人料理店ニ立列ラヌヲ注意

一月五日
光懷慶

~~54~~
56

意セシラレテ

本日、患者情状左ノ通リトス

折居五、内練休三、就業五

其人夏担架第三中队一五四、車輛少隊七八

衛生部 三六、大行李一七、小行李一七

高橋隊長以下三〇二名、馬五、車頭

七一

一、本日即昨日直街校勤務トシ、津野曹長暇務又

二、本日巡察下士官近來症候曹暇務又

三、本日第一部隊衛兵トシ、左ノ通リ暇務又

司令上等曹長横森常一、歩哨掛倉田守

歩哨中村浩一、飯島辰秋、駒場七郎

四、本日第一部隊衛兵トシ、左ノ通リ暇務又

陸軍

以下略

③24 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌一四號〔昭和14・5〕

昭和十四・五

十四号

陣中日誌

第一四師團衛生隊第三中隊

防衛研究所図書館



兵器牛の具

3、 排列方法、 各宿舎毎ニ宿舎前ニ机ヲ出シ口四

目別ニ排列シ各札ヲ附ク 小鏡ハ外南側ニ置ク 鏡

剣 軍刀ハ其レソレ革屨ヲ別ニ排列ス

4、 受検ニ際シハ勒當者以外全員立會ラバシ

照禁ハ平常ノ儘トシ

5、 左ノ圖ヲ神助官ヲ命ズ

神助官

分担

須条中尉 鏡口及照準具 助牛大木村伍長

西田中尉 牛の (小鏡) 助牛山口伍長

下山軍曹 小鏡、標旗 (助牛標榜上小具)

前原中尉 軽銃、機銃、手入兵器牛の具、喇叭及員数

横壺 (助牛長幅上小具)

南澤伍長 鏡、劍、牛の機銃

中島伍長

常車劍差

宝田伍長

葉盒

外之控 聖部三冲係ハ山口伍長ハ大森伍長外

兵三名ヲ助手トシ差出スルニ但シ筆記具携行ノコト

ノ神助官及助手ハ二十五分迄ニ衛生部ニ集合スルコト

以テ諸部ハ十八日ヨリ本部ニ於テ之ヲ論及ス右係下士官(車輻

部係ハ多係長班長)以上集合スルニ昭然ハ一般諸部

付二回ニ

衛生係第三部伍長

高橋中尉

三、非由南壤慶露管會報

五月十三日
於雙橋

一、近來支那人密性賣者或内各所ニ點在ス

ル如之等、殆ト大部ハ猛列ニル花柳病四雜

病者十ルヲ以テ絶對ニ立入りヲ禁止ス又公認ノ

者ト雖支那人ハ不健全者多クテ以テ注

之部ヲ一覽ス

一 帳人夏部三申部一方二 車輛七隊七八

衛生部三六 大行部一六 小行部一六

高橋政長部一三〇四名 馬匹一六九頭

一四 本日廻番下士官番番(武田佐長ト古瀬佐長ト番)

同上等以、秋山上等以、小山上等以、代此務又、高橋政長部
本日赤路二官、勤務右ト左ト、此務又、高橋政長部

部隊口直下士官部原軍曹 込之部下士

官 職 附 務 又

二 本日第一部隊衛生員ト左ノ通リ附務又

司令佐長篠崎耕一郎 歩哨掛 伊藤 司

歩哨掛 山金作 馬場 七郎 小林 龍彦

三 本日第二部隊衛生員ト左ノ通リ附務又

司令川口金吾 歩哨掛 丸山 政治

米俵 昨 一日高白

明部部所
二 飼養部

22

陸軍

山崎宮雄 神山常志 上野種雄 降旗将司

四 本日第一等我病院衛兵卜多左ノ三ノ一 昭徳ノ

司令 佐藤 山崎 宮崎 昭徳 神永 義三

出陣 吉良山 登 増山 福治 田中 玄野

五 本日懷慶野戦營 左衛兵卜多 左ノ通ノ昭徳ノ

司令 佐藤 長岡 武雄 吉野

青木 平四郎 昭 口由土 切 須原 平吉 出陣

六 十三日 前日 命令 二 基ノ長ノ檢査ヲ実施

又十六日 終了シテ (八) 補助官ニ任テ 譜評

ヲ行ハシテ 昭 長總評ヲ行フ

七 本日 患右 陸隊 左ノ通リ

四 患ニ三 特患ニ一 昭 癒一 練 佑九

就業一六 計二五名

八 衛生隊 第三 初日 初命令

五月十四日十八日
衛生隊 第三 初日 初命令

①5 第一四師團衛生隊担架第三中隊陣中日誌一六號 (昭14・7)

昭和十四・七

十六号

陣中日誌

第一四師團衛生隊担架第三中隊

防衛研究所図書館



衛生隊第三部日日命令

七月二十一日十二時
陸軍衛生隊本部

一、陸軍輜重兵上等兵

久保田 実

右者係給受領書控提出ノタメ明八月一日懷慶出發

開封衛生隊車輛中隊事務室ニ出張ヲ命ス

二、陸軍輜重兵一等兵

野 越 富 一

右者郵便受領者園原若吉ト其ノ勤務ヲ交代服務

ノ爲メ川八月一日懷慶出發開封衛生隊本部ニ出張ヲ命

ス 但シ何レモ連絡自勤車及列車ニ依リ給養ハ兵站

ニ依ルモ開封於テハ部隊給養ニ依ルヘシ

三、陸軍輜重兵中曹

南 長 英 雄

右者輜重兵器受領ノタメ来ル八月二日懷慶出發

開封衛生隊車輛中隊ニ出張ヲ命ス

四、陸軍輜重兵一等兵

今 井 新

右者車輛中隊事務室助手トシテ服務ノタメ来ル八月

月二日懷慶に發開封衛生隊車輛中隊事務室ニ
出張ヲ命ズ

但シ何レモ連絡自勅車及列車ニ依リ給養兵
此ニ依ルモ開封ニ於テハ部隊給養ニ依ルヘシ

衛生部ハ雨今措容婦衛生検査ヲ別紙担任区
會議依リ実施スヘシ

衛生部ハ雨今難民ニ対スル施療ヲ実施スヘシ
但シ材料ハ第一野戰病院ヨリ交付セラル、等

細部ニ直接第一野戰病院ト連絡スヘシ

衛生隊第三部長 高橋中尉

衛生隊第二部會報

七月三日
於懷慶

一本七月三十一日ノ馬匹検査ニ從事セル下士官以下ニ對シテ八月 日外出ヲ許可スルニ付一般ニ承知ノコト

懷慶露望會報(寫)

案九八月三日旧懷慶野獸郵便局ニ於テ清化鎮野獸郵便局ニ金錢事務出張取扱ヒテ矣
概又

但シ一日限リトシ八月十日實施豫定ハ取止ム

③26 第一四師團衛生隊担架第三中隊陣中日誌一七號 (昭14・8)

昭和十四八

才十七号

陣中日誌

才十四師團衛生隊担架才三中隊

防衛研究所図書館



高橋隊長以下二三八名 馬一匹 六九頭

参考 本日ハ雨ヲシテ終日太陽ヲ見ス時々晴ルタルモ引

續イテ雨ノ多ク相成少シタルハ水ハ二町二寸

位ノ増水ヲ見テ然レテ天候恢復ノ見込ニ

立タス夜ニテハ一入強ク降り續ケテ多ク

一月十日

曇り

於懷慶

一、本日雨路警勤務員トシテ左ノ通リ服務ス

部隊日直將校須藤中尉 巡警第1士官平澤

軍曹日服務ス

二、本日第一部隊衛兵トシテ左ノ通リ服務ス

司令任長大島貞雄 歩哨林 田中 乙

歩哨 大島 清次 本橋 繁 榎 松 本 吉 貞

三、本日第二部隊衛兵トシテ左ノ通リ服務ス

司令任一等兵二村 正 歩哨 柳 小 常 志

歩哨 向井園松 新津 光人 苜澤 泰平

豊豊功

四、本日野我倉、府衛兵トシテ左ノ届了服務ニ

司令軍曹武井邦三郎、歩哨掛野口新作

歩哨者系利為右紫崎恵心也助 春原 勝

五、本日西葦門歩哨トシテ左ノ届了服務ニ

司令伍長武田芳郎 歩哨掛中泉 豊三郎

歩哨竹内 運一、山城 政雄 中野 留吉

本日増加衛兵トシテ左ノ届了服務ニ

朝山崎 高雄 丸山 新治郎 (小) 中澤 政博

六、 經理室ニ於テハ一日外ノ副食物ヲ購入シ各隊ニ分配

セル外、其ノ事ナシ

七、 本日命令全報ナシ 集ルタル命令受領ニ對

シ昨夜来ノ止ミ所ナキ雨ニ依リ至ルニ倒壊

…二付 各隊共々(各部隊) …スル様又其他ノ事項ヲ…

陸軍

家屋アルニ付各隊以テ(考ル水)總子ノ異ニ就テ十充

在音スル様文ニ他ノ事項ヲ上ノ子注意スリ

本日、患者精気左ノ通リ

旧患ニ云新患四、練休一一就業

一九計三〇、他部隊一

施療私六少尉 同助午八、明日、全之

接之岩婦、治療、稲翠、中尉、助午号、

九、人員担架、第三中队、一〇之、車輛少隊

六九、衛生部三七、大行李一五

小行李一五

高杉隊長以下二三八名、馬匹六九頭

参考、廿廿日、前夜十時三十分頃、雨ニ際

雨トナリ、夜中一寸ノ晴ニ間、モナリ降リ、續々

ク本日午時一時雨降晴ニタルニ、天候恢復ト

[以下略]

⑬ 第三兵站部向井支部陣中日誌 (昭13・7・1)

自昭和十三年七月一日
至今 八月二日

陣中日誌

寫
錫山
向井支部

長之報告書白紙提出

四、碓氷山宜撫那号村慰安所設置、開シ申入アリ、レテ以テ

敬告備隊長ト關リ之ヲ許可セリ

五十七時運給只アリ左記ノ書類ヲ渡及領ル

左記

軍監 甲 第 四 一 五 号

二道

命令 報

一道

勝 派 第 八 二 号

一、二道

一、從隊部隊經理部長ヲ次ニ電報ニ接ス

兩電 文

梅千六。竹一。浦二。日八時徐川狀器十時碓氷山

(大正四年)

通過第三。九州軍貨車者形(八三九)ニテ交通車卸

下手配ヲ乞フ

七、同端支隊患者四十五名ヲ救置ニテ二十四新礮山ヲ出立セリ

八本陣ヲ結着人ヲ愛四九人

陸軍省

原本史料

防衛研修所戦史室

昭和一三・一三・一〇

第二軍狀況概要

2A 司令部



③第二軍狀況概要 [第2軍司令部 (中支武漢地区)] (昭13・12・10)

目次

- 第一 軍一般ノ態勢
- 第二 軍當面ノ敵情
- 第三 各兵團ノ狀況
- 第四 漢口及漢陽警備
- 第五 治安及宣撫
- 第六 人馬ノ補充
- 第七 交通及通信
- 第八 後方一般ノ狀況

區分ス

漢口地區ハ獨立ニ兵第一聯隊長ノ指揮スル歩兵三大隊（一中隊及二兵二中隊）ヲ基幹トシ張公堤及漢口軍橋ノ保護市内外ノ警備並治安維持等ニ任シアリ

漢陽地區ハ歩兵第九聯隊第三大隊長ノ指揮スル歩兵一大隊ヲ基幹トシ主クハ漢陽附近ニ集結シ隨時担任區域内各方面ニ出動シ得ルノ準備ニ在リ

警備司令官ハ歩兵一中隊ノ外氣球隊等ヲ直轄シ兩地區ノ警備ヲ統轄シアリ 十二月上旬ニ於ケル漢口警備

隊配置ノ概要第一圖ノ如ク漢口漢陽警備ノ爲ニ概
 ネ現在ノ兵カラ以テ支障ナキモノト認ム

三、警備司令官ハ軍紀風紀ノ維持取締リハ勿論、防火、衛生、防
 疫、外出、慰安等廣範圍ニ亘リ軍隊ノ内務ヲ區處ス而シテ
 勉メテ嚴格主義ヲ採リ皇軍本來ノ面目ヲ發揮シ威信ヲ
 發揚スルニ遺憾ナキヲ期シツツアリ以下各項ニ就キ其概要
 ヲ述フ

(1) 軍紀風紀

警備司令官ハ警備勤務ノ實行ヲ圓滑ニシ且軍紀風紀ノ維

(二) 外出 慰安

外出ハ警備第一主義ニ基キ當分ノ間引率外出慰安所出入ノ爲ノ外出以外之ヲ認メス 慰安所ハ十一月二十五日ヨリ之ヲ開設シ切符制度ニヨリ混雜ヲ防止シ以テ皇軍ノ面目ヲ維持スルコトニ努メツツアリテ概ネ所期ノ目的ヲ達シアルモノト信ス

四、外人及支那人ニ對シテハ派遣軍ノ規定ニ基キ其通行居住ヲ取締ル一方軍隊ニ對シ其趣旨ヲ徹底シ特ニ第三國權益ヲ尊重スヘキヲ強調シ過誤ノ豫防ヲ期シツツアリ

入城以來渉外關係ニ於テ未タ大ナル事件ヲ生セサルハ
 幸トスル所ナリ(以下第二圖參照)支那人ニ對シテハ當初
 安居證ヲ有セサル者ヲ中國區ニ驅逐スル計畫ノ下ニ準
 備中偶々放火事件頻發セルニ鑑ミ十一月十五日軍ハ斷
 乎トシテ舊避難民區東端及之ヨリ北方鐵道線ニ至
 ル片點線路以東鐵道線以南地域ニ於ケル軍隊區商
 業區日華區及中國區ノ支那人ノ通行居住ヲ禁止シ
 警備隊協カノ下ニ安居證ヲ有セサル支那人(特三區ヲ除
 ク)ヲ禁止區域以西ニ驅逐ス十一月下旬ニ至リ事態漸

々

35 1 獨立山砲兵第三聯隊陣中日誌 (昭14・1・7、4・23)

昭和 一四・一一・一四 廿 四・三〇

獨立山砲兵第三聯隊陣中日誌

原本史料

防衛研修所戰史室

支那
支那軍
武器
294

陸軍

一月七日

應山城外ニ於テ警備ニ任ス

晴

一〇〇。聯隊長副官同行監生並警備隊巡視ス

於應山

一三〇〇。ヨリ約ニ時間大原大尉教官トシ聯隊將校教官ヲ

畫施ス 課目對遊撃戰法

一四〇〇。左記日々命令下達

日々命令 一月七日

一別紙通り慰安所監督將校ヲ差出スヘシ

二 陸軍獸医中尉

麻生將巻

陸軍獸医塚伍長

中金次郎

一月八日ヨリ二泊三泊ノ程走ヲ以テ事務連絡又自昇道檢査持テ

為在漢口軍獸医部並ニ野戰軍醫防疫部へ出張ヲ命ズ

三 陸軍砲兵伍長

井手口芳方郎

一月九日ヨリ約一月半ノ程定ヲ以テ遼東各地還送率領者トシテ

上海ニ於ケル告別式參列、後内地護送ニ任スヘシ

四月三日

晴

應山

聯隊本部及第五大隊ハ独山ニ作命第五ノ號ヨリ城及

城外煤家溝附近ニ待機

聯隊殺列羊部ハ漢口ヨリ汽車輸送ニ應山ニ前進中

尤記聯隊ヨリ命令ヲ下達ス

日々命令

四月二十二日 應山

砲兵少尉 蓮尾明

外下士官兵 七名

地回斐爾殘置物件調及用度品購入ノ爲ニ二十三日ヨリ二泊三日

ノ予定ヲ以テ漢口ニ小休ヲ命ス

四月三日

漢口ヨリ汽車輸送ニテ前進中、聯隊殺列羊部 本日一ニヨリ

應山ニ到着、應山城及城外ニ待機中

昨二十日ヨリ命令ニ依リ、運尾少尉以下七名漢口ニ小休ス

尤記日々命令下達ス

日々命令

四月二十三日 應山

				一 神充員タル衛生下士官到着セシ付左ノ連、配當ス
			第大隊	後衛生佐長 小山田 未廣
			同	同 間部 隆
			同	同 庵原 長
			同	同 岡田 正幸
			同	同 山下 國雄
	二	聯隊段列	同	光石 晴次
		命砲上等兵(三月三十日附)		陸軍砲兵一等兵 平田 羊次郎
	三	靖國神社臨時大祭施行セラル付テ各隊ハ四月二十五日		
		逸祥式ヲ實スニ追テ逸祥ハ同日ヨク一御親祥時列ニ		
		行ブニ		
	四	後備役輜重兵軍曹 名島 利雄		
給二等給				
				三月一日附

取次小隊

陸軍

之別紙特種慰安業務之規定按年配付ス

聯隊慰安所利用日毎週月曜日トス

但、明三四月八三三三日ト変更ス

自昭和十四年六月一日
至昭和十四年六月三十日

陣中日誌

獨立山砲兵第三聯隊

各隊長ニ與フル指示

昭和十四年五月七日
應ふ聯隊本部

願ルニ聯隊ハ取年十一月第三師團ニ配屬セラシ合カヲ此ノ地ニ集結
 シ爾後上司ノ指示ニ基キ滞在稍、久シキハ巨ルヲ覺悟シ教育
 内務其ノ他ノ諸行事ヲ計畫シ之カ空行ノ途上偶々本年
 一月俄カニ追發ヲ命セラレ折極リ霖雨ヲ冒シ泥濘區數十里
 ラ行軍シテ南昌攻略戰ニ參加シ彼ノ壯烈極マル修水河畔ノ
 砲兵戰次々テ晝夜兼行果敢アル追撃ニ於テ恰天山砲、獨ト
 的砲兵戰ヲ遂行シ以テ月餘ト豫想セラレタル南昌攻略ヲ僅ニ旬日ヨリテ
 スミテ此ヲ公認セリ

此ニ休養ノ道ヌキ直キニ轉進ヲ命セラシ行軍並船船鐵道輸
 送第ヲ備用シ極ノヲ尋忙ノ間ニ夫々兵カヲ集結シ主力ヲ以テ
 第三師團一部ヲ以テ第十六師團ニ配屬セラシ今次東東令戰ニ參加
 シ共ニ勇戰力闘以テ遠大ナル戰果ヲ擧ケ得タルコト殊ニ諸官ノ諒知
 セラルル所ナリ

而シテ第十六師團方面ノ状況ニ就テハ未ク詳細ヲ承知シ得サルモ
 當方面ニ於テハ我リ砲兵戰隊ノ勇猛果敢且歩兵ニ對スル密接ナル
 協力ヲ以テ歩兵ノ攻撃ヲ極メラシ容易ナラシメタル所ニシテ諸官以下
 ノ勞ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スルト共ニ中隊長堤大龍尉以下名譽
 ノ戦死者ニ對シテ謹テ敬申ノ意ヲ捧クル次第ナリ

註ニ大會戰ノ一段落ト共ニ聊カ將末ニ聞スル本戰ノ企圖ヲ聞キシテ
 其ノ如何ヲ所ヲ明ニセントス

當聯隊ノ參戰久キキニ渡リ近來ノ動モスレハ地方方面ニ移轉スルマニ履
 働スルモノナキニ非サルモ尙モ事將末ノ行動ニ聞スル限り極秘ニシ
 テ監視知スルヲ得サルモ先ツ當分少クモ今夏ハ更働ナキモノト判断セラ
 ルノヲ以テ各隊ハ以下指示スル所ニ依リ今後ノ作戰準備教育
 内務及事務整理ニ盡碎シ以テ萬遺憾ナキヲ期セラレユコトヲ

望ム

以下項ヲ追フテ述ヘントス

一 軍紀風紀

軍紀風紀、聖諭ニ社テハ作年式漢攻略戰後訓指マシラ次テ今茲ニ
 重ホテ之ヲ詳述マサルモ最近某中隊ニ於テ軍紀ヲ紊リ處罪セラレ
 タル下士官及兵アリ宣シク前述訓示ヲ再讀ニ各級幹部自肅自戒ト
 懇切ナル指導トシ更ニ西望ミテ己ニナル也等ナリ

宣撫工作、維持ニ伴ヒ更ニ注意ヲ倍蕙スルヲ要スルハ第一支那
 婦女子ニ對スル言動第一掠奪發射的行爲、第三飲食、酒暴行、
 第四軍機漏洩第五火災及破壞的ニ行爲之ナリ

二 教育

教育ニ関シテハ別冊ヲ以テ指示ス仍テ昭和十四年初頭ニ興ヘタル
 教育ニ関スル指示ト共ニ合冊スヘシ

三 宿舎及給養

時恰モ白着ノ服割ハ當地ハ暑者嚴シク且各種傳染病流行ノ地
 ナレハ衛生施設ト給養トヲ適切ナラシムルコトニ関シテハ各隊長ニ於

七 豫後備召集將校ノ考科表ニ就テ口達ス

八 下士官考科表ノ新調及整理

新任下士官多ク又下士官ノ身上異動勤カラサル現況ニ於テ
着ニ之カ新調及整理ヲ丁ニ遺漏ナキヲ西サス

九 昔年決兵ノ交代

少クモ大正十一年徵集力前ノ兵ノ交代セシメテテ希望ヲ有スルヲ
以テ此ノ際調査ノ上聯隊本部ニ提出スヘシ

十 漢口出張者

努メテ取纏ヲ出張ノ回数及人員ヲ最少限度ニ制限スルヲ要ス

十一 連保ノ開設

連保ハ聯隊ニ二個(西大隊
古一組)ヲ開設シ聯隊本部聯隊段列西スルハ中

隊ニ分所ヲ設置スヘシ

連保西ハ野戰倉庫ヲ購置スルヲ本則ニス

十二 慰安所ニ就テテ口達ス

交通紅泥精神の慰安郵便等ニ對スル意見

一 交通ニ関スル件

部隊ノ大部分ハ應ムルニ行乃至五行ノ本道ヨリ更ラシ小陸ニテ一行乃至

二行行程地域ニ致々宿營シテ以テ各隊間ノ交通ハ相當不便ヲ感シマツ

アリ然レテ糧秣補給等々他ノ運搬ハ目下駄馬ニヨルモ人馬共ニ疲勞

著ク次期作戰ニモ支障ヲ生スル虞大アリ故ニ自隊ニ於テ極力道路ノ

補修・勉メクアルモ自動車道ヲ構築シ自動車ノ配給ヲ受ケ之ニ依リ運搬

スル如ク顧慮セシ度

二 精神の慰安ニ関スル件

ノ尉ニ向團及軍樂隊ヲ一層増派シ且慰問品及慰心問文ノ屢々送付アル様

配慮セシ度

以慰問品ハ師團ノ配屬替ニテ關係上支給セラルル固數極メテ甚ク且郷工

師團ニ配屬セラレテラザル關係上郷工ヨリノ慰問品ハ受領シラント殆ニトテ

郷工ヨリノ慰問品ハ兵士多ク大ノ精神の慰安ニ對シテモトモト思考セシ

付并別な處ヲ拂ハレ度

了并并慰安所ノ外ニ尚師團ニ於テ販賣人ヲ指定シ氣持ヨキ飲食店又ハ

カネノ式、モノヲ設置(要スルハ軍人ホムルニ一層兵ノ慰安ニ努メラレ度

々現任并并慰安所ハ慰安婦少ク口惜慾ヲ滿ススニテ今少シ慰安

婦ヲ増シ精神的慰安ヲモナサシムル如ク指導セラレ度

三 郵便物ニ關スル件

中支派遣作戦地内ノ居留民ニ對シ郵便物ノ發送ヲ容テラシムルモ檢査ヲ

嚴ミテ發送ヲ手得ル如クセラレ度

四 酒保ニ關スル件

酒保品ノ品種數量ヲ増加シ品質ヲ向上シ兵ノ希望ヲ満足センル様做セラル、

ト共ニ食料品ノミナラス日用品等ヲモ販賣スル酒保ヲ設置セラレ度

五 其他

各中隊段列一個宛木製五人入り位ノ浴槽ヲ支給セラレ度

陸軍

三

豫備役主計軍曹

平野

守

後備役獸醫務軍曹

申島

全藏

給_二專給

(昭和十四年五月二十五日附)

六月二十日

應山及其北方地區ニ駐軍

晴

一三〇聯隊長維公山ヨリ歸隊ス

應山

六月二十日

應山及其北方地區ニ駐軍

晴

一三〇別紙日々命令下達

應山

人馬現況別紙旬報、如レ

日々命令

昭和十四年六月三十日

一 束ル七月七日日支事變ニ週年記念日ニ付聯隊本部大隊、聯隊

段列、毎ニ左ノ行事ヲ行フヘシ

ノ事變一週年ニ當リ下場セラレタル

勅語研讀

(陸海軍令場ハウケルモノ
一般國民ニ賜ルモノ)

2. 皇居遙拜

一三〇〇

3. 精神訓話

ニ本事業記念日、記念事業トシテ將兵左ノ事項ヲ躬行スルモ
ノトス

1. 將兵記念新金若ニハ送金

隊隊長以下七月分俸給中

1. 將校准士官 月額概テ千

口下士官 月額概テ千

ハ二等兵以下 一圓以上

(郵便局ノ七月七日ノスタンプヲ押捺ス)

2. 銃後ニ感謝文ノ奔送

隊隊長以下七月七日附ヲ以テ銃後関係

個所ニ各人少クモ一通業書感謝文ヲ發

送スル事!

付巻

當日ノ營舎所利甲成スルノ遠慮スルヲトス

(昭和十六年六月廿九日)

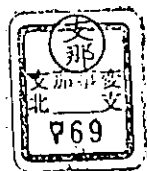
③第一〇八師團第四野戰病院業務詳報 [北警備隊] (昭14・6・12)

昭和十二年十一月十四日

業務詳報

第八師團第四野戰病院

防衛研究所圖書館



矢作命第七七九號

北軍備隊命令

六月二十五時
在霍縣濟遠司令部

北軍備隊ハ第四野戰病院ノ半部ヲ師團長ノ直轄タラシメトス、

一、第四野戰病院長ハ速ニ其ノ第二半部ヲ臨汾ニ汽車輸送シ師團長ノ直轄タラシムベシ、

第二野戰病院ヨリ西官防疫検査班及齒科醫(齒科醫扱一ヲ附ス)ヲ第二半部長ノ指揮トシ入ラメラルハ善

汽車輸送ニ關シテハ直接停車場司令部ニ連絡スベシ

北軍備隊長 矢野少將

病院ハ軍醫部ノ指示ニ從ヒ第二半部ヲ派遣シ師團ノ直轄タラシムルニ決シ停車場司令部ニ連繫シ貨車ヲ請ハシ必要材料ヲ積載シ六月十八日未發臨汾ニ向テ前進

一回衛生講話救急法実地等ヲナサンノ非常ノ場合ニ於ケル救護演練ヲナセリ

開設間ニ於テコレラ瘧疾ハ勿論瘧疾ノ流行ヲ防止シ得ルハ官民一般ノ防疫衛生ヲ理解シ趣意ヲ以テ之レニ當リタル結果ト信ズ

尚支那側警務局ト連絡シ傳染病患者早期発見ニ努メ隔離入院セシメタリ

尚花柳病予防場ノ為毎週一回接客業婦ニ對シ檢査ノ實施シ不合格者ハ入院治療ヲナサレモ怠ラシテ監督セシメタリ

三、消毒戒ニ就テ

開設當初ハ出園園ニ殘敵蟠居シ時ニ敵計衆ヲ企ムルノ状況ニアリ病院自隊ニ於テ自衛隊ヲ組織シ本部前ニ衛兵ヲ所テ設テ病院正門ト共ニ立哨セシメ鹿場ト共ニ相

レ兵站宿舍ニ泊シ十九日第二野戰病院ト交代引継ラ完
 了也リ從來病院全員ニテ業務ヲ執行セル霍縣臨汾等
 谷半一部ヲ以テ之ニ当ルコトナリ而モ一万患者、後送容歩
 二行ハリス各員具常ノ緊張ヲ以テ勤勞セリ、

(二) 防疫ニ就テ

開設當時ハ城内到ル処塵埃小積レ蠅蛆發生多ク
 掃メテ不潔非生物的ナリシヲ以テ憲兵隊、警備隊ト協
 議ノ上后留民會出防婦人會支那側等、勢高等ヲ
 督勵シ掃除已域ヲ定メテ清掃ヲサシメ病院ヨリ一週二回
 衛生巡察ヲ出シ之ガ監督ヲナシ其ノ勵行ヲ徹底セシメ
 面目ヲ一新セリ尚飲食業接客業者ノ食堂炊事場
 便所等ノ清潔ニ就テモ改善セシメタリ、

尚季ハ即ニ從ツテ種痘赤痢ヲナスコレラノ予防接種ヲ施
 行シ要疫ヲ防テ諒リ居留民國防婦人會ニ對シ毎月

① 森川部隊特種慰安業務ニ關スル規定 [森川部隊長] (昭14・11・14)

陸軍

昭和十四年十一月十四日

木林川部隊特種慰安業務ニ關スル規定

木林川部隊

第一 本規程ハ森林川部隊警備地域内特種慰養業務ニ関シ規定ス
 第二 特種慰養所開設ノ趣旨ハ將兵利代ノ氣風ヲ

緩和調節シ以テ軍紀振作ノ助タラシムルニ在リ

第三 從和調節シ以テ軍紀振作ノ助タラシムルニ在リ

從テ之ガ將大勵ヌハ宣傳ニ墮スルノ行爲ハ嚴ニ取締ラ要

第三 警備地域内ノ慰養業務ヲ安良施スル爲メ安良ヲ任

命ス

其差及任務分担附表第一ノ如シ

第四 警備隊長ハ慰養業務ヲ監督指導スルモトス

第五 慰養所及食堂附近ノ警備成茲ニ軍紀風紀ノ取締ハ

革谷鎮及葛谷店警備隊長ノ担任トス

第六 慰養所ハ葛谷店及革谷鎮ニモテ設ケ

第七 特種慰養所ニ要スル經費ハ一切經營者ノ負担トス

而シテ經營者ハ左ノ諸項ヲ確實具ニ安良施スベシ

設置ノ主旨ニ及シテハ諸規定ノ履行不確ナルモノハ

營業ヲ停止シテハ退去ヲ命ズ

1. 指定セラレタル階級以外ノ者ノ劣入ヲ嚴守スベシ

2. 營業時間ヲ嚴守スベシ

3. 料金及所定時間ヲ明瞭ナル所ニ標示スベシ

4. 入所券「ワック」ハ特許ニテ發行スル尉官安許可證ト

料金ト引換ニスル所スベシ

5. 巡察者ニ對シテハ利用者概況ヲ報告スベシ

6. 毎週土曜日ハニ・ヨリノ開業トシ同日ハ檢査ヲ受クニ

又毎聯^隊第三土曜日ハ公休日トシ第一土曜日ニハ健康

診斷ヲ受クベシ

7. 常ニ尉官安所内ヲ清潔ニシ飲食物及洒肴ノ販

賣ヲ禁ス

2. 慰安婦ノ身体ヲ清潔ニシテ室内ニ清潔ニシテ且

「ツック」ヲ交附シ置クベシ又洗滌設備ヲ整へ之ヲ励行

ヲ監視スベシ

7. 検査室ヲ設備シ不合格者ハ之ヲ隔離收容シ一般病者ハ

自室ニ於テ保護衣ヲ着セシメシ但シ産婦ハ其ノ旨標示スベシ

10. 経営者ハ毎朝ノ眞上表ヲ製作シ毎週月曜日發售備

隊長ヲ經テ聯隊本部ニ報告スベシ

11. 慰安婦ノ外之ニ関シテハ聯隊長ノ許下ヲ受クベシ

第八. 慰安所ヲ利用セントスル下士官以下ハ左ノ各節ヲ嚴守スベシ

1. 聯隊ニテ發行スル慰安許下證ヲ携行シ入所義務入ニ

際シ慰安所經營者ニ之ヲ付スベシ亦一券ハ一回限リトス

2. 飲酒略町セルモノハ入所ヲ禁ズ

3. 飲食物ヲ持込ラ許サズ

4. 慰安所内ニ於テ喧嘩ナルベカラズ

ノ慰安婦ニ對シ極口毒ヲ行勅ラナスベカラズ

ニ用濟後ハハズ洗滌スベシ

下利用時問ヲ嚴守シ他人ニ迷惑ラ及ボスベカラズ

ノ慰安所附近ノ支那街ニ立入ルベカラズ

第九慰安所ハ左ノ時問及區分ニ依リ之ヲ利用スベシ

第一第一葛店警備隊 新店警備隊

第二第二華容鎮警備隊

但シ第二開設時期ハ別ニ示ス

利用時問

兵 一〇〇〇 — 一八〇〇

下士官 一九〇〇 — 二一〇〇

但シ土曜日ハ一二〇〇ヨリ開業ス

第十利用料金ハ左ノ區分ニ依ル

將校 一時問 三〇〇

下士官 三十分 一・二。

兵 三十分 一・〇。

但シ「サック」ハ經營者ノ支辨トス

第十一營業ヲ停止シタルトキハセラ入口ニ標示シ軍人軍屬

ノ立入ヲ嚴禁ス

第十二慰安所設置所別紙附圖第一第二ヲシ

第十三各隊ノ利用日配當ハ別ニ示ス

第十四各隊ノ食堂ノ利用日ハ慰安所ノ利用日ニ同ジ

第十五各隊ノ食堂ノ經營者ハ第七及其ノ第二第三第五

項ヲ確毎員ニ實行スベシ

第十六食堂ハ營業時間販賣品ヲ左ノ如ク定ム

毎日 一〇〇〇—二一〇〇 並

但シ第一第三土曜日ハ休業トス

菓子及一般飲食物酒等

陸軍

附表第一

赤川部隊 各種慰勞業務委員

任 務

差遣
部隊

官名

慰安二團之業務全般統制

職本

村上大尉

第一第二慰安所及食堂主任經營指導

中島 少尉
内田 中尉
原 准尉

第三第四慰安所及食堂主任經營指導

古賀 中尉
福田 中尉

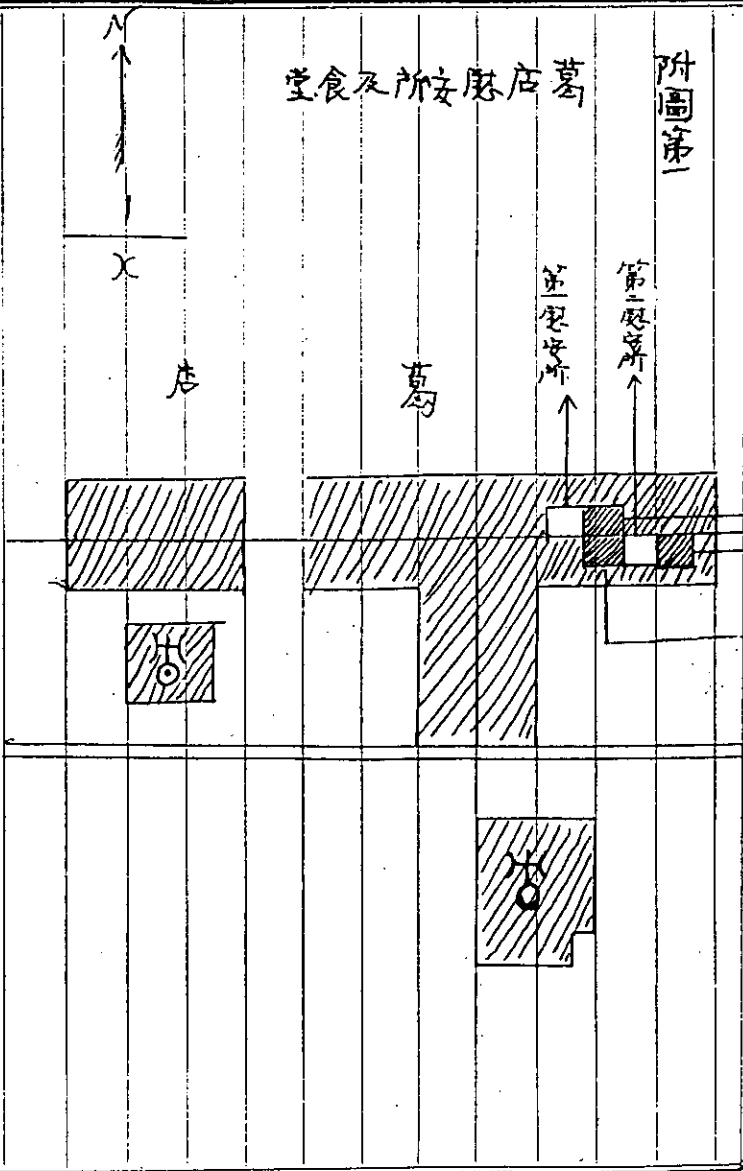
慰安所 検査及衛生施設指導

軍醫西各

食堂 三華容履

附圖第一

葛店慰安所及食堂



店

葛

第一慰安所

第二慰安所

三號

附圖第一

草容鏡安所及食堂

↑ ↑ ↑ ↑
X

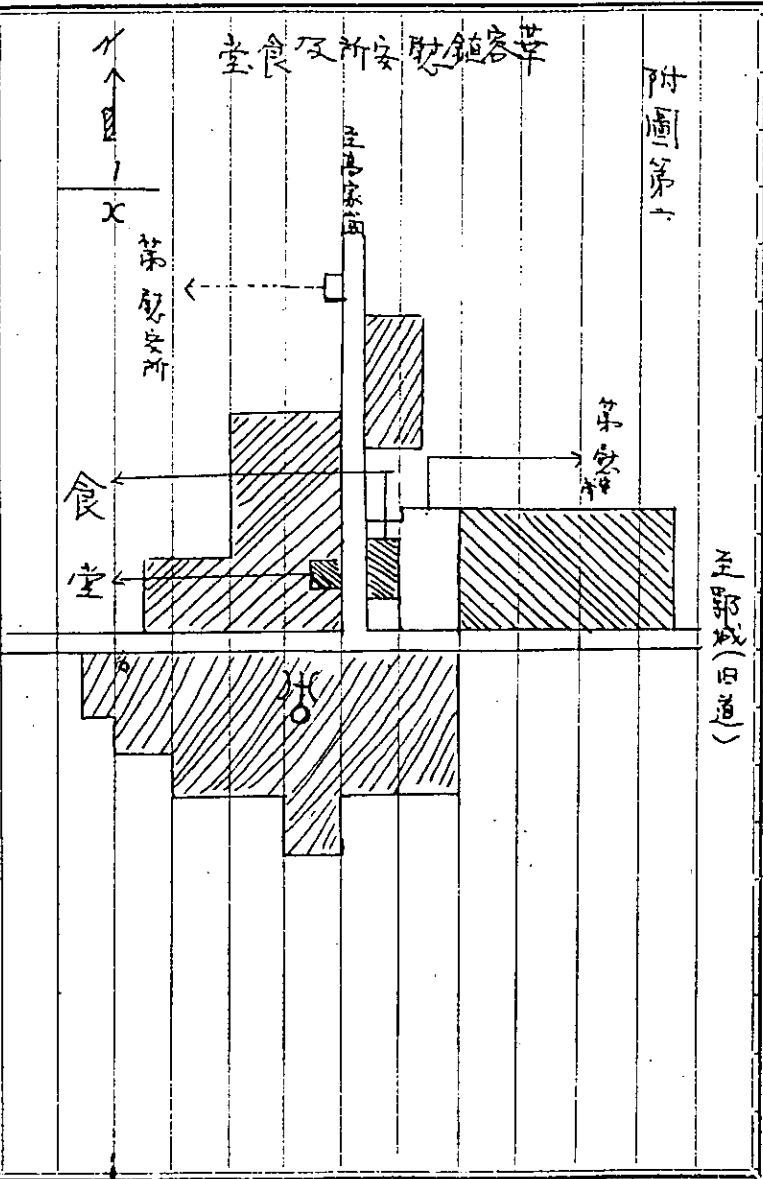
茶寮安所

食堂

茶寮

三武官(田道)

三羽衣(田道)



陸軍

③ 幹部二對スル衛生教育順序 [北支那派遣軍甲集團軍醫部] (昭15.11)

昭和十七年度
⑨
⑨

衛生関係参考書類綴

本館
衛生部
庶務課





衛生教育順序



(甲集團軍醫部)

一 保 育

二 結核豫防

三 不慮外傷豫防

四 「マラリア」豫防

五 凍傷豫防

二 口分間休憩 (佐覽品說明)

六 消化器傳染病豫防

七 花柳病豫防

八 衛生上ヨリ見タル兵要地誌ノ利用

備考 三月九十四百廿ニ正十四時ヨリ偕行者會議室ニ於テ實施ス

ルモノトス

常松軍醫少佐

小林軍醫大佐

林軍醫少佐

平野軍醫少將

三好軍醫中佐

西村軍醫中佐

服部軍醫大尉

平野軍醫少將

花柳病豫防

花柳病ハ身ヲ害シ家庭ヲ壞シ國ヲ亡ス

一、軍ノ性病豫防對策

工精神ノ教育及各種慰勞施設等ニ依リ、特殊慰勞所ニ入ル機會ヲ與テ
ル如クスルヲ第一トス

工傳染ノ虞アル者ハ治療ニ至ル迄内地ニ送送セス

工性病患者ハ治療後ト雖モ再発ノ虞アルモノハ其ノ旨現地陸軍士病院長ヨリ
出身地市町村長ニ通報ス

ニ花柳病ハ主トシテ性交ニ依リ感染シ藝妓ハ殆ント全部有患者ナリ依
テ性交ノ際ニハ次ノ豫防法ヲ確實ニ實施ス

イ、飲酒後性交シテハナラナイ

ロ、旗幟證明書ヲ確メヨ

ハ、性交前オニ洗滌セシメヨ

一、「ガック」ハ必ス使用セヨ

ホ、星砂膏ヲ使用セヨ、

性交前少量ヲ陰莖ニ塗リ次ヲ「サツク」ヲ被セ更ニ「サツク」ノ表面ニ少量ヲ塗リ残餘ヲ性交後尿道内ニ注入セヨ、

ヘ、用済後速ニ排尿及洗滌消毒ヲ行ヘ、性交後五分間以内ニ消毒セサレハ消毒ノ効ナシ

ト、歸營後齋務室ニ立寄リ處置ヲ乞フ

チ、異常ナル者ハ早期ニ良診シ徹底的ニ治療ヲ受ケヨ、

リ、色莖ノ者ハ花柳病ニ罹リ易キヲ以テ特ニ消毒ヲ嚴重ニ行ヘ

性病ニ關スル諸統計表

昭和十五年一月調査
北支派遣多田部隊司令部隊副島隊調査

性病患者感染機会調査表

区分	人員数	%
百集地	一五三	二・八二
戰地	二二七	四・一九
計	三八〇	六・八二

性病患者役種別調査表

役種別	人員数	%
現役	七五二	一三・八六
後備役	一九三	三・五七
補充兵	八〇八	一四・九一
軍屬	八五	一・五六
計	一、六〇八	二九・九〇

性病患者年齢別調査表

年齢別	人員数	%
三〇歳以下	一八	〇・三二
三〇歳以上	一、五九〇	二七・五八
計	一、六〇八	二七・八二

性病院患者病名別別疫日数調査表

病名別	延日数	%
淋病	九、〇七三	一六・三三
梅毒	六、九八二	一二・五二
軟性下疳	六、九〇五	一二・四一
計	一九、九六〇	三六・二六

性病院患者病名別別疫日数調査表

病名別	延日数	%
淋病	五、三三六	九・三三
梅毒	五、〇〇九	八・八二
軟性下疳	五、〇〇九	八・八二
計	一五、三五四	二六・九七

性病院患者病名別別疫日数調査表

病名別	既往之症	調査人員
淋病	一、六九	四、二〇四
梅毒	二、六七	二、六一〇
軟性下疳	二、六七	二、六一〇
計	六、〇三	一〇、四七四

調査人員七九三六名

調査人員一三九七名

調査人員五、四一八名

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

国籍別

国籍別	人員数	%
日本人	一、四三七	二六・三四
朝鮮人	二、四五五	四三・三二
支那人	一、五三五	二八・三七
西洋人	一	〇・〇二
計	五、四一八	一〇〇

区分

区分	人員数	%
淋病	一、三三六	二四・四五
梅毒	一、三三六	二四・四五
軟性下疳	一、三三六	二四・四五
計	三、九八	七二・六六

豫防法

豫防法	人員数	%
注射	二、六三五	四八・四五
洗滌	一、八七一	三三・四五
計	四、五二六	八二・〇〇

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表	人員数	%
淋病	一、三三六	二四・四五
梅毒	一、三三六	二四・四五
軟性下疳	一、三三六	二四・四五
計	三、九八	七二・六六

性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表	人員数	%
淋病	一、三三六	二四・四五
梅毒	一、三三六	二四・四五
軟性下疳	一、三三六	二四・四五
計	三、九八	七二・六六

性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表	人員数	%
淋病	一、三三六	二四・四五
梅毒	一、三三六	二四・四五
軟性下疳	一、三三六	二四・四五
計	三、九八	七二・六六

調査人員五、四一八名

調査人員一、二二〇名

調査人員五、四一八名

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表
性病院患者病名別別疫日数調査表

軍樞秘

⑳第一病院支那事變第八回功績概見表〔第一病院長〕(昭15・12・10)

支那事變

第八回功績概見表綴

特設部 特設艦隊

海軍武功調查

A33B

一病院
某十病院
第九

十二月十日進

事變第八回功績概見表
軍軍醫大佐 松見茂雄

第九
院長印
12.20
接

區分
功績
期
戰傷
病者
ノ
收容
揚子江部隊
及

病院
戰傷
病者
ノ
收容
揚子江部隊
及

名療
並ニ
後送
作
第一線
部隊ノ

業ニ
從事シ
尚
戰傷
病者ノ

常ニ
部内
及海軍
收容
名療
後送

警備
區内
ニ於ケル
ニ任
シ海軍
警備

傳染
病発生
ニ留意
區内
ニ於ケル
防疫

シ其ノ
狀況
調査
蒐
指導
並ニ
實施

集ニ
努力
ノ
更ニ
難民
以テ
武漢
ノ地ニ

區ニ
於ケル
檢病
白口
虎疫
侵入
ヲ完全

三十一

【中略】

病第	院一	護 檢 疫 自六月一日 至六月五日	從事	七九防疫	隊員	勳功乙														
戰傷病者ノ收容	名療拉ニ後送作	業ニ從事ニ部内	及海軍警備區内	防疫ニ從事又	收容患者 九五名	患者後送作業	六月二十八日	五〇名 年輩丸ハ												
楊子江部隊及	第一線部隊ノ	患者收容迄	療後送防疫	作業ニ從事ナリ	且前日第一回引	予防接種大體完	了七九尚引續	キ六月五日ヨリ淺水												
暑氣烈ナリ六月八日	防疫其他	諸作業遂	行益々	困難ヲ招来	特別報	棟地隊	可合官	淺日方面												
外未診療進救 七八名	齒科診療進救 一二七名	慰婦健康診断 二二名	慰婦入院治療 四名																	

二二二二四四

[中略]

病院	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	第一線部隊ノ戦	ノ收容防護
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者
婦科	検査 =	病第	戦傷病者ノ收容	揚子江部隊ニ	戦傷病者

(出)傳染病情報蒐集

社ニ通報 十五回

治療件数 五二七件

調劑件数 九一五八件

手術件数 二七件

エックス線撮影件数

五六八件

外来診療延数 一三六名

齒科診療延数 五八名

婦科健康診断 三五五名

慰安婦入院治療 一四名

先月下旬下旬患者

多発ニ考慮算五

航空隊ノ防疫作業

ニ協力スル等其ノ防

疫ニ對處ニ資跡

ハ極々大ニシテ

軍作戦行動上

寄與スル必甚大

ナリ

中略

病第																				
院																				
後疫ニ	疫	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒	毒
	九	月	九	月	九	月	九	月	九	月	九	月	九	月	九	月	九	月	九	月
	日																			
治療	戰	傷	病	者	ノ	收	容													
茲ニ	後	送	防	疫																
九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名	九名
子証	本	月	モ	引	續	キ	揚													
部隊	及	第	一																	

海軍

中略

		協功甲	防護係員	從事員	検査員	送高	第 元					
江上民船検病隻数	(一)検病作業	防疫作業	收容患者数八九名	疫作業ニ従事	治療後送並ニ防	戰傷病者ノ收容	慰安婦入院治療 六名	慰安婦健康診断 三四名	齒科診療進数 九三名	外来診療進数 七三名	三八七件	工ツク線撮影件数
密シ以テ部隊及	却内科ト連繫ヲ	作業ニ従事	治療並ニ防疫	傷病者ノ收容	第一線部隊ノ	揚子江部隊及			蓋シ對カラユルハシ	勅ニ貢献セリ所	大ニシテ軍作戦行	
武漢ニ於テ	遂行以テ	ノ任務ヲ	協力各自	全員一致	諸任務モ	盛夏ニ於テ						

(一一三二四)

【中略】

	病第 院一													
		自十月 至十月 五日												
	治療 社二部内及	戦傷病者ノ收容	慰安婦入院治療一。名	慰安婦健康診断三五二名	齒科診療延数七〇。名	外来診療延数五五名	三三件	エクス線撮影件数	午術件数 二件	調劑件数 七九八件	治療件数 四八〇件	社二通報 一〇回	而傳染病情報蒐集	
	第一線部隊	揚子江部隊及									大凡エト認ム	成果ハ極メテ甚	部隊ニ寄與セリ	
										院長著任	前任院長			十月五日

① 11月1日
~11月15日

所見	長官	所屬							
						慰安婦入院治療 二名	慰安婦健康診断 三三八名	齒科診療延数 三三八名	外来診療延数 三〇名

海軍

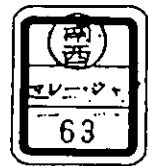
[以下略]

④ 1 歩兵第一聯隊第一大隊砲小隊陣中日誌 (昭16・1・16、5・3、6・20)

昭和十六年一月十六日 中國

步兵第十一聯隊
才一大隊砲小隊
陣中日誌

防衛研修所戦史部



上陸戦斗(砲撃ヲ、登陸)

射撃南急及解除砲制動作(直接間接照準)

分解搬送

要撃度換際五番砲ヲ多シ大下一等兵防楯ニ依リ

顔面ノ外傷ヲ受ク次々勢変換ニ際シ顔面ヲ餘リ乘リ出シ

ソルヲナリ將來共五番砲ヲハ此ノ點ニ注意シ前者ノ據

ヲ履ニアルト肝要ナリ

人員小隊長以下四名 馬匹一頭

人馬數

要

一月十六日(木)晴

月日

於吳淞兵營

位置

一日朝霧呼後繩梯子ノ登降及二科土嚢運搬駈歩ヲ

要實施ス

ニ九行銃測子被殺者曰下兵長以下六名及自動車

行

教育

于被教育者富同自凡三〇一等兵以下八名第一兵營三三〇至八

一演習三三三〇出場人員小隊長以下十五名

射擊用意及解除

砲制動作 (直接間接照準)

二衛生自二二〇衛生法 (元柳病予防法)

坪中衛生一等兵指導

三精神創始要旨一坪上一等兵處罰事情

二上官ノ指導ノ戰友ノ切磋

三陛下ノ赤子ニ親シ愛見郷黨ノ期待

不令ノ病人ノ悩ニ

四慰安所交通也

五早期受診

六信實必罰

七轉禍為福



月 日
位 置
行 事

出張 二名

給水班 二名

材料監視 一名

残留者 六名

計 五五名

五月三日(金) 兩

於寧波

一八時沖片上等兵以下十名糧秣受領ノ多ノ經理室使役

兵トシテ出場ス十三時受領ノ上歸營ス

二向片上等兵以下四名残留置中ノ迫撃砲運搬ノ多ノ大隊本

部使役兵トシテ十四時三十分出發中學校ニ到ル十五時

三十分歸隊ス

三残留荷物監視兵トシテ服務中ノ森一等兵任務終

西側地區ニ障地ヲ構築スベシ

九省界

十七發ハ楠本部隊長寧波到着時トシ

細部ニ関シテ別命ス

二携帶口糧 甲三日分(第二中隊ハ四日分ヲ携行

スベシ

三予ハ部隊本部ニ在リ

大本 部隊 長代理 小川中尉

下達法印刷交付

警備會報

一取締上必要ナル府寧波市内ニ臨時宿營部部隊アル時

ハ兵站部ハ速ニ部隊ヲ概略人員、場所ヲ警備

隊本部ニ通報ヒラ度シ

一江北岸ニ目下慰安所開設中ナルモ別命アル

迄立入ヲ禁止ス

月 日
行 務
事 置

六月二十日(金)晴

於 慈 鋤

一日朝點呼後保健運動ヲ實施ス

二七時三十分道路作業員小隊長以下七名出場ス

三九時大隊卸便物使役兵トシテ池本一守兵出場

又

四九時旧大隊本部宿舎整理ノ多栗原一守兵

以下三名渡邊 任長ノ指示ヲ受ク

五十四時ヨリ勤務下番者吉中七守兵以下五名之

ト飲料水運搬ヲ實施ス

六十七時三十分道路作業人員帰隊ス

七日夕點呼後軍歌練習ヲ實施ス

一 演藝場設備掛トシテ左記ノ通り明子日九時迄

日々命令

會報

二部隊本部前ニ集合シ狭ク尾少尉ノ指示ヲ受クベシ

服装ニ徒手帶劍卷脚絆トス

左 記

金子隊

兵 三

松永隊

下士官 一 兵 三

一衛生ニライテ

ノ各隊ニ快晴ノ日ヲ利用シ時々寢具被

服ノ日光消毒ヲ行ハシ度

ニ近時下利患者多シ

其ノ因トシテ果物多食ナルト未消毒ノマシ利

用スル 懸念アリ注意セシ度

一明後ニテ日ヨリ前慰安所跡ニ軍人俱

樂部簡設スルニ付利用セラシ度

④ 2 步兵第一聯隊第一大隊砲小隊陣中日誌 (昭17・3・20、27)

軍事極秘

自昭和十七年三月一日

至昭和十七年三月三十一日

陣中日誌

第五號

步兵第一聯隊第一大隊砲小隊 (製)

聯隊員令

勤勞

操ノ旨實施ス

十一月二十九日又 (ibid) 陸軍上等兵近藤信道

任陸軍伍長 (頭書ノ日附)

日直下士官 荒重兵長

日直上等兵 原田上等兵

北部部隊衛兵

歩哨 藤澤一等兵

同 平野一等兵

同 串田一等兵

同 田坂一等兵

炊事勤勞者 福川上等兵以下四名

小隊長以下四七名 (四酒保勤勞一名出張一名)

月日

三月二十日

金 耀



天候

晴 午後日雲り

位置

於「マラッカ」北部兵營

行事

一日朝點呼後駁歩及保健体操ヲ實施ス

ニ午前中全員以テ舍内外ノ大掃除及整頓ヲ實施ス

三十一時各隊長集合ノ為小隊長十一時大隊本部ニ

至リ十二時歸隊ス

四本曰大隊曰々命令ニ依ル兵團長南地區警備隊

視察ノ為徒手帶劍ニテ十六時三十分全員夫々

班内ニ整列ス

十七時兵團長兵營ニ到着小隊自取モ激烈ナル

戦闘ノ何處ノ戦闘ナリシヤト質問アリ七キ戰

友ノ勇敢ナル行動ヲ惚ビ生前ノ篤行ヲ讚ヘ

共ニ語りテ故人ノ冥福ヲ祈ルルハキコト次イデ

油断ナク現在ノ任務ヲ遂行スベキコト等溢ル、
如キ慈眼ヲ以テ醇々ト諭サル

十七時三十分巡視終ル

五十九時ヨリ全員自轉車ノ手入整備ヲ實施ス

六、日夕點呼後軍歌演習及保健運動ヲ實施ス

大隊員令 兵團長ハ本日南地區警備隊ノ警備状況視察

ノ為來馬セシム

依而別紙(省畧)兵團長警備状況視察計畫ノ

通り心得ハシ

以下者畧

一、慰安所ニ於ケル規定ヲ別紙(省畧)ノ通り定ム

追而「マラカ」警備並駐留規定中第五章一八項ハ之

ヲ削除シ慰安所使用配當日ニ依リ休務スベシ

(大隊砲小隊慰安所使用配當日毎週全曜日トス)



陸軍

歩哨掛 原田上等兵

歩哨 宮地一等兵

同 重田一等兵

同 藤澤一等兵

患者 炊事勤務者 福川上等兵以下四名

練兵休 森 一等兵 (水虫)

同 田坂一等兵 (左骨々折)

就 業 楠部一等兵 (マリア再祭)

小隊長以下 四七名 (酒保勤務一名)

月日 三月二十七日 金曜

天候 晴

位置 於マリア北部兵營

行事 日朝點呼後 駈歩及保健体操實施

二八時三十分ヨリ三十分間ノ豫定ヲ以テ各班内水洗ヒ
ヲ為シ清掃整頓ヲ實施ス

三檢舉セシ抗日分子容疑者革僑監視ノ為串田一等兵
以下三名十時大隊本部トニ去場ス

四本日ハ休養日ナルヲ以テ林軍曹以下三十七名極樂園及
慰安所ニ至リ十八時三十分全員異常ナク歸隊ス

五三月二十日日本酒五本受領セシ依リ十九時ヨリ小隊長以
下全員ノ會食ヲ實施盛大禮三十一時十分終了ス

大體日々令ニ爾今歩哨線ヲ通過スル住民ノ身体検査ハ實施
セザルモノトス

但シ特ニ疑ハシキ者ト認メタル(支那人土人ヲ問ハズ)モノニ

限リ検査スルモノトス

二二 陸軍一等兵 渡邊 數

〔以下略〕

④ 3 歩兵第一聯隊第一大隊砲小隊陣中日誌 (昭17・4・3、5)

軍事極秘

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

陣中日誌 第六號

歩兵第十一聯隊第一大隊砲小隊

月日
天候
位置
行事

四月三日 神武天皇祭 (金曜日)

晴

於マラカ北部兵營

一日朝點呼後 駈走及保健運動ヲ實施ス

二本日ハ神武天皇祭ナル以テ十時ヲ期シ各隊毎ニ遙拝式ヲ舉行ス

小隊ハ車庫裏 柳下林ニ至リ全員整列十時ヲ期シ
小隊長ノ聲イットモ嚴カニ神武天皇御代ヲ徳ヒテ、遙
方敬傍山ノ東南樞原神宮ニ向ヒ拝禮ヲ行フ

人員

小隊長以下 四三名 (古酒保勤勞一名)

クワランブル 去張二名

計 四五名

月日

四月五日 (日曜日)

大候

晴

位置

於マカカ北部兵營

行事

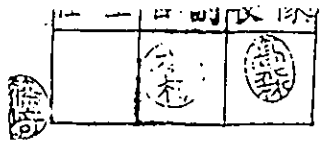
一日 朝點検後 駐安及保健運動ヲ實施ス

二三日 全曜日 (小隊休務日) = 於カカ勤勞者 林軍曹以

下六名十時ヨリ市中慰安所及娛樂場ニ外出ラシム

十九時全員異常ヲ歸隊ス

三 昨四日大隊砲彈道試驗射撃ニ於ケル 彈著調査



④ 獨立山砲兵第三聯隊陣中日誌 (昭16・4・9)

自昭和十六年四月一日
至昭和十六年四月三十日



陣中日誌

獨立山砲兵第三聯隊

日日命令

米村

四月九日

一 高森部隊特殊慰安業務規定中第一五、第一六ヲ
左ノ如ク改正ス

第一五 慰安所ヲ利用シ得ル毎日ノ時間左ノ如シ

兵 〇九、〇〇ヨリ夕食一時間前迄

下士官 〇九、〇〇ヨリ日夕点呼三十分前迄

准士官以上 点呼後ヨリ利用スル事ヲ得

第一六 慰安所 料金ヲ當分ノ間左ノ如ク定ム

兵 三十分 一円

三十分ヲ増ス毎ニ五十銭ヲ増ス

下士官 三十分 一円二十銭

三十分ヲ増ス毎ニ一円ヲ増ス

Ⅲ
將
校

一時間三円
 一時間ヲ増ス毎二円ヲ増ス
 宿泊二十二時以降八円

④步兵第一聯隊第七中隊陣中日誌 (昭17・3・23、4・3)

軍令極秘

自昭和十七年三月一日

至昭和十七年三月三十一日

陣中日誌

第五號

步兵第一聯隊第七中隊



會報 八

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

南營備隊會報 三月二十三日 一部隊本部

一各隊ハ惡夜ハ夜敵ノ折柄 毎日蠟取時間ヲ指定シ

或ハ每週直轄日ヲ決定シ殺蠟ヲ勵行スルト共ニ

マシリテ豫防ニ努メラシ度

南獲冷ニ起因スル下痢患者發生ノ微アリシ布

或ハ敷布ヲ腹ニ巻テ穿道宜ノ方法ヲ講ジ以テ之ガ

防ニ努メラシ度

一兵站ニ於テ指定セル慰安所ノ外 私娼家屋ニ立

入りテ嚴禁ス

一蒸餾用自轉車ヲ私用シタメ使用スルトヲ禁ス

南營備隊會報 三月二十三日 一部隊本部

一三月八日信差ノ路ヲ以テ通牒セシ軍事郵便

物通深路夜用例中

會報 九



會報

現在員

月 日

勤務

第三分 哨 考 本 次 長 以 下 五 名

第四分 哨 打 坂 伍 長 以 下 七 名

五 歩 兵 第 十 聯 隊 會 報 四月二日 一 部 隊 本 部

一 別 紙 豫 定 表 二 基 本 聯 隊 兵 器 修 理 ヲ 實 施 スルニ

付 録 ノ 準 備 セ ラ レ 度

九 二 名

四月三日 全曜日 晴後雨 於クカラヒナリ

一 中 隊 八 九 時 三 分 橋 本 少 尉 以 下 三 十 六 名 上 レ ン ビ 方 向

掃 蕩 後 ノ 再 調 査 ヲ 實 施 セ シ ム 十 三 時 五 分 全 員 退 去 事

歸 隊 シ 不 傾 分 子 一 名 ヲ 刺 殺 ス

二 本 日 ヲ リ 冠 安 所 開 設 セ ル ヲ 以 テ 午 後 一 般 ニ 休 養 セ ン

本 日 警 備 更 番 七

三 本 日 警 備 累 勤 務 員 戶 如 下

迷 途 下 士 官 中 隊 軍 一 勤 員

東京・大橋時

以下略

④野戰高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌 (昭17・4・3、5・14)

46. (海)

47.

48. (海)

昭和十七年

野戰高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌

防衛研修所戰史部



4/3

45

五 外出時ニ於テ物品ヲ勉メテ購入セザルニト

軍ニ於テ近ク酒保ヲ開設シ物品ヲ廉價

ニ販賣スルヲ準備中

(三) 册日ヲ慰心安場ヲ開設セルニ付左記ノ通ク心得ヘ

ニレ度シ

左記

一 場所 南兵營步兵第四七聯隊東側

二 價格 將校 一時間 二月

下管 同 一月五十錢

兵 同 一月

代價ハ絶對ニ嚴守セシ度シ

三 慰問安公偶總計目下四口名ヲ左記布

片ヲ以テ衛生状態ヲ区分ス

白 許可済ナルモ衛生具使用ノコト



陣中日誌用紙

桃 要注意

赤 不許可 有毒患者

四方法 入口左側事務所より代金を支拂ひ

切符を渡取り、集合所より女子共の切符

可渡大

五注意 入口以外に入場禁止遊ハカルテ

言語等不可解、暴行セザル

大慰安場使用時間

兵自九時

下三時

一六、〇〇
一一、〇〇〇

(三) 左記ノ位置ニ映画機開放セラル

映画ハ一週間毎ニ替リ一日一回ナ

四 冒一日ノ電灯水道料ヲ支拂ウ如クナラタルニ付

特ニ電灯節約ヲ嚴シク實行セラル

(家賃ニ支拂ハカルモノトス)

陸軍

字挿消
字挿入

字挿消

5/14

命令受領

下達法 命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

左記命令ヲ受領ス

左記

會報

五月十四日 一六〇〇
スラバヤ市

一 五月十五日開催豫定ノ將校集合ノ教育ハ都合ニ

ヨリ中止ス

二 左記ノ通り通情報アリタリ

左記

確實ナル情報ニ依リテ米陸軍機ノ表式左ノ如ク

変更セラルルコトナリ
レタルコトナリ

一 赤色圓ヲ除ク

二 尾翼赤色並ニ白色横線ヲ除ク

三 飛行實施ニ關シ別紙寫ノ通ヲ通牒アリタリ

四 五月十四日 十五日 兩日南慰安所閉鎖サレ付立

抹消

(B4)

(47)

陣中日誌用紙

陸軍

人員

映画観覧

五月十五日

天候

任務及陣地

外出

命令受領

入ラザル様セラレ度シ

五南北兩慰安所ノ有毒婦ヲ上野驛南地區ニ收

容セラレタル付キ絶対ニ先入ラザル様セラレ度シ

中隊長以下五十六名

自一六三三〇
至二二三三〇 中隊長以下三十名マキレム映画館ニ於テ映画

観覧

金曜日

晴時々雨

兵站病院西南方ニ在リテ工場地帯 市重要施設

中野兵營並東京新橋兩驛ノ掩護ニ任ス

至一八〇〇〇 白石軍曹以下二十五名スラバヤ市内ニ外出ス

左記命令ヲ受領ス

左記

〔以下略〕

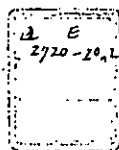
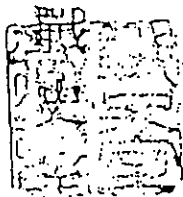
返還史料

④ 父島要塞司令部參謀部陣中日誌 (昭17・4・11、14、16)

自 昭和十七年一月一日
至 昭和十七年二月二十五日

父島要塞司令部參謀部
陣中日誌

防衛研修所
昭和十七年二月一日
父島要塞司令部參謀部



同下士官 陸軍曹長 菊地里留

右頭書ノ通 至四月十八日 間司令部 週番勤務ヲ命ス

防衛報告 四 本月十日父島 要塞管内 防衛上異状ナシ

略諦電報 五 發信電報 八通

發著信 著信電報 三通

其他 大出張中 小嶋中佐 重井少尉



四月十日 兩發 一 父島 要塞 日々命令

日 命 昭和十七年度 父島 要塞 主要 行事 豫定 表 左ノ通

リ訂正ス

在母島 歩化 工兵 諸隊 定 五月 二十七八日 同月 二十八

日ニ致ム

防毒具ニ関 二 父要 參電 第一一三 節

スル件 一月二十八日 陸密 第一二六 四 節 二 依ル 完防 及 整防 各 三十

組部 教育用トシテ至急交付相成度

正式申請書類十七日頃發便船ニテ提出ス

補充交代ニ

三。父要参電第一二四號

関スル計畧表

「父島要塞司令官ヨリ小嶋中佐へ

中訂正ノ件

ノ補充交代ニ関スル計畧表中重砲兵隊隊兵科永年計

畧中編成定員ノ兵及合計ニ各二十名ヲ加フ

ス。要塞部隊ヲ通ジ九三名ノ現役兵ヲ計畧シテ削除ス

之ガ訂正ハ玉井中尉携行セリ

父要参電才

四。東軍参電第九三號

二。歸返

「父要参電第一一〇號返異存ナキ付貴部ニ於テ交渉

ノ上處理セラレ度

又慰安婦ハ出發準備完了シアル由何日頃出發セシム

可ナリヤ

東軍参電

四。父要参電第一一五號

第九三號迄

「東軍參電 第九三號 返慰 安婦ハ設備 完了 次 茅 報告

スベキニ付 御指導アリ度

現在ノ度 五月中旬ノ豫定

防衛報告

五「本十一日父島要塞管区内防衛上異状ナシ」

防衛電報

六「發信電報 五通」

發若信

若信電報 大通

其他

七出張中 小嶋中佐 重井少尉

四月十二日晴

防衛報告

一「本十二日父島要塞管区内防衛上異状ナシ」

防衛電報

二「發信電報 ナシ」

發若信

若信電報 ナシ

其他

三出張中 小嶋中佐 重井少尉



四月十三日暗	防衛報告	小嶋中佐ヨリ	<p>一、本十三日父島要地管区内防衛上異状ナシ</p> <p>二、東平副區第一九班</p>
暗部電報	發著信	共他	<p>「八十三日無事早司令部ニ出頭ス</p> <p>又補充交代ニ就テハ其ノ後方針ニ変更アリ関係書類ハ</p> <p>十七日發ノ英國丸ニテ發送セラルル筈ニ付更ニ計出テ</p> <p>復興セラレ度</p> <p>三、暗部教育派遣者ハ十七日出發セシムル豫定ナリ</p> <p>又關係各隊へ連絡ヲ完フ</p> <p>三、發信電報 四通</p> <p>著信電報 四通</p>
四月十四日暗	一、父要參電第一一七班	四、出張中 小嶋中佐 重井少尉	

業者又等外

酒保ノ件

「田島 参謀へ

ノ業者ノ為ノ建物ハ目下計画中ニシテ五月末日完成スル
豫定ナリ

又右業者ノ世帯ノ数並ニ總人員家族ト冠安婦ニ区分概
数ヲ承知致度

3. 營外要歴酒保ハ目下開設準備中ナリ

内衛報告

二「本十四日父島要歴管区内内衛上異状ナシ

暗部電報

三 発信電報 大通

發着信

着信電報 ナシ

其他

四 出張中 小嶋中佐 重井少尉



四百十番員

一 父要参電第一一八號

「東六一編第一九號 四月十五日受付便船ナキ關係上五月
十日頃提出ノ豫定ニ付承知アリ度

防衛報告

二「本十吾父島要塞管区防衛上異狀ナシ

暗部電報

三發信電報 二通

發着信

著信電報 二通

其他

四出張中 小嶋中佐 重井少尉

四月十六日

一東軍司令部券一三五號

業者三箇人

「 小嶋中佐ヨリ

九件

特殊飲食在八十五名宛 二新ノ豫定ナリ

業者(中村)十七日芝園丸ニテ先發ノ管 連絡セラレ度

防衛報告

二「本十六日父島要塞管区防衛上異狀ナシ

暗部電報

三發信電報 ナン

發着信

著信電報 一通

其他

四出張中 小嶋中佐 重井少尉



④12 父島要塞司令部參謀部陣中日誌 (昭17・5・9、12)

自昭和十七年五月一日
至昭和十七年五月參登日

父島要塞司令部參謀部陣中日誌

〔前略〕

紙	紙
一枚	一枚
附圖	一枚

五月九日曇

一本九日内務教育檢閲ヲ實施セリ

自一五〇〇
至一五〇〇

補助官 大島中佐 小嶋中佐 大峽大尉 新田中尉

玉井中尉 重井少尉

防衛報告

二本九日父島要塞管区内防衛上異狀ナシ

娛樂所ニ

三束部軍參縮電第ニニ部

閑スル件

娛樂所(支洲崎ヨリ二十六名 吉原ヨリ十五名業者ニ於

テ準備シテリ)十五名頃出帆ノ芝園九ニテ輸送ノ豫定

ナリ 人員ノ數差支ナキヤ返

暗號電報

四 發信電報 一通

發著信

著信電報 二通



五月十日
六兩

防衛報告

防空情報

暗部電報

發著信

五月十一日兩

防衛報告

暗部電報

發著信

一本十日父島要塞管五内防衛上異狀ナシ

二東軍參電等一二部

防空情報 米陸軍機ハ主要ヨリ赤色丸ヲ及尾翼

ヨリ赤色及白ノ線ヲ除クコトトセルモノ如シ

右ノ情報ハ眞偽疑ハシキモ参考也

三 發信電報ナシ

著信電報一通

一本十一日父島要塞管五内防衛上異狀ナシ

二 發信電報 三 通

著信電報 二 通



三月十日晴

海隆丸ニ

関スル件

一又妻参電第百四一第

「海隆丸出港ニ関シ宇品船舶輸送司令部ニ左ノ如

ク打電セリ

海隆丸(三八二)本十日左記ノ通り搭載終了ス

出帆日時十三日。七。〇。ノ豫定(東京向ケ出帆途中八丈

島ニ單大ヲ下船セシムル爲寄港ス)十七日早朝入港ノ

豫定ナリ

左記

彈藥及信管

三四八九梱

空樽(煙絲関係)

六九三梱

ビール其ノ他空壇

四七八梱

單人單夫東京府労務者等 七四名(内單夫一九名八八丈

島ニテ下船)

地區隊長

二 東軍參電第一二二號

二 関スル件

陸軍重砲兵學校要塞地工隊長學生トシテ高嶺一雄少
佐(片山少佐ノ交代者)ヲ分遣スルコトニ定メラル

高嶺少佐ハハ傳達者

防衛報告

三 本十日父島要塞管区内防衛上異状ナシ

娛樂片ニ

四 東部軍參編電第一二二號

関スル件

十五日出帆芝園丸ニテ洲崎、吉原ヨリ女各十名宛附屬
人員十名合計三十名貴地ニ到ル一應到着後ノ處置
茲ニ爾後ノ娛樂場ニ関スル件ハ貴部ニ於テ業者ヲ指
導セラレ度

五 健脚部隊競走訓練規定ヲ別冊ノ通り各隊ニ配布ス

昭報電報

六 發信電報 五通

發若信

若信電報 四通



④步兵第一聯隊第三中隊陣中日誌 (昭17・4・24)

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

陣中日誌

第六號

步兵第十一聯隊第三中隊



〔前略〕

四月二十四日	一〇八〇。起床點。午後宿舍附近ニ於テ駢歩並體操ヲ實
金曜日	施ス
晴	ニ自二〇〇〇至二〇〇〇。小隊宿舍ニ於テ中隊長、橫路少尉以下四十三
於レセルニ	名ニ對シ精神訓話ヲ支那事變間ノ陣中美談ニ就テ
	テ支那事變中江陰要塞攻撃ニ際シ兩角田代部

隊ニ屬スル某工兵隊ノ勇敢適切ナル諸行動ヲ話シ
 ソレニ關聯シテ吾々ハ常ニ大命ノ下ニ任務遂行ノ爲
 其ノ死場所ヲ選ブノ觀念ヲ肝ニ銘シテ戰鬥間駐留間
 共ニ行動ス様、尚今次馬來作戰間生死ノ巷ニ彷徨シテ
 感シシ自己ノ死生感ヲ精神修養ノ資トシテ大イニ社會ニ
 出デテモ活用スル如ク訓話ス

三、自一、一、五 蹴球ヲ實施ス
 至一、一、〇、〇 横路少尉以下ニ三名宿舍前廣場ニ於テ體操也

會報

四、南警備隊會報

四月二十四日二〇〇〇
 セレニ警備隊本部

一、ネグリセンピラン州廳使用ノ自動車ハ爾今左記ノ通り
 標識ヲ定メタルニ付承知セラレ度

知事標旗



軍政部
 ネグセピラン州
 知事 啓

一、慰安所ニ於テ切符ヲ購入スルコトナク慰安スル者アリ必ズ事前ニ切符ヲ購入スルヲ要ス各隊巡察將校モ亦此ノ點ニ著意シテ巡察スルト共ニ違反者了ラハ速ニ報出セラレ度

五、自一五〇〇雨ノ爲全員班内ノ清潔整頓ヲ實施ス

六、自二〇三〇將校宿舍ニ於テ横路少尉指導ノ許ニ新上等兵十三名ニ對シ步兵操典ニ基キ學科ス

七、自二〇〇〇白井軍曹以下三十五名點呼場ニ於テ軍歌演習並號令調整ヲ實施ス

勤務

八、日直下士官 三浦軍曹

日直上等兵 平井上等兵

部隊衛兵 菓研地伍長以下八名

中隊衛兵 山本伍長以下五名



九、中隊長以下 七十六名

④獨立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌(昭17・4・30)

軍事極秘

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

Woch
67288

陣中日誌

第七號

獨立自動車第四二大隊第一中隊

第一中隊之印

調製部教習部内
第八號

207326
207376

CAPTURED AT
HUMBOLDT
3 May 44

5

冒
三日

一昭帝島ニ駐留ス
ハ一部ヲ以テ前任務ヲ續行主力
ニ中隊乗二小隊久ハ一社建設ニ協力夫々左ノ如ク

ヲ以テ引續キ昭南神社建設ニ協力夫々左ノ如ク
輸送ニ任ス

(イ) 率一小隊五輛ハ碇泊場司令部ニ協力機装材料
並ニ碇泊場材料ヲ西埠頭ヨリ東埠頭ニ輸送シ

一八三。歸隊ス又他ノ五輛ハ第五師團追送賞
物ヲ輸送ニ任シ昭南歌ヨリ中央埠頭ニ七回往

復輸送シ一八。歸隊ス
築三小隊一。獨ハ昭南神社建設ニ協力砂利ヲ

(ロ) スクダイヨリ昭南神社建設地ニ輸送一六。〇

歸隊ス

一八。〇左ノ獨自五七作命隊八四排受領ス

獨自勳車第五十七火隊命令
昭南三島

三

獨自勳車第五十七火隊命令
昭南三島

六、一八〇。左ノ會報下達ス

會報

本日部隊長ヨリ左ノ如キ注意並ニ指示アリタル

付一振ニ徹底セシメラレ度

高松宮殿下ニ八目下當地ニ觀察ノタメ御來訪

警戒ニ就テ

當地域ハ一般ニ治安確立シアルモノノ如ク

ナルモスマトヲ方面ニハ屢々敵機襲來シツ

アル狀況ニ鑑ミ上空ニ對スル顧慮尚等閑

ニセザル様尚當市ハ警戒管制ヲ實施中ナリ

海上ニ於テモ往々怪行動船舶ノ出沒ヲ見又

潜水艦ノ顧慮ナシトセス一般ニ注意ヲ要ス

又鐵道沿線ニダイナマイト等ノ埋設セラレア

ルヲ聞ク

又市中ニ於ケル抗日分子ノ檢舉等ニ當リテモ

日本軍人襲撃等ヲ企圖シアルカ如シ

以上ノ如キ狀況ニ見ルモ中隊精營地ノ警戒ハ

以上ノ如キ狀況ニ見ルモ中隊精營地ノ警戒ハ

19

至服ナルヲ要シ一般ハ勿論警戒勤務者ハ確實
ニ服務スルヲ要シ二十三時以後地方人ノ通
行ヲ禁止スヘシ

三 自動車事故ニ就テ

屢次ニ亘ル注意ヲ遵行シ特ニ速度並交通規定

ヲ嚴守シ事故ノ絶無ヲ期スヘシ

四 慰安ニ就テ

ノ海岸附近ニ「パール」アリ一般軍人ニ開放セラ

レアリ外日等ニ於テ將校ノ指揮ヲ以テ水

浴スルヲ可トス

又 稽定以外ノ慰安所ハノ立入ヲ禁止ス

日本軍人暗殺ノ計画アリ外ニ當リテハ必

ス三名以上連行ノ規定ヲ嚴守スヘシ

七 本日ノ勤務者左ノ如シ

日直將校 山本中尉

日直下士 中村中尉

八 警戒ハ指揮班並ニ各小隊分指ノ位置ト於テ夫々

七

④クワラピラ・バハウ駐留規定「クワラピラ警備隊長」(昭17・4・25)

昭和十七年四月二十五日

クワラピラ
駐留規定
バハウ

クワラピラ警備隊長

トス

ノ外出區域ハ「グワラピラ並バハウ」警備地域内トス

（附圖第一第二）

休務日ニ於ケル外出ニ關スル規定ハ總ベテ「セレム
パン」駐留規定ニ依ルベシ

公用外出者並一般休務日ニ於ケル外出者ハ當分
間町内ニ於ケル飲酒食ヲ嚴禁ス

但シ慰安所内ニ設置シアル飲食店内ノ飲食此
ノ限リニアラス

公用外出者ニ付テハ「セレムパン」駐留規定ニ依ルモノ
トス

第五 非常及火災

三、非常及火災ニ際シテハ「セレムバン」駐留規定ニ依ルル外
 左ノ如ク處置スルモノトス

一、非常及火災ノ際ハ機ヲ失セズ臨機ノ處置ヲ執ル
 ト共ニ遠ニ警備隊長ニ報告スルモノトス

二、非常ニ際シテ警急集合場（クワラピラ及バハウ共宿
 舎前廣場）ニ集合シ別命ヲ待ツベシ

服装ハ特ニ示サザル場合ハ軍装ニシテ背囊ヲ除キ
 彈藥ハ定數ヲ携行スルモノトス
 自轉車ヲ携行ニ付テハ別命ス

第六 衛生

『編纂資料』一 戦女性のためのアジア平和国民基金編
『政府「従軍慰安婦」関係資料集成②』
防衛庁関係公表資料(出)

一九九七年三月二十日 第一刷発行

揃定価 一〇〇、〇〇〇円(税別)

後藤 乾一

編集代表 高崎 宗司

和田 春樹

装 幀 三谷 鞆彦

発行者 北村 正光

発行所 饅龍溪書舎

東京都板橋区南町43-4-103

郵便番号 一七三-〇〇二七

電話 〇三-二三五五四-八〇四五(代表)

FAX 〇三-二三五五四-八四四四

振替 〇〇一三〇-一七六一二三

印刷 勝美印刷 製本 岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1